樽味遺跡Ⅳ

―樽味遺跡4次調査―
―樽味遺跡5次調査―
―桑原西稲葉遺跡3～5次(北吉井団地)調査―

愛媛大学埋蔵文化財調査室

2003

樽味遺跡Ⅳ

―樽味遺跡4次調査―
―樽味遺跡5次調査―
―桑原西稲葉遺跡3～5次(北吉井団地)調査―

愛媛大学埋蔵文化財調査室

2003

序　　文

愛媛大学は、松山市および愛媛県内各所に大小のキャンパスをもち、敷地総面積は464ヘクタールに及ぶ。本部事務局と４つの学部が所在する城北地区には文京遺跡、農学部と附属高等学校がある樽味地区には樽味遺跡、国際交流会館がある鷹子団地では鷹子遺跡など、数多くの遺跡をかかえている。愛媛大学では、埋蔵文化財調査室を設置し、こうした埋蔵文化財が諸工事で影響を受ける場合、影響度に応じて、本格的な全面調査、試掘調査、立会調査の方法で発掘調査を実施し、保護処置を講じている。また、1992年度からは、大学構内における埋蔵文化財の有無や精度の高い分布状況を把握するため確認調査を実施している。

こうした調査の成果は、客観的な資料化を進め、調査報告書にまとめて公開する必要がある。この報告書の作成を通して初めて、遺跡の評価が行われるのであり、文化庁からも、調査終了後速やかな発掘調査報告書の刊行が促されている。

ところが、本格的な全面調査については、調査報告書刊行には現地での発掘作業と同等、あるいは出土遺物量やその質によっては、それ以上の時間を記録類や出土品の整理作業に要することになる。愛媛大学の場合、出土品の多さと、1995年から続く頻繁な発掘調査によって、速やかな報告書刊行を容易に行えない状況にあった。そこで、大学事務局と協議を行い、全面調査の報告書刊行にむけて埋蔵文化財調査室の体制を再整備し、整理作業を前進させることとなった。これと同時に、2000年度からは、全面調査の概要報告と試掘・立会・確認調査の小規模調査の報告をあわせた年報を刊行してもいる。

本書は、そのような体制整備により着手した報告書刊行作業を承けて、最初に刊行する報告書である。樽味団地で行われた1997年度の樽味遺跡４次調査と1999年度の樽味遺跡５次調査、さらには北吉井団地の桑原西稲葉遺跡調査報告を加えたものである。主たる調査遺構が流路であったり、あるいは調査区が狭い範囲であったりと成果は断片的であるが、樽味団地周辺の遺跡の広がりを把握するのには、良好な資料を提示できた。

本書をまとめるにあたり、多くの機関・部局・個人の方々から協力を得てきた。その労に深く感謝するとともに、本書が大学内外の多くの方々に利用・活用されることを祈念します。

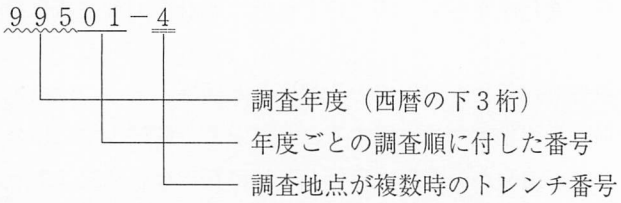
平成15年２月１日

愛媛大学埋蔵文化財調査室
室長　下　條　信　行

例　　言

1　本書は、愛媛大学埋蔵文化財調査室が1997年度に実施した樽味遺跡４次調査と、1998年度に実施した樽味遺跡５次調査、さらに1994年度と1997年度に実施した桑原西稲葉遺跡３～５次（北吉井団地）調査の報告書である。愛媛大学埋蔵文化財調査報告Ⅸにあたる。

2　埋蔵文化財調査室では、事前全面調査・遺跡範囲確認調査については、遺跡毎に調査次数を付しているが、同時にすべての小規模調査も含めて、1975年から始まった大学構内の発掘調査まで遡って調査番号を与えている。調査番号は、西暦の下３桁の後に各年度ごとの調査順に01からの２桁の通し番号を加えた５桁の番号で表示している。調査番号に加えて、複数の地点（トレンチ）を調査した場合、－の後に地点番号を付して表示している。



3　本書で表示した座標・標高・方位は、樽味遺跡４次調査・５次調査では、日本測地系（Tokyo Datum）平面直角座標系Ⅳ系にしたがった。桑原西稲葉遺跡３～５次（北吉井団地）調査では、松山市作成都市計画図（縮尺１/500）に基づき、標高は略測、方位は磁北を示す。なお、図１の作成に当たっては国土交通省国土地理院長の承認を得て、同院発行の１/25,000の地形図「松山北部」・「松山南部」を複製したものである。（承認番号：平15複、第17号）。また、図３・30・117・121・122は、松山市作成都市計画図（縮尺１/500）を用いて作成した。

4　土層・遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』（1967）に準拠している。

5　本書に使用した遺構図は田崎博之・吉田広・三吉秀充・宮崎直栄・平塚幸人が作成・製図を行った。縮尺は１/40を基本とする。ただし、樽味遺跡５次調査では１/80を基本とし、部分的に１/40で提示している。

6　本書に使用した遺物図は、上山喜也・嶋田史子が作成・製図を行った。縮尺は１/４を基本とする。また、担当した遺物の観察表作成と本文記述についても、上山・嶋田が行った。

7　本書で使用した遺構写真は、田崎・吉田・三吉が撮影し、遺物写真は吉田が撮影した。

8　本書は吉田・三吉・上山・嶋田が執筆し、編集を下條信行の指導のもとに、田崎・三吉・宮崎・横本順子の協力を得ながら、吉田が行った。執筆の分担は目次に示した。

9　本書に関わる記録類・出土遺物は、愛媛大学埋蔵文化財調査室において、以下の方法で保管している。

図面類

調査時に作成した遺構図等は、番号を付して遺構実測図台帳に登録し、整理・保管している。

遺物実測図も、同様に番号を付して遺物実測図台帳に登録し、整理・保管している。

写真類

フィルム（35㎜モノクロ・35㎜カラースライド・６×７モノクロ・カラースライド）毎に番号を付し、カット単位で検索用カードを作成し、写真台帳に登録し、整理・保管している。

出土遺物類

各調査を示す略号（樽味遺跡４次調査；TRM４、同５次調査；TRM５）、あるいは調査番号（桑原西稲葉遺跡３次調査：99401、同４次調査；99710、同５次調査；99711）と、出土遺構・遺物取上番号（Rあるいはrを冠した番号）を注記して、遺物台帳に登録している。報告遺物は報告書挿図単位で、それ以外を取上番号に基づき遺構単位で、番号を付したコンテナ箱に収納・保管している。なお、報告書掲載遺物は、出土遺物観察表の実測番号を別色で追加注記し、検索できるようにしている。

目　　次

Ⅰ　遺跡の環境と基本層序　1
1　位置と周辺の遺跡　（三吉秀充）　1
2　遺跡の範囲と基本層序　（吉田　広）　5

Ⅱ　調査・整理の体制　（吉田　広）　7

Ⅲ　樽味遺跡４次調査　9
1　調査の経過と方法　（吉田　広）　9
2　調査の概要　（三吉秀充）　11
3　調査の記録　（吉田　広・三吉秀充・嶋田史子）　12
4　ま　と　め　（吉田　広）　38
出土遺物観察表　（嶋田史子）　41

Ⅳ　樽味遺跡５次調査　47
1　調査の経過と方法　（吉田　広）　47
2　調査の概要　（　〃　）　49
3　調査の記録　50
i　Ⅰ区の調査　（吉田　広・上山喜也）　50
ii　Ⅱ区の調査　（　〃　）　67
iii　Ⅲ区の調査　（　〃　）　105
iv　Ⅳ区の調査　（　〃　）　114
v　Ⅴ区の調査　（吉田　広・嶋田史子）　124
vi　Ⅵ区の調査　（吉田　広）　132
4　ま　と　め　（　〃　）　134
出土遺物観察表　（上山喜也・嶋田史子）　140

Ⅴ　桑原西稲葉遺跡３～５次（北吉井団地）調査　157
1　調査の経過と方法　（吉田　広）　157
2　調査の概要　（三吉秀充）　159
3　調査の記録　161
i　３次調査　（吉田　広・三吉秀充・上山喜也）　161
ii　４次調査　（　〃　）　170
iii　５次調査　（　〃　）　189
4　ま　と　め　（三吉秀充）　192
出土遺物観察表　（上山喜也）　194

図　　版

図版目次

図版１　樽味遺跡４次調査(1)
1　完掘全景（北西から）
2　完掘全景（南西から）
図版２　樽味遺跡４次調査(2)
1　完掘全景（北東から）
2　SR-１（北東から）
図版３　樽味遺跡４次調査(3)
1　SR-１北壁土層（南から）
2　SR-１北壁土層西肩部（南から）
3　SR-１中央畔土層（南西から）
4　SR-１中央畔土層（南から）
図版４　樽味遺跡４次調査(4)
1　SD-２（東から）
2　SD-２（東から）
図版５　樽味遺跡４次調査(5)
1　SD-２西畔土層（南東から）
2　SD-２中央畔土層（東から）
3　SD-２東畔土層（東から）
4　SK-56・57（北から）
図版６　樽味遺跡４次調査(6)
1　SR-１砂層出土遺物
2　SR-１砂礫層出土遺物①
3　SR-１砂礫層出土遺物②
4　SR-１砂礫層出土遺物③
5　SR-１砂礫層出土遺物④
6　SR-１砂礫層出土遺物⑤
図版７　樽味遺跡４次調査(7)
1　SR-１砂礫層出土遺物⑥
2　SR-１砂礫層出土遺物⑦
3　SR-１砂礫層出土遺物⑧
4　SD-２下層出土遺物
5　暗褐色シルト質土出土遺物
6　明褐色砂質土出土遺物
図版８　樽味遺跡５次調査(1)
1　Ⅰa区完掘（東から）
2　SC-４・SD-６（西から）
3　SD-６土層（南から）
4　Ⅰb区完掘（東から）
5　SD-10（南東から）
6　SD-９土層（北から）
図版９　樽味遺跡５次調査(2)
1　Ⅰc区完掘（東から）
2　Ⅰd区完掘（東から）
3　Ⅰe区完掘（南東から）
4　Ⅰf区以西（東から）
図版10　樽味遺跡５次調査(3)
1　Ⅰf区完掘（東から）
2　Ⅰf区東端完掘（北西から）
図版11　樽味遺跡５次調査(4)
1　Ⅰg区完掘（東から）
2　SC-11・SC-12・SK-44（北西から）
3　SK-13（南から）
4　Ⅰh区西半完掘（西から）
5　Ⅰh区東半完掘（西から）
6　Ⅰi区完掘（西から）
図版12　樽味遺跡５次調査(5)
1　ⅡEa区完掘（南から）
2　ⅡWa区完掘（北から）
3　SK-14（南西から）
4　SP-201（東から）
5　ⅡEc区完掘（北から）
6　ⅡWb区完掘（南から）
7　ⅡWc区完掘（北から）
図版13　樽味遺跡５次調査(6)
1　ⅡEd区完掘（北から）
2　ⅡWd区遺構検出（北から）
3　ⅡWd区完掘（北から）
4　ⅡEe区南半完掘（北から）
5　ⅡEe区北半完掘（北から）
6　ⅡEe区Ⅲ－２層遺構検出（北から）
7　SD-37（西から）
8　SK-43（西から）
図版14　樽味遺跡５次調査(7)
1　ⅡWe区南半遺構検出（北から）
2　ⅡWe区完掘（北から）
3　SD-23（東から）
4　SD-24（東から）
5　ⅡWe区Ⅲ－２層遺構検出（北から）
6　ⅡWe区Ⅲ－２層遺構完掘（北から）
図版15　樽味遺跡５次調査(8)

1　ⅡEf区南半遺構検出（北から）
2　ⅡEf区北半遺構検出（北から）
3　ⅡEf区南半完掘（北から）
4　ⅡEf区北半完掘（北から）
図版16　樽味遺跡５次調査(9)
1　ⅡWf区遺構検出（北から）
2　Ｒ４・５出土状況（南から）
3　ⅡWf区南端完掘（東から）
4　SD-28（南東から）
5　ⅡWf区完掘（北から）
図版17　樽味遺跡５次調査(10)
1　ⅡEg区完掘（北から）
2　SK-38土層（西から）
3　ⅡWg区完掘（北から）
4　ⅡEh区完掘（北から）
5　ⅡEi区完掘（北から）
6　ⅡEj区完掘（西から）
7　ⅡEk区完掘（南から）
図版18　樽味遺跡５次調査(11)
1　Ⅲ区重機掘削後全景（北から）
2　Ⅲ区半完掘全景（北から）
図版19　樽味遺跡５次調査(12)
1　Ⅲ区南部半完掘（北西から）
2　Ⅲ区北部半完掘（南西から）
図版20　樽味遺跡５次調査(13)
1　Ⅲ区南部断割後（北西から）
2　Ⅲ区北部断割後（南西から）
図版21　樽味遺跡５次調査(14)
1　Ⅳ区重機掘削後全景（北から）
2　Ⅳ区完掘全景（北から）
図版22　樽味遺跡５次調査(15)
1　Ⅳ区SR-１（北西から）
2　Ⅳ区東壁南半土層（西から）
3　Ⅳ区東壁北半土層（西から）
図版23　樽味遺跡５次調査(16)
1　Ⅴ区完掘全景（北西から）
2　Ⅴa区完掘（西から）
3　Ⅴa～c区完掘（北から）
図版24　樽味遺跡５次調査(17)
1　Ⅴd区遺構検出（東から）
2　SD-15（北東から）
3　SD-19土層（北西から）
4　Ⅴe区完掘（東から）
5　Ⅴf区完掘（西から）
図版25　樽味遺跡５次調査(18)
1　Ⅵ区重機掘削後（北から）
2　Ⅵ区南半完掘（南西から）
3　SR-21（南から）
4　SR-21土層（西から）
図版26　樽味遺跡５次調査(19)
1　Ⅰa区出土遺物
2　Ⅰb区出土遺物
3　Ⅰc区出土遺物①
4　Ⅰc区出土遺物②
5　Ⅰc区出土遺物③
6　Ⅰc区出土遺物④
図版27　樽味遺跡５次調査(20)
1　Ⅰd区出土遺物
2　Ⅰe区出土遺物
3　Ⅰf区出土遺物①
4　Ⅰf区出土遺物②
5　Ⅰf区出土遺物③
6　Ⅰf区出土遺物④
図版28　樽味遺跡５次調査(21)
1　ⅡEe区出土遺物
2　ⅡWe区出土遺物①
3　ⅡWe区出土遺物②
4　ⅡWe区出土遺物③
5　ⅡWe区出土遺物④
6　ⅡEf区出土遺物①
7　ⅡEf区出土遺物②
図版29　樽味遺跡５次調査(22)
1　ⅡWf区出土遺物①
2　ⅡWf区出土遺物②
3　ⅡWf区出土遺物③
4　ⅡWf区出土遺物④
5　ⅡWf区出土遺物⑤
6　ⅡWf区出土遺物⑥
7　ⅡWf区出土遺物⑦
8　SK-38出土遺物
図版30　樽味遺跡５次調査(23)
1　Ⅲ区SR-１c層出土遺物①
2　Ⅲ区SR-１c層出土遺物②
3　Ⅲ区SR-１e１層出土遺物①
4　Ⅲ区SR-１e１層出土遺物②
5　Ⅲ区SR-１e１層出土遺物③

6　Ⅲ区SR-1e1層出土遺物④
7　Ⅲ区SR-1e1層出土遺物⑤
図版31　樽味遺跡5次調査(24)
1　Ⅲ区SR-1e2層出土遺物①
2　Ⅲ区SR-1e2層出土遺物②
3　Ⅲ区SR-1e2層出土遺物③
4　Ⅲ区SR-1e2層出土遺物④
5　Ⅲ区SX-2c層出土遺物
6　Ⅲ区攪乱出土遺物
図版32　樽味遺跡5次調査(25)
1　Ⅳ区SR-1c層出土遺物①
2　Ⅳ区SR-1c層出土遺物②
3　Ⅳ区SR-1e1層出土遺物①
4　Ⅳ区SR-1e1層出土遺物②
5　Ⅳ区SR-1e1層出土遺物③
6　Ⅳ区SR-1e1層出土遺物④
7　Ⅳ区SR-1e1層出土遺物⑤
8　Ⅳ区SR-1e1層出土遺物⑥
9　Ⅳ区SR-1e1層出土遺物⑦
図版33　樽味遺跡5次調査(26)
1　Ⅳ区SR-1e2層出土遺物①
2　Ⅳ区SR-1e2層出土遺物②
3　Ⅳ区SR-1e2層出土遺物③
4　Ⅳ区SR-1e2層出土遺物④
5　Ⅳ区SR-1e2層出土遺物⑤
6　Ⅳ区SR-1e2層出土遺物⑥
7　Ⅳ区SR-1e2層出土遺物⑦
8　Ⅳ区SR-1e2層出土遺物⑧
図版34　樽味遺跡5次調査(27)
1　Ⅳ区SX-2c層出土遺物①
2　Ⅳ区SX-2c層出土遺物②
3　SP-176出土遺物
4　Ⅳ区攪乱出土遺物①
5　Ⅳ区攪乱出土遺物②
6　SC-16・17・18出土遺物
7　SD-19出土遺物
図版35　桑原西稲葉遺跡(1)
1　3次調査Ⅰ区全景（東から）
2　3次調査Ⅱ区全景（東から）
3　3次調査Ⅱ区全景（北西から）
図版36　桑原西稲葉遺跡(2)
1　3次調査SP-3土層（北から）
2　3次調査SP-5土層（北から）
3　3次調査SP-8土層（北から）
4　3次調査SP-10土層（北から）
5　3次調査SD-21（北から）
6　3次調査SD-28・22（北西から）
7　3次調査SD-23土層（北西から）
図版37　桑原西稲葉遺跡(3)
1　4次調査Ⅰ区東部完掘（西から）
2　4次調査Ⅰ区南端完掘（北から）
3　4次調査SD-41土層（南から）
4　4次調査SP-42（南から）
5　4次調査SD-1（北西から）
6　4次調査SC-51（南東から）
図版38　桑原西稲葉遺跡(4)
1　4次調査Ⅱ区完掘（南から）
2　4次調査Ⅱ区北部完掘（南から）
3　4次調査R1・2出土状況（南東から）
4　4次調査SP-369（東から）
5　4次調査SP-371（西から）
6　4次調査SP-375（西から）
図版39　桑原西稲葉遺跡(5)
1　4次調査Ⅱ区作業状況（北から）
2　4次調査SC-61（北西から）
3　4次調査SP-66（西から）
4　4次調査SP-74（東から）
5　4次調査Ⅳ区完掘（西から）
6　4次調査SP-76（北から）
図版40　桑原西稲葉遺跡(6)
1　4次調査SC-131（南から）
2　4次調査SP-142（西から）
3　4次調査SP-135（西から）
4　4次調査Ⅵ区完掘（北から）
5　4次調査SP-108～110（西から）
6　4次調査SP-168（南から）
図版41　桑原西稲葉遺跡(7)
1　4次調査Ⅶ区遺構検出（西から）
2　4次調査SC-270（東から）
3　4次調査SD-273（南西から）
4　4次調査Ⅶ区東端完掘（西から）
5　4次調査SP-379～381（南から）
図版42　桑原西稲葉遺跡(8)
1　3次調査SD-21出土遺物①
2　3次調査SD-21出土遺物②
3　3次調査SD-21出土遺物③

4　3次調査SD-21出土遺物④
5　3次調査SD-22出土遺物
6　3次調査SD-23出土遺物①
図版43　桑原西稲葉遺跡(9)
1　3次調査SD-23出土遺物②
2　4次調査Ⅰ区出土遺物
3　4次調査Ⅱ区出土遺物①
4　4次調査Ⅱ区出土遺物②
5　4次調査Ⅳ区出土遺物①
6　4次調査Ⅳ区出土遺物②
図版44　桑原西稲葉遺跡(10)
1　4次調査Ⅳ区出土遺物③
2　4次調査Ⅵ区出土遺物
3　4次調査Ⅶ区出土遺物
4　5次調査出土遺物①
5　5次調査出土遺物②

挿図目次

遺跡の環境と基本層序
図1　松山市北東部周辺主要遺跡分布図（縮尺1/25,000）……2
図2　調査地点位置図（縮尺1/2,500）……6
樽味遺跡4次調査
図3　調査地点位置図（縮尺1/2,000）……9
図4　調査区割図（縮尺1/400）……11
図5　遺構配置図（縮尺1/200）……13・14
図6　SR-1実測図（縮尺1/80）……16～18
図7　SR-1灰褐色砂質土・砂層出土遺物実測図（縮尺1/4）……19
図8　SR-1砂礫層出土遺物実測図(1)（縮尺1/4）20
図9　SR-1砂礫層出土遺物実測図(2)（縮尺1/4）21
図10　SR-1砂礫層出土遺物実測図(3)（縮尺1/4）22
図11　SR-1砂礫層出土遺物実測図(4)（縮尺1/4）23
図12　SR-1砂礫層出土遺物実測図(5)（縮尺2/3）23
図13　SR-1北壁際断割出土遺物実測図(縮尺1/4) 24
図14　SD-2上層実測図（縮尺1/80）……25
図15　SD-2下層実測図（縮尺1/80）……27・28
図16　SD-2上層出土遺物実測図（縮尺1/4）……29
図17　SD-2下層出土遺物実測図（縮尺1/4、2/3）29
図18　主要遺構実測図(1)（縮尺1/40）……30
図19　SX-38出土遺物実測図（縮尺2/3）……30
図20　主要遺構実測図(2)（縮尺1/40）……31
図21　SX-40出土遺物実測図（縮尺1/4）……33
図22　主要遺構実測図(3)（縮尺1/40）……33
図23　SK-71出土遺物実測図（縮尺1/4）……33
図24　暗褐色シルト質土出土遺物実測図(1)（縮尺1/4）……35
図25　暗褐色シルト質土出土遺物実測図(2)（縮尺1/4）……36
図26　明褐色砂質土出土遺物実測図（縮尺1/4）…36
図27　攪乱出土遺物実測図（縮尺1/4）……37
図28　樹木移植に伴う調査区位置および土層柱状図（縮尺1/500、1/40）……38
図29　SR-1・SD-2変遷図（縮尺1/600）……39
樽味遺跡5次調査
図30　調査地点位置図（縮尺1/2,000）……47
図31　Ⅰ区実測図(1)（縮尺1/80）……51
図32　SC-4・SD-6他実測図（縮尺1/40）……53
図33　Ⅰa区出土遺物実測図（縮尺1/4、1/2）……53
図34　Ⅰ区実測図(2)（縮尺1/80）……54
図35　Ⅰb区出土遺物実測図（縮尺1/4）……55
図36　Ⅰc区出土遺物実測図（縮尺1/4）……56
図37　Ⅰ区実測図(3)（縮尺1/80）…… 58
図38　Ⅰd区出土遺物実測図（縮尺1/4）……58
図39　Ⅰe区出土遺物実測図（縮尺1/4、1/2）……58
図40　Ⅰ区実測図(4)（縮尺1/80）……60
図41　Ⅰf区出土遺物実測図（縮尺1/4）……62
図42　Ⅰ区実測図(5)（縮尺1/80）……63
図43　SC-11・SC-12・SK-44実測図（縮尺1/40）64
図44　SK-13実測図（縮尺1/40）……64
図45　Ⅰ区実測図(6)（縮尺1/80）……66
図46　Ⅰh区出土遺物実測図（縮尺1/4）……67
図47　Ⅰ区攪乱出土遺物実測図（縮尺1/4）……67
図48　Ⅱ区実測図(1)（縮尺1/80）……68
図49　Ⅱ区実測図(2)（縮尺1/80）……69
図50　SP-205実測図（縮尺1/40）……71
図51　SK-14実測図（縮尺1/40）……71
図52　ⅡEa区出土遺物実測図（縮尺1/4）……71

図53　SP-201実測図（縮尺1/40）……71
図54　Ⅱ Wa区出土遺物実測図（縮尺1/4）……71
図55　Ⅱ区実測図(3)（縮尺1/80）……72
図56　Ⅱ区実測図(4)（縮尺1/80）……73
図57　Ⅱ区実測図(5)（縮尺1/80）……74
図58　SP-232他実測図（縮尺1/40）……75
図59　Ⅱ Wd区出土遺物実測図（縮尺1/4）……75
図60　Ⅱ区実測図(6)（縮尺1/80）……76
図61　Ⅱ Ee区実測図(1)（縮尺1/40）……77
図62　Ⅱ Ee区実測図(2)（縮尺1/40）……79
図63　SP-611実測図（縮尺1/40）……79
図64　Ⅱ Ee区出土遺物実測図（縮尺1/4）……80
図65　Ⅱ We区実測図(1)（縮尺1/40）……81
図66　Ⅱ We区実測図(2)（縮尺1/40）……82
図67　Ⅱ We区出土遺物実測図(1)（縮尺1/4）……83
図68　Ⅱ We区出土遺物実測図(2)（縮尺1/4）……84
図69　Ⅱ区実測図(7)（縮尺1/80）……85
図70　Ⅱ Ef区実測図（縮尺1/40）……86
図71　Ⅱ Ef区出土遺物実測図(1)（縮尺1/4）……88
図72　Ⅱ Ef区出土遺物実測図(2)（縮尺1/4）……89
図73　Ⅱ Wf区実測図（縮尺1/40）……90
図74　SP-434実測図（縮尺1/40）……91
図75　SP-440実測図（縮尺1/40）……91
図76　Ⅱ Wf区出土遺物実測図(1)（縮尺1/4）……93
図77　Ⅱ Wf区出土遺物実測図(2)（縮尺1/4、1/2）　94
図78　Ⅱ区実測図(8)（縮尺1/80）……95
図79　Ⅱ区実測図(9)（縮尺1/80）……96
図80　SK-38実測図（縮尺1/40）……97
図81　SK-38出土遺物実測図（縮尺1/4）……97
図82　Ⅱ区実測図(10)（縮尺1/80）……98
図83　Ⅱ区攪乱出土遺物実測図（縮尺1/4）……99
図84　Ⅲ区実測図(1)（縮尺1/80）……106
図85　Ⅲ区実測図(2)（縮尺1/80）……107
図86　Ⅲ区SR-１c層出土遺物実測図
（縮尺1/4、1/2）……109
図87　Ⅲ区SR-１e１層出土遺物実測図(1)
（縮尺1/4）……110
図88　Ⅲ区SR-１e１層出土遺物実測図(2)
（縮尺1/4、1/2）……111
図89　Ⅲ区SR-１e２層出土遺物実測図
（縮尺1/4）……112
図90　Ⅲ区SX-２c層出土遺物実測図（縮尺1/4）　113
図91　Ⅲ区攪乱出土遺物実測図（縮尺1/4）……113
図92　Ⅳ区実測図（縮尺1/80）……116・117
図93　Ⅳ区SR-１c層出土遺物実測図（縮尺1/4）　118
図94　Ⅳ区SR-１e１層出土遺物実測図(1)
（縮尺1/4）……119
図95　Ⅳ区SR-１e１層出土遺物実測図(2)
（縮尺1/4）……120
図96　Ⅳ区SR-１e２層出土遺物実測図(1)
（縮尺1/4）……120
図97　Ⅳ区SR-１e２層出土遺物実測図(2)
（縮尺1/4）……121
図98　Ⅳ区SR-１e２層出土遺物実測図(3)
（縮尺1/4）……122
図99　Ⅳ区SX-２c層出土遺物実測図（縮尺1/4）　123
図100　SP-176出土遺物実測図（縮尺1/4）……123
図101　Ⅳ区攪乱出土遺物実測図（縮尺1/4）……123
図102　Ⅴ区実測図(1)（縮尺1/80）……125
図103　SP-170出土遺物実測図（縮尺1/4）……126
図104　SC-16・17・18・20実測図（縮尺1/40）…126
図105　Ⅴ区Ⅲ層出土遺物実測図(1)（縮尺1/4）…127
図106　SC-16・17・18出土遺物実測図（縮尺1/4）127
図107　Ⅴ区実測図(2)（縮尺1/80）……128
図108　SD-15実測図（縮尺1/40）……129
図109　SD-15出土遺物実測図（縮尺1/4）……129
図110　SD-19実測図（縮尺1/40）……130
図111　SD-19出土遺物実測図（縮尺1/4）……130
図112　Ⅴ区Ⅲ層出土遺物実測図(2)（縮尺1/4）…131
図113　Ⅴ区攪乱出土遺物実測図（縮尺1/4）……131
図114　Ⅵ区実測図（縮尺1/80）……133
図115　出土鉄器・鉄滓実測図（縮尺1/2）……134
図116　樽味団地土層断面図
（縮尺1/1,000・1/40）……136
図117　Ⅲ区・Ⅳ区周辺遺構配置図（縮尺1/200）　137
図118　樽味団地自然流路復元図（縮尺1/2,000）　138
図119　弥生前期遺構配置図（縮尺1/800）……138
図120　樽味遺跡２次調査周辺遺構配置図
（縮尺1/250）……139

桑原西稲葉遺跡３～５次（北吉井団地）調査

図121　調査区割図（縮尺1/500）……158
図122　遺構配置図（縮尺1/250）……160
図123　３次調査Ⅰ区実測図（縮尺1/40）……162
図124　３次調査Ⅰ区出土遺物実測図（縮尺1/4）　163
図125　３次調査Ⅱ区実測図(1)（縮尺1/40）……164
図126　３次調査Ⅱ区実測図(2)（縮尺1/40）……166

図127　3次調査SD-21出土遺物実測図(1)
（縮尺1/4）……167
図128　3次調査SD-21出土遺物実測図(2)
（縮尺1/4）……168
図129　3次調査SD-22出土遺物実測図
（縮尺1/4、1/2）……168
図130　3次調査SD-23出土遺物実測図
（縮尺1/4）……169
図131　3次調査Ⅱ区Ⅲ層出土遺物実測図
（縮尺1/4）……170
図132　4次調査Ⅰ区実測図（縮尺1/40）……171
図133　4次調査Ⅰ区・Ⅱ区実測図（縮尺1/40）…172
図134　4次調査Ⅰ区出土遺物実測図（縮尺1/4）　173
図135　4次調査Ⅱ区実測図（縮尺1/40）……174
図136　4次調査Ⅱ区・Ⅳ区実測図（縮尺1/40）…175
図137　4次調査Ⅱ区出土遺物実測図
（縮尺1/4、1/2）……176
図138　4次調査Ⅲ区実測図（縮尺1/40）……177
図139　4次調査Ⅲ区・Ⅴ区実測図（縮尺1/40）…178
図140　4次調査Ⅲ区出土遺物実測図（縮尺1/4）　179
図141　4次調査Ⅳ区出土遺物実測図（縮尺1/4）　180
図142　4次調査Ⅴ区実測図（縮尺1/40）……182
図143　4次調査Ⅴ区出土遺物実測図（縮尺1/4）　182
図144　4次調査Ⅵ区実測図（縮尺1/40）……183
図145　4次調査Ⅵ区出土遺物実測図（縮尺1/4）　183
図146　4次調査Ⅵ区・Ⅶ区実測図（縮尺1/40）…184
図147　4次調査Ⅶ区実測図(1)（縮尺1/40）……185
図148　4次調査Ⅶ区実測図(2)（縮尺1/40）……186
図149　4次調査Ⅶ区出土遺物実測図（縮尺1/4）　187
図150　4次調査・5次調査遺構配置図
（縮尺1/100）……190
図151　5次調査出土遺物実測図（縮尺1/4、1/2）191

表　目　次

表1　樽味団地・北吉井団地の全面調査……5
表2　樽味遺跡4次調査出土遺物観察表……41
表3　樽味遺跡5次調査の経過……48
表4　樽味遺跡5次調査出土遺物観察表……140
表5　桑原西稲葉遺跡3～5次調査出土遺物観察表
……194

Ⅰ　遺跡の環境と基本層序

1　位置と周辺の遺跡（図１）

樽味遺跡（１）、桑原西稲葉遺跡（２）の位置する道後平野は、四国北西部の高縄半島の南西基部に開けた平野である。平野の南部では、重信川が石手川・小野川・砥部川などと合流しながら東から西へと流れる。樽味遺跡、桑原西稲葉遺跡の北を流れる石手川が形成した扇状地は、山麓近くの正円寺・畑寺にかけての古期扇状地面、道後・中村・一番町の現世の扇状地である新期扇状地面、そして石手川南岸東側に広がる古期扇状地面と新期扇状地面との間の段丘化した低位段丘面に区分される[注1]。こうした地形区分の中で、樽味遺跡、桑原西稲葉遺跡は石手川南岸の低位段丘面上に立地している。樽味遺跡１次調査では、約2.2～2.5万年前に降下した姶良Tn火山灰（AT火山灰）が、ポケット状の窪みに堆積することが確認されており[注2]、石手川南岸の低位段丘面はAT火山灰降下・堆積期には段丘化して、石手川本流が約2.0～1.8万年前には扇状地北側の城北地区を通り堀江低地へと流れていたと推測されている。そのため、洪積世の末期から完新世には、樽味遺跡、桑原西稲葉遺跡周辺の桑原地区は比較的安定した土地環境にあったと考えられている[注3]。

道後平野では、旧石器時代の明確な遺構は確認されていないが、表面採集品や後世の遺構埋土中に当該期の石器が見られる。桑原地区周辺では、独立丘陵の天山古墳群（39）、東山古墳群でナイフ形石器、経石山古墳（20）で細石器、釜ノ口遺跡（33）でナイフ形石器、有舌尖頭器が出土しており、将来、旧石器時代の遺跡が発見される可能性は高い。

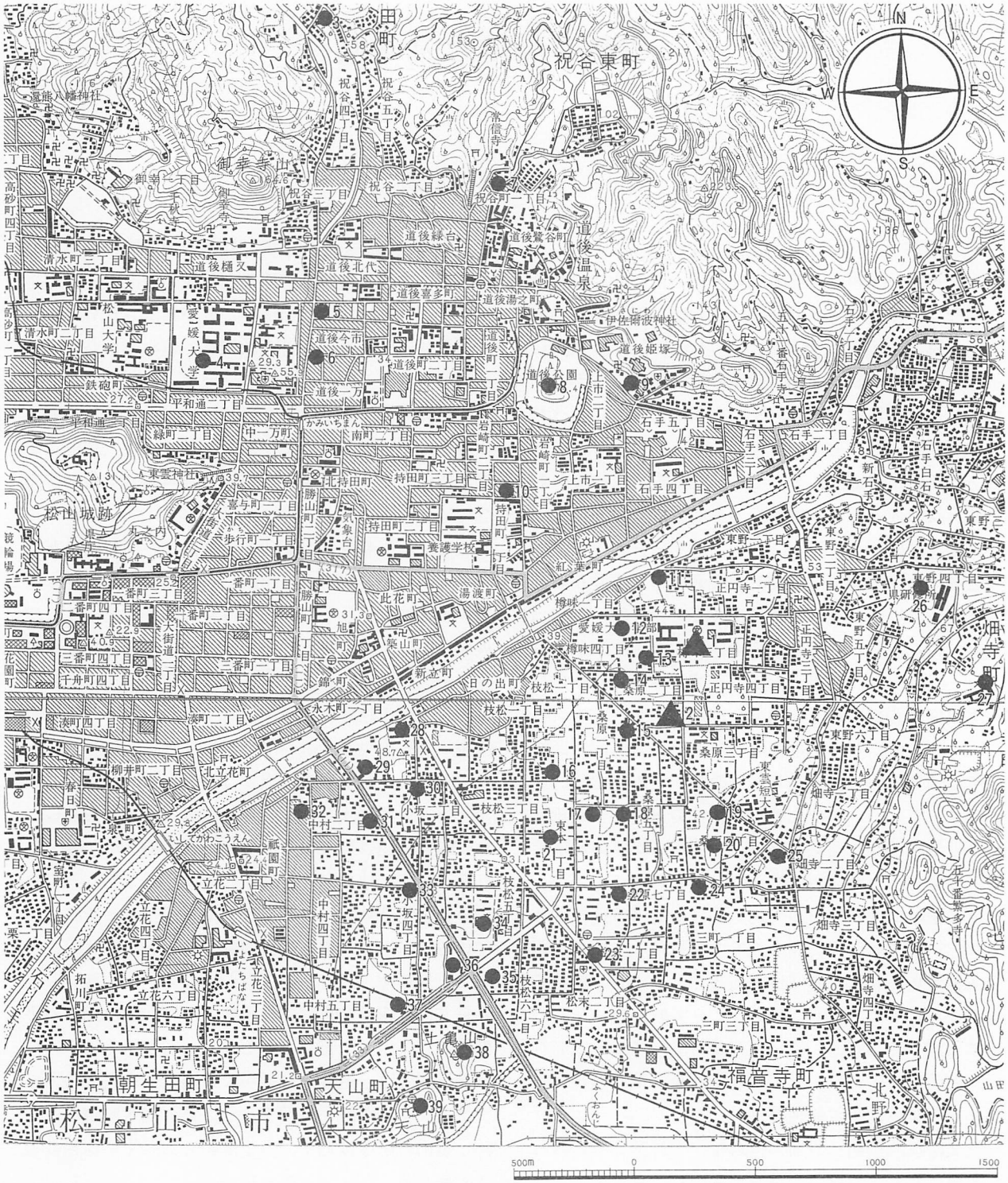
縄文時代草創期～中期の遺跡は、平野全体でもほとんど確認されていない。桑原地区では、束本遺跡４次調査（22）で、鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah，約0.6万年前）の下位から早期の槍先形石器、スクレイパーが出土している。さらに、石器出土地点近くでは、焼土塊と焼土面が確認されている。

縄文時代後期以降も、桑原地区では、桑原田中遺跡１次調査や三島神社古墳（25）の客土中から後期土器が出土するのみで遺構は確認されていない。

弥生時代になると、道後平野内の遺跡数は急激に増加するが、桑原地区でも同様な状況が窺える。樽味遺跡１次調査では、前期の溝や土壙が確認されている。本書で報告する樽味遺跡５次調査で検出した竪穴式住居跡、土壙もこうした集落の一部と考えられる。その後、樽味高木遺跡２次調査（12）や樽味四反地遺跡５次調査（13）で中期後葉から後期初頭の竪穴式住居が確認されており、愛媛大学樽味団地西側に集落が展開していく。

このような桑原地区周辺での状況は、同時期の石手川北岸、道後城北地区のあり方と比較すると興味深い。道後城北地区では、中期後半に文京遺跡（４）が展開する。文京遺跡では、竪穴式住居跡が密集する居住域や高床倉庫と考えられる掘立柱建物群からなる倉庫群、土器や鉄器、ガラス生産を行ったと考えられる生産域などの集落配置が明らかになっている。特に、文京遺跡３・７次調査地点では、方形周溝遺構や柱間が２ｍ近い梁間４間、桁行き４間以上の大型掘立柱建物が複数確認されており、文京遺跡の中枢域と考えられる。また、他地域との交流の実態を示す舶載銅鏡片や破鏡、鋳造鉄斧、ガラス滓、滑石製指輪等が出土している。さらに、道後公園山麓遺跡（８）で３口、祝谷六丁場遺跡（３）で１口、(伝)樋又銅剣出土地（５）から８口、道後今市銅剣出土地（６）からは10口の平形銅剣が集中して発見されるなど、石手川北岸の道後城北遺跡群は、道後平野の中でも拠点的な大集落遺跡である。文京遺跡と比較すると、桑原地区周辺は、遺跡・遺構の密度は低く、出土遺物も少なく、様相は大きく異なる。

後期後半になると、遺跡数は増加し、樽味立添遺跡（11）、樽味高木遺跡１～３次調査（12）、樽味四反地遺跡２～５次調査（13）、桑原稲葉遺跡（17）、桑原西稲葉遺跡２次調査(14)、桑原田中遺跡１・２次調査、桑原高井遺跡（15）、束本遺跡１～５次調査（22）、枝松遺跡３～５次調査(16・21)、釜ノ口遺跡(33・34)で竪穴式住居跡や円形周溝遺構、土壙、溝、土器溜ま



1樽味遺跡　2桑原西稲葉遺跡3～5次　3祝谷六丁場遺跡　4文京遺跡　5（伝）樋又銅剣出土地　6道後今市銅剣出土地　7土居の段遺跡・湯之町廃寺跡　8湯築城跡・道後公園山麓遺跡　9義安寺遺跡・内代廃寺跡　10岩崎遺跡　11樽味立添遺跡　12樽味高木遺跡　13樽味四反地遺跡　14桑原西稲葉遺跡1・2次　15桑原高井遺跡　16枝松遺跡1～4次　17桑原稲葉遺跡　18桑原小石原遺跡　19桑原本郷遺跡　20経石山古墳　21枝松遺跡5次　22東本遺跡1～4次　23松末遺跡　24桑原遺跡　25三島神社古墳　26東野遺跡・東野お茶屋台古墳群　27畑寺竹ヶ谷古墳群　28素鷺小学校構内遺跡　29中村松田遺跡・中村長正寺遺跡　30七ノ坪遺跡　31中村経田遺跡　32素鷺神社遺跡　33釜ノ口遺跡2～8次　34拓南中学校遺跡・釜ノ口遺跡　35福音寺竹ノ下遺跡　36榎田遺跡　37西天山遺跡　38土亀山弥生墳墓群　39天山古墳・天山北遺跡

図1　松山市北東部周辺主要遺跡分布図（縮尺1/25,000）

りなどが検出され、集落構造が明らかになりつつある。また、樽味立添遺跡（11）では弥生～古墳時代の遺物包含層から貨泉が、樽味高木遺跡３次調査（12）では船を線刻した弥生時代後期の絵画土器片が出土している。さらに東本遺跡（22）や釜ノ口遺跡（33）では、弥生時代終末の竪穴式住居跡から、小型の内行花文鏡もしくは方格規矩鏡と考えられる破鏡、鉄鏃・鉄片等が出土している。

古墳時代の集落遺跡は、樽味団地内樽味遺跡３・７次調査、樽味高木遺跡１～４次調査（12）、樽味立添遺跡（11）、樽味四反地遺跡２～６次調査（13）、桑原本郷遺跡（19）で前期～後期の竪穴式住居跡や掘立柱建物・土壙等が多数検出されており、樽味団地の西から北側に集中する。本書で報告する桑原西稲葉遺跡３～５次調査でも、後期の集落が確認されており、桑原地区内に集落が点在する状況が想定される。また、近年樽味四反地遺跡６次調査（13）で、古墳時代初頭の溝や柵列に区画された６間×６間の総柱建物が確認されている。豪族居館と想定され、一般集落との関係が注目される。

前期古墳は不明であるものの、樽味四反地遺跡６次調査の総柱建物の存在から、桑原地区内で将来確認されると考えられる。中期～後期の前方後円墳である経石山古墳（20）や三島神社古墳（25）は、古期扇状地面に展開する。また、丘陵上には中期～後期の畑寺竹ヶ谷古墳群（27）、東野お茶屋台古墳群（26）、畑寺古墳群、東野中畦遺跡、南西に位置する独立丘陵上には、星岡・東山古墳群が展開する。

古代の遺跡調査例は少ない。石手川北岸では、内代廃寺跡（９）や湯之町廃寺跡（７）から白鳳期の瓦が出土しているが、詳細な調査が実施されておらず、全容は定かではない。岩崎遺跡（10）では、８世紀の方形区画を目的とする溝が確認されている。溝からは畿内産土師器や土馬、硯が出土している。また、10世紀の掘立柱建物、溝も確認されている。南岸では、集落遺跡としては中村松田遺跡（29）、素鷲小学校構内遺跡（28）があり、８世紀代の掘立柱建物を検出している。樽味高木遺跡４次調査（12）では８世紀の河川、桑原西稲葉遺跡１次調査（14）で８世紀代の溝、樽味四反地遺跡１・５次調査(13)では10世紀の自然河川、溝が調査されている。樽味団地内の樽味遺跡では、４・５次調査で８世紀以降の河川、溝、土壙、柱穴が、７次調査では古代後半～中世前半に埋没する河川が確認されている。

中世の遺跡は、桑原地区周辺では、桑原田中遺跡３次調査で14～15世紀の土壙墓、樽味四反地遺跡４次調査（13）では16世紀の土壙、桑原稲葉遺跡（17）では15～16世紀の溝が確認されている。樽味団地内樽味遺跡１・２・５次調査では、14～16世紀の集落遺跡が調査されている。１次調査ではＬ字状の溝、２次調査では掘立柱建物群を溝や柵列で囲む方形区画が確認されている。樽味遺跡は、14世紀に道後平野を支配した河野氏が築いた湯築城跡（８）と、同時期に石手川を挟み至近の距離に営まれた一般集落であることから、樽味遺跡周辺の集落には河野氏の勢力が強く及んでいたと考えられている。

〔注〕

1　鹿島愛彦・高橋治郎 1980：四国松山平野の環境地質学的研究(1), 松山平野とその周辺の地質. 愛媛大学教養部紀要, 自然科学. 9－1

2　平井幸弘 1989：鷹子遺跡および樽味遺跡をとりまく地形環境. 鷹子・樽味遺跡. 愛媛大学埋蔵文化財調査報告. Ⅰ

3　平井幸弘 1991：石手川扇状地城北地区における沖積低地の地形発達と考古遺跡の立地環境. 愛媛大学教育学部紀要, 9

遺跡文献一覧

梅木謙一編 1992：桑原地区の遺跡．松山市文化財報告書，26
梅木謙一・宮内慎一編 1992：道後城北遺跡群．松山市文化財報告書，30
梅木謙一・宮内慎一編 1994：桑原地区の遺跡．Ⅱ．松山市文化財報告書，46
梅木謙一編 2002：桑原地区の遺跡Ⅳ．松山市文化財調査報告書，86
愛媛県史編さん室編 1983：愛媛県史．原始・古代，Ⅰ
愛媛県史編さん室編 1986：愛媛県史．資料編，考古
愛媛県埋蔵文化財包蔵地調査カード 1963作成
愛媛大学埋蔵文化財調査室編 1998：文京遺跡シンポジウム－弥生大集落の解明－
大山正風ほか 1973：釜ノ口遺跡調査報告書．松山市文化財報告書，5
岡田敏彦編 1990：桑原稲葉遺跡．㈶愛媛県埋蔵文化財調査センター
岡田敏彦・中島博文・小林一郎・谷若倫郎 1985：道後今市遺跡．愛媛県教育委員会
栗田茂敏編 1992：文京遺跡－第２・３・５次調査．松山市文化財報告書，28
河野史知編 1997：桑原地区の遺跡Ⅲ．松山市文化財報告書，58
阪本安光編 1979：東野遺跡．埋蔵文化財調査報告書．愛媛県教育委員会
高尾和長編 1996：束本遺跡４次調査・枝松遺跡４次調査．松山市文化財調査報告書，54
高尾和長編 1997：釜ノ口遺跡Ⅱ．松山市文化財調査報告書，60
田崎博之編 1993：樽味遺跡Ⅱ．愛媛大学埋蔵文化財調査報告，Ⅳ
田崎博之編 1997：愛媛大学埋蔵文化財調査室集報Ⅰ．愛媛大学埋蔵文化財調査報告，Ⅴ
田崎博之編 1997：樽味遺跡Ⅲ．愛媛大学埋蔵文化財調査報告，Ⅵ
田崎博之編 2002：愛媛大学埋蔵文化財調査室年報－1997・1998年度－．愛媛大学埋蔵文化財調査報告，Ⅷ
田崎博之編 2003：愛媛大学埋蔵文化財調査室年報－1999・2000年度－．愛媛大学埋蔵文化財調査報告，Ⅹ
田城武志・高尾和長編 1994：東山古墳群－第４・５次調査．松山市文化財報告書，41
田辺昭三・西尾幸則・池田学編 1981：東山鳶が森古墳調査報告書．松山市文化財報告書，15
中野良一ほか 1998：湯築城跡第１分冊．㈶愛媛県埋蔵文化財調査センター
中野良一ほか 2000：湯築城跡第２～４分冊．㈶愛媛県埋蔵文化財調査センター
長井数秋・大山正風ほか 1973：天山・桜谷古墳．松山市文化財報告書，2
松山市教育委員会編 1987：松山市埋蔵文化財調査年報，Ⅰ
松山市教育委員会編 1989：松山市埋蔵文化財調査年報，Ⅱ
松山市教育委員会編 1991：松山市埋蔵文化財調査年報，Ⅲ
松山市教育委員会編 1992：松山市埋蔵文化財調査年報，Ⅳ
松山市教育委員会編 1993：松山市埋蔵文化財調査年報，Ⅴ
松山市教育委員会編 1994：松山市埋蔵文化財調査年報，Ⅵ
松山市教育委員会編 1995：松山市埋蔵文化財調査年報，Ⅶ
松山市教育委員会編 1996：松山市埋蔵文化財調査年報，Ⅷ
松山市教育委員会編 1997：松山市埋蔵文化財調査年報，Ⅸ
松山市教育委員会編 1998：松山市埋蔵文化財調査年報，Ⅹ
松山市教育委員会編 1999：松山市埋蔵文化財調査年報，11
松山市教育委員会編 2000：松山市埋蔵文化財調査年報，12
松山市教育委員会編 2001：松山市埋蔵文化財調査年報，13
松山市史料集編集委員会編 1980：松山市史料集，第一巻，考古編
松山市史料集編集委員会編 1987：松山市史料集，第二巻，考古２，古代～中世・近世・文化編
松山市埋蔵文化財包蔵地地図
水元完児編 2001：東野中畦遺跡．松山市文化財調査報告書，82
宮内慎一編 1998：岩崎遺跡．松山市文化財調査報告書，71
宮崎泰好編 1991：祝谷六丁場遺跡．松山市文化財調査報告書，24
宮本一夫編 1989：鷹子・樽味遺跡．愛媛大学埋蔵文化財調査報告，Ⅰ
宮本一夫編 1990：文京遺跡第８・９・11次調査．愛媛大学埋蔵文化財調査報告，Ⅱ
宮本一夫編 1991：文京遺跡第10次調査．愛媛大学埋蔵文化財調査報告，Ⅲ
森光晴・長井数秋ほか 1972：三島神社古墳．松山市文化財報告書，1
森光晴編 1975：埋蔵文化財発掘調査概報．松山市文化財報告書，7
森光晴・大山正風ほか 1976：文京遺跡．松山市文化財報告書，11
森光晴編 1980：浮穴・西石井荒神堂・束本Ⅱ・Ⅲ・桑原高井遺跡．松山市文化財報告書，14
森光晴編 1983：国道11号線バイパス調査報告書．松山市文化財報告書，17
吉田広編 2001：愛媛大学埋蔵文化財調査室年報－1995・1996年度－．愛媛大学埋蔵文化財調査報告，Ⅶ

2　遺跡の範囲と基本層序

(1)　遺跡の範囲（表１・図２）

愛媛大学樽味団地は、周知の「樽味遺物包含地（松山市埋蔵文化財包蔵地地図81)」に、西端の一部のみが含まれる。しかし、1987年に愛媛大学大学院連合農学研究科校舎新営工事に伴う樽味遺跡１次調査以来、1992年の農学部研究実験棟（農学部３号館）新営工事に伴う２次調査、1993年の愛媛大学附属図書館農学部分館増築工事に伴う３次調査、さらには団地内各所での小規模調査により、「樽味遺物包含地」外への遺跡の広がりを確認してきた。また周辺でも、松山市教育委員会・松山市埋蔵文化財センターによる調査により、弥生時代～古墳時代、中世の集落遺跡が断続的に営まれていることが明らかになっている。

樽味団地南方約300ｍの北吉井団地についても、周知の「桑原遺物包含地（松山市埋蔵文化財包蔵地地図157)」に隣接するが、包蔵地外にあたる。しかし、1994年度の調査によって遺跡の存在が明らかとなり、1997年度の調査では団地全域に遺跡の展開することが判明した。これに伴い、松山市教育委員会との協議により、北吉井団地北西約100ｍ地点の遺跡名「桑原西稲葉遺跡」を、愛媛大学北吉井団地にも適用することとし、次数については、松山市教育委員会が既に実施した１次・２次調査に続けて、99508調査を除いて、調査順に３次・４次・５次調査と呼称することとした。

(2)　樽味団地・北吉井団地の基本層序

既往調査の成果を承けて、樽味遺跡３次調査以降、樽味団地全域の基本層序を設定している。また、この基本層序は、北吉井団地においても適用できることが判明している。したがって、以下の報告においては、この基本層序に拠りながら記述を進める。

［基本層序］

Ⅰ層：表土層にあたる瓦礫を含む造成土部分。

Ⅱ層：造成以前の灰色系の近世～近代の水田層。

Ⅲ層：遺物を包含する黒色～黒褐色系の土層。
地点によっては上下に二分できる。
上層は黒褐色シルト質土で、５㎜以下の砂粒を含み、下層ほど粘性が高い（Ⅲ－１層)。
中世を中心とした遺物を多く包含する。
下層は、より黒みの強い黒色粘土質シルトで、粘性が高いものの、砂礫を含まず、しまりが弱い（Ⅲ－２層)。
遺物の包含は少ないが、下層に共通する埋土の遺構には、弥生時代に遡るものが存在する。

Ⅳ層：黄褐色系のシルト～砂質土層で、下部には礫が混じる。

Ⅴ層：Ⅳ層下の花崗岩を主体とする砂礫ないし礫層。

表１　樽味団地・北吉井団地の全面調査

調　査　名	工　　事　　名	期　　間	面　積	報　告　書
樽　味　１　次	連合農学研究科校舎新営工事	19871028～19871217	684㎡	宮本編1989
樽　味　２　次	農学部研究実験棟新営工事	19920107～19920228	506㎡	田崎編1993
樽　味　３　次	附属図書館農学部分館増築工事	19930823～19931006	259㎡	田崎編1997
桑原西稲葉３次	**東長戸他環境整備工事に伴う駐車場整備の配管設置工事**	**19940510～19940518**	**55㎡**	**本　書**
桑原西稲葉４次	**北吉井宿舎屋外排水管改修工事**	**19971008～19971031**	**100㎡**	**本　書**
桑原西稲葉５次	**北吉井宿舎屋外ガス管改修工事**	**19971112～19971118**	**32㎡**	**本　書**
樽　味　４　次	**農学部附属農業高等学校校舎新営工事**	**19971125～19980204**	**1,168㎡**	**本　書**
樽　味　５　次	**遺伝子実験施設新営その他工事**	**19990316～19990721**	**979㎡**	**本　書**
樽　味　６　次	環境産業研究施設新営工事	20011115～20020206	1,205㎡	未　刊
樽　味　７　次	農学部２号館改修工事	20020403～20020522	170㎡	未　刊

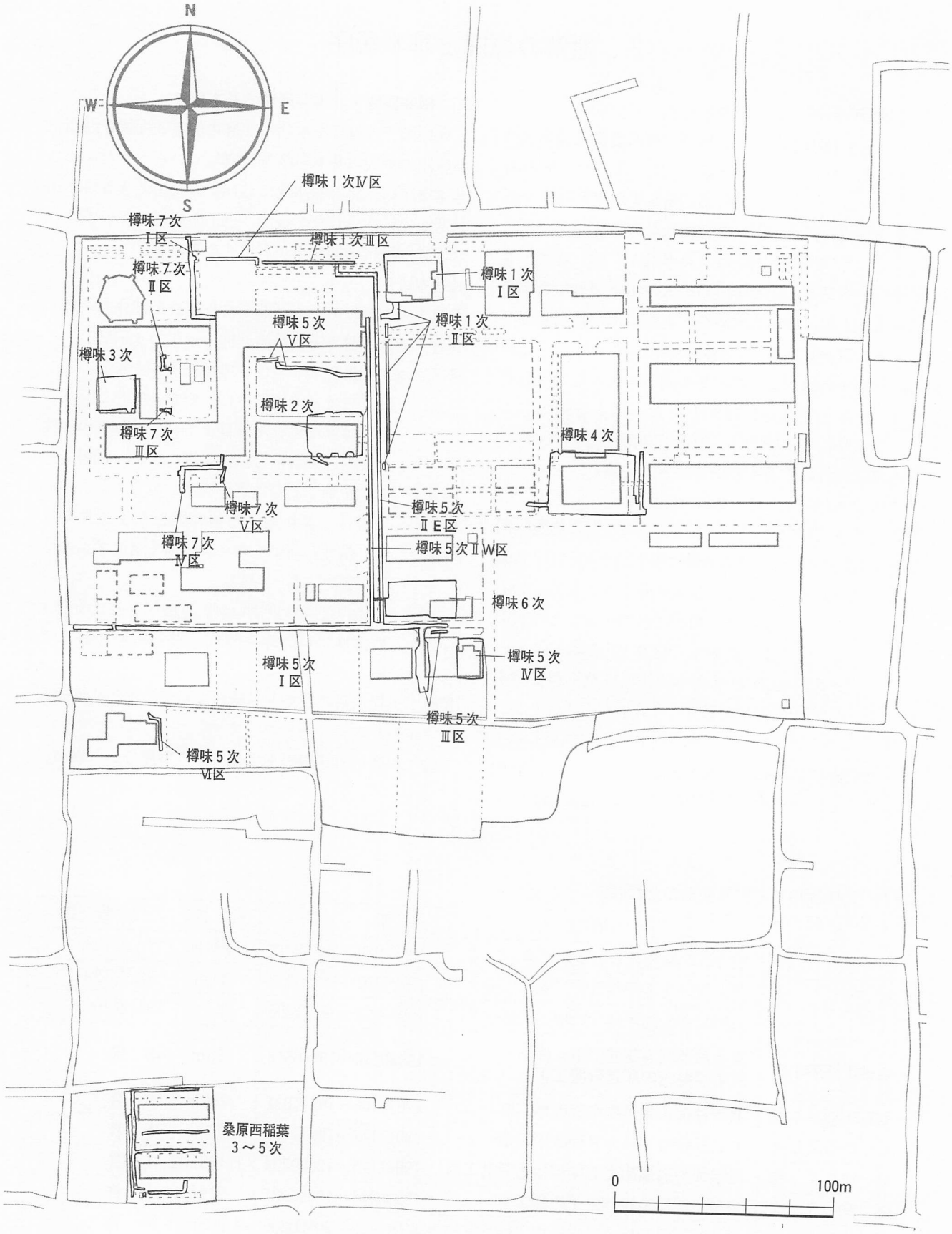


図２　調査地点位置図（縮尺１/2,500）

Ⅱ　調査・整理の体制

(1)　1997年度の調査体制

本格調査として実施した、樽味遺跡４次調査と桑原西稲葉遺跡４次調査に関わる1997年度の埋蔵文化財調査委員会・調査室の体制は、以下の通りである。

[埋蔵文化財調査委員会]

委員長　鮎川恭三（学長）
委　員　小松光三（法文学部長）
委　員　向井康雄（教育学部長）
委　員　小松正幸（理学部長）
委　員　植田規史（医学部長）
委　員　柿沼忠男（工学部長）
委　員　西頭徳三（農学部長）
委　員　下條信行（法文学部・教授・先史考古学）
　　松原弘宣（法文学部･教授･日本歴史交流論）
委　員　川岡　勉（教育学部・助教授・歴史学）
委　員　飛弾正人（事務局長・～1997.11.１）
　　田中　勇（事務局長・1997.11.２～）
委　員　山口久仁夫（庶務部長）
委　員　深谷英夫（経理部長）
委　員　塚原克己（施設部長）

[埋蔵文化財調査室]

室　長　下條信行
調査員　田崎博之（法文学部･助教授･埋蔵文化財論）
　　吉田　広（法文学部・講師・原始文化論）
　　三吉秀充（法文学部・助手・先史考古学）
専門員　松原弘宣
　　川岡　勉
　　村上恭通（法文学部・助教授・物質文化論）
補　助　宮崎直栄（施設部事務補佐員）
事　務　中岡一男（施設部企画課長）
　　田中　繁（施設部企画課企画係長）
　　城戸芳夫（施設部企画課企画係）
　　橋本麻紀（施設部事務補佐員）

以上の体制のもと、樽味遺跡４次調査および桑原西稲葉遺跡４次調査は、吉田・三吉が担当し、1997年度に立会形式で実施した桑原西稲葉遺跡５次調査も、担当は吉田・三吉である。なお、1994年度に立会形式で実施した桑原西稲葉遺跡３次調査は、田崎が担当し、宮崎が補佐した。

(2)　1998年度の調査体制

本格調査として実施した、樽味遺跡５次調査に関わる1998年度の埋蔵文化財調査委員会・調査室の体制は、以下の通りである。

[埋蔵文化財調査委員会]

委員長　鮎川恭三（学長）
委　員　小松光三（法文学部長）
委　員　向井康雄（教育学部長）
委　員　小松正幸（理学部長）
委　員　植田規史（医学部長・～1999.２.28）
　　前田信治（医学部長・1999.３.１～）
委　員　有井清益（工学部長）
委　員　西頭徳三（農学部長）
委　員　下條信行（法文学部・教授・先史考古学）
　　松原弘宣（法文学部･教授･日本歴史交流論）
委　員　川岡　勉（教育学部・助教授・歴史学）
委　員　田中　勇（事務局長）
委　員　山口久仁夫（庶務部長・～1998.６.30）
　　久保芳廣（庶務部長・1998.７.１～）
委　員　深谷英夫（経理部長）
委　員　鋳物良雄（施設部長）

[埋蔵文化財調査室]

室　長　下條信行
調査員　田崎博之（法文学部･助教授･埋蔵文化財論）
　　吉田　広（法文学部・講師・原始文化論）
　　三吉秀充（法文学部・助手・先史考古学）
専門員　松原弘宣
　　川岡　勉
　　村上恭通（法文学部・助教授・物質文化論）
補　助　宮崎直栄（施設部事務補佐員）
事　務　大谷　治（施設部企画課長）
　　氏原　修（施設部企画課企画係長）
　　鈴木優子（施設部事務補佐員）

以上の体制のもと、樽味遺跡５次調査は、吉田が担当し、宮崎・平塚幸人（愛媛大学法文学部聴講生・現仙台市地底の森ミュージアム富沢遺跡保存館）が補佐した。

(3) 整理体制の再整備

1997年度・1998年度に実施した樽味遺跡４次調査・同５次調査、そして桑原西稲葉遺跡４次調査・同５次調査については、発掘調査終了後、直後の洗浄・注記作業と、簡単な記録類の整理を行った。しかし、その後の諸工事に伴う小規模調査や、文京遺跡18次調査以降の、補正予算による調査室年度計画の変更等に伴い、出土遺物・記録類の整理は、長らくかえりみられることのない状態が続いた。

ところが、旧石器捏造問題を承けた文化庁からの、「埋蔵文化財の発掘調査に関する事務の改善」（平成12年11月17日付庁保記第236号」）の通知によって、適切な発掘調査報告書の作成が発掘調査主体（愛媛大学）の責務であることが、改めて喚起された。これを承けて愛媛大学では、年度毎の小規模な調査に関する報告と、大規模調査の概要報告を併せて『愛媛大学埋蔵文化財調査室年報』として刊行していくとともに、調査年次にかかわらず、可能なものから正式報告書を刊行していくこととした。樽味遺跡４次調査・同５次調査、桑原西稲葉遺跡４次調査・同５次調査についても概要は、『愛媛大学埋蔵文化財調査室年報－1997年度・1998年度－』において、既に報告しているところである。

報告書刊行にあたっては、以上の方針に基づき、埋蔵文化財調査室の整理体制の再整備も図られた。2001年度に１名、2002年度に２名（本報告書関連遺物整理は１名）の、出土遺物の実測・製図を行う技術を有した職員の採用である。

このように再整備された体制に基づいて、比較的出土遺物類の少ない樽味遺跡４次調査・同５次調査、そして桑原西稲葉遺跡４次調査・５次調査、さらには『愛媛大学構内遺跡集報Ⅰ』において概要のみが報告され、出土遺物の詳細は触れることができなかった、桑原西稲葉遺跡３次調査についても、併せて報告書作成が目指されることとなった。2001年度において、出土遺物類の接合・復元と一部実測・製図が行われ、2002年度に残る遺物の実測・製図・写真撮影、そして報告書作成の本格作業に移った。

(4) 2001年度・2002年度の整理体制

整理作業に関する、2001年度・2002年度の埋蔵文化財調査委員会・調査室の体制は、以下の通りである。

［埋蔵文化財調査委員会］

委員長　小松正幸（副学長）
委　員　藤川研策（法文学部長）
委　員　金藤泰伸（教育学部長）
委　員　真鍋　敬（理学部長・2001年度）
　　柳澤康信（理学部長・2002年度）
委　員　小西正光（医学部長）
委　員　清水　顕（工学部長・2001年度）
　　鈴木幸一（工学部長・2002年度）
委　員　白石雅也（農学部長）
委　員　下條信行（法文学部・教授・先史考古学）
　　松原弘宣（法文学部･教授･日本歴史交流論）
委　員　川岡　勉（教育学部・教授・歴史学）
委　員　塩谷幾雄（事務局長）
委　員　大和田和平（総務部長）
委　員　高橋伸一（経理部長）
委　員　土居昌弘（施設部長）

［埋蔵文化財調査室］

室　　長　下條信行
調 査 員　田崎博之（法文学部･教授･埋蔵文化財論）
　　吉田　広（法文学部・講師・原始文化論）
　　三吉秀充（法文学部・助手・先史考古学）
専 門 員　松原弘宣
　　川岡　勉
　　村上恭通（法文学部･助教授･物質文化論）
整理補助　宮崎直栄（施設部事務補佐員）
整理事務　秦　　稔（施設部企画課長）
　　稲見俊光（施設部企画課総務係長）
　　横本順子（施設部事務補佐員）

以上の体制のもと、整理作業は吉田・三吉の指示により、接合・復元等の作業を、井出野文江・生鷹千代・門田都・松本美和子・丸岡美智子・村上洋子（施設部技能補佐員）が行い、実測・製図等の作業を、上山喜也（施設部技術補佐員・2001年度）、嶋田史子（施設部技術補佐員・2002年度）が行った。

Ⅲ　樽味遺跡４次調査

1　調査の経過と方法

(1)　調査の経緯

1995年度の農学部附属農業高等学校の総合学科設置に伴い、これに対応した施設整備を図る必要が生じ、校舎新営が計画された。埋蔵文化財調査室ではこれを承けて、1996年11月に、計画建物本体部分についての事前試掘調査（調査番号：99603）を行った。その結果、本体部分では樽味団地基本層序Ⅲ層にあたる黒褐色系の遺物包含層は確認できなかったが、流路内堆積と樽味団地基本層序Ⅳ層の上面を現地表下50～70cmの深さで確認した。この成果に基づいて関係部局との協議を進め、校舎新営に先立って、工事予定地全面の発掘調査を実施することとした。さらに、詳細な建築計画の進行に伴って、校舎建設に伴う附属管路についての工事計画が埋蔵文化財調査室に提示され、これについての事前試掘調査を、1997年８月に改めて行った（調査番号：99707）。この調査成果によって、一部の管路については事前全面調査に含み込むことになったが、多くは、計画変更等の対応により、埋蔵文化財への影響がないと判断できたので、事前調査の対象からは除外することとなった。結果、建物本体と一部管路を含

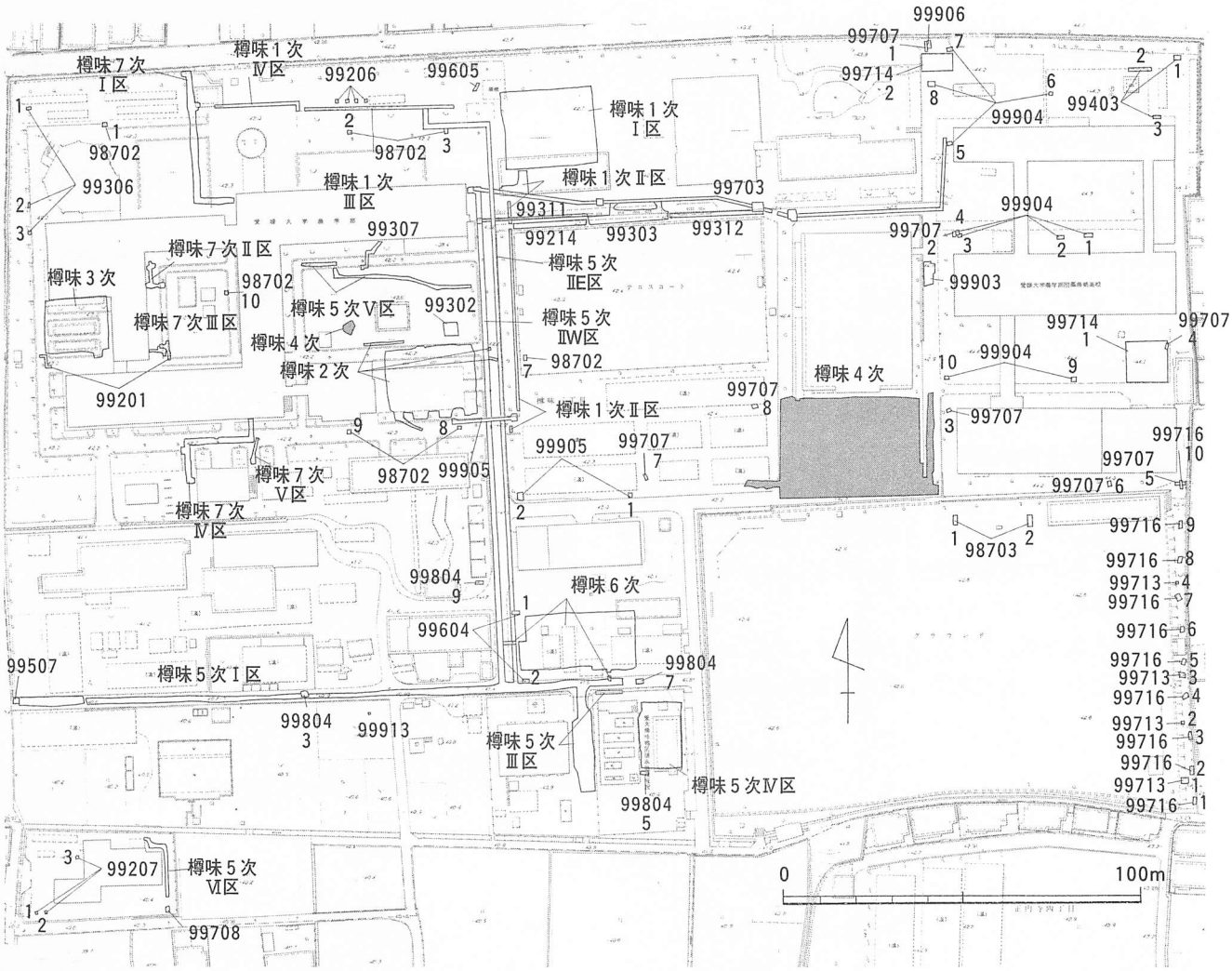


図３　調査地点位置図（縮尺１/2,000）

んだ調査対象面積は1,168㎡となり、1997年度に樽味遺跡４次調査（調査番号：99712）として実施することとなった（図３）。

樽味団地東部における初めての本格調査であり、団地東部の遺跡の実態把握を目的として調査に臨むこととした。

(2) 調査区割の設定と呼称

農学部構内に設置されている№１と№２の２点の平面直角座標系Ⅳ系に基づいた３級基準点から、座標点を移動し、これを基準として座標系に沿った５ｍ方眼の調査区割を設定した（図４）。各調査区割には、調査区南西隅に位置する（Ｘ＝92850・Ｙ＝－65140）を基準に、西から東へとＡ・Ｂ・Ｃ…、南から北へと１・２・３…との呼称を与え、この組み合わせによって、５ｍ方眼の調査区割とし、遺構の位置表示や、暗褐色シルト質土や流路埋土の掘り下げに際する遺物の取り上げ単位として利用している。

№１　Ｘ＝92931.851，Ｙ＝－65209.582，Ｈ＝42.243
№２　Ｘ＝92936.614，Ｙ＝－65083.907，Ｈ＝44.422

(3) 調査の経過

発掘調査は、1997年11月25日から表土剥ぎを開始した。事前の試掘調査に基づき、Ⅰ・Ⅱ層を重機を用いて掘削し、排土を搬出した。ここで本来なら、遺物包含層であるⅢ層を検出できるところであるが、調査区西半はⅣ層が現れ、東半は細かな土器片を含みしまりのある暗褐色シルト質土の広がりが認められた。事前試掘調査で認められた流路内堆積層との関係、および堆積層の厚さを確認するために、先行して一部重機により掘り下げを行った結果、暗褐色シルト質土が流路内堆積層の最上層に40㎝前後堆積していることが判明し、砂・砂礫の流路内堆積も、厚さ70㎝前後に及ぶことがわかった。

平面直角座標系Ⅳ系による区割にしたがい、暗褐色シルト質土を人力で掘り下げ、遺物を区画毎に取り上げた。そして、暗褐色シルト質土除去後、調査区全域について、Ⅳ層上面での遺構検出を行った。その結果、調査区東半に自然流路、西半北側でこの自然流路に合流する東西方向の溝が確認でき、他に若干の土壙や柱穴・小穴を認めることができた。その上で、各遺構について掘り下げを行い、写真・図面等の記録を作成していった。最終的に、完掘写真を１月30日に高所作業車を手配して撮影し、２月４日には、すべての発掘作業を終了し、現場を撤収した。

なお、今回の調査では、自然流路と溝の他、目立った遺構・出土遺物もなく、かつ附属農業高等学校敷地内ということもあって、外部に対する現地説明会は開催しなかった。ただし、附属農業高等学校から、10数名の職員・学生の見学希望者があり、２月２日に簡単な見学の機会を設けた。

(4) 遺構・遺物の登録番号と種別の表示

遺構はいずれも、Ⅳ層上面での検出である。遺構番号は１から付し、72に及ぶ（11は欠番）。遺構の種別は、SR：流路、SD：溝、SK：土壙、SP：柱穴・小穴、SX：その他の略号を遺構番号に冠して表した。

出土遺物のうち、調査時に原位置を記録したものについては、Rを冠した１からの番号を遺物取上番号として与える予定であったが、流路内堆積出土遺物がほとんどで、出土原位置を記録した遺物はない。出土遺物はいずれも、土層と調査区割単位あるいは遺構と埋土単位での取り上げである。この取り上げ単位に対して、整理時にRを冠した１からの遺物取上番号を付して、接合他の検討を行った。そして、報告書に記載すべき記録可能な個体を選別する時点で、１個体（実測図単位）に対して、改めてRを冠した1000番台の遺物実測番号を与え、別色で追加注記している。出土遺物観察表の実測番号がこれにあたる。遺構出土がR1001～1124、明褐色砂質土出土がR1201～1208、暗褐色シルト質土出土がR1301～1393、表土層・Ⅱ層の攪乱出土がR1401～1429である。

2　調査の概要

調査地点　松山市樽味３丁目５番７号
愛媛大学農学部附属農業高等学校
校舎新営予定地

調査番号　99712

調査面積　1,168㎡

調査期間　1997年11月25日～1998年２月４日

調査担当　吉田　広・三吉秀充

(1)　土層の堆積状況

基本層序は上位からⅠ～Ⅴ層である（Ⅰ-２参照）。調査区西半ではⅠ層直下でⅣ層が確認され、東半ではⅠ・Ⅱ層の下、Ⅳ層の上に、細かな土器片を含みしまりのある暗褐色シルト質土、明褐色砂質土が堆積する。暗褐色シルト質土は北壁で約40cm、南壁で約70cm堆積し、出土遺物・土質などからⅢ層の再堆積と考え、調査段階では「Ⅲ′層」とした。明褐色砂質土は、暗褐色シルト質土下、調査区北東部に広がり、最厚で約10cm堆積する。すべての遺構は、暗褐色シルト質土と明褐色砂質土除去後Ⅳ層上面で確認した。

(2)　遺構と遺物

確認した遺構は、以下の通りである。

自然流路　１条（SR-１）
溝　２条（SD-２・72）
土壙　８基
（SK-10・12・56～58・68・69・71）
不明　22基
（SX-23・28・29・32・36～45・49・50・52～55・66・70）
柱穴・小穴　38基
（SP-３～９・13～22・24～27・30・31・33～35・46～48・51・59～65・67）

遺構出土遺物の大半は、自然流路SR-１からの出土で、弥生から８世紀の遺物を含む。他にSD-２を除くと、遺構出土遺物は極端に少ない。微細な出土遺物と土層から判断する限り、ほとんどの遺構は、古代～中世と考えられる。その他、暗褐色シルト質土・明褐色砂質土からは、近世陶磁器の混入もあるものの、10～12世紀の遺物が出土している。

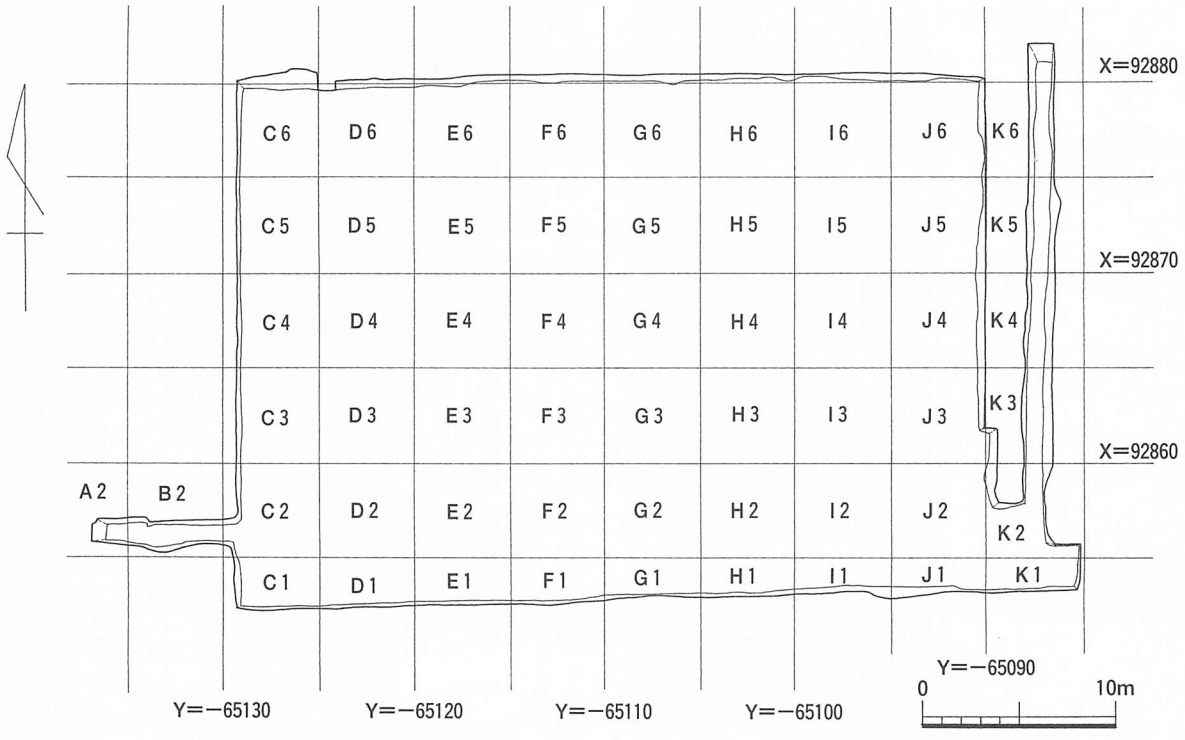


図４　調査区割図（縮尺１/400）

3　調査の記録

Ⅰ・Ⅱ層を重機掘削し、暗褐色シルト質土・明褐色砂質土を遺物包含層として人力で掘削し、Ⅳ層上面で遺構検出を行った。検出した主要な遺構は、調査区東側の自然流路１条（SR－１）と、この流路に連なる東西方向の溝１条（SD－２）であり、他に若干の土壙や柱穴・小穴がある（図５、図版１・２－１）。

(1) **SR－１**（図６、図版２-２・３）

暗褐色シルト質土・明褐色砂質土除去後、調査区の東端で確認した自然流路である。南北方向に延びるが、北半では北東から南西方向に、南半では蛇行して南東方向へ続く。流水の方向は北から南である。調査区内では西岸を検出したのみで、東岸は調査区外で明らかではない。しかし、底面の傾斜や埋没土層の観察から、調査区から大きく東へ広がるとは考えにくく、川幅は東西15～20m程度と推測される。検出時点での深さは、西岸のⅣ層上面との比高差で、約１m。上部には暗褐色シルト質土・明褐色砂質土層が堆積するが、その下の灰褐色砂質土以下の砂層、砂礫層をSR－１の埋土として掘り下げを行った。

遺構検出並びに掘削の段階では、自然流路全体をSR－１として、大きな単位と認識していたが、北壁土層、南壁土層断面の観察から、SR－１と呼称する自然流路内にも、埋没する過程で幾つかの単位が認められた。北壁土層では、12～19層、20～28層とその他の層で数単位見られる。南壁土層では、５～13層、14～20層、21～39層、40～48層と最低４つの埋没単位が窺える。また、中央土層断面の観察では、幅３m弱の溝（SD－72）がSR－１の西岸付近に認められる。

SR－１内北西部および南西部にはテラス状の段が見られる。北西部の段は、北壁から南へ約８mに渡って３段ほど見られる。これらは、取水を目的とした水口の可能性が考えられるが、SR－１北西部は攪乱を受けていることもあり、取り付きの溝の有無については確認できない。一方、南西部のテラス状の段は幅１mに満たないものである。また段上には柱穴状遺構が２基見られるが、人工的なものか不明である。

上層の灰褐色砂質土・砂層からも遺物は出土しているが、圧倒的に多くの遺物は、下層の拳大の砂礫層（北壁土層18層、中央土層18・19層）から出土している。以下図化したものについて説明していく（図７～13、図版６～７-４）。

図７は、灰褐色砂質土・砂層出土遺物。１～４が砂層出土で５が灰褐色砂質土出土。１は弥生土器の甕口縁である。頸部に断面三角形の突帯を貼り付け、体部は大きく開く。東北部九州系の弥生後期終末期のものと思われる。２は土師器椀の底部片。３は須恵器の坏底部で、径が13.4cmとやや大きい。高台は短く幅広。８世紀後半。４は大壺の胴上部～頸部。口縁はほぼ直上に伸び、口縁外面には一部カキメが見られる。５は須恵器の壺口縁部。

図８～12は砂礫層出土。１～29は弥生土器。１は前期の壺口縁で、口頸部境の段がわずかに残る。２は口縁逆Ｌ字状の甕で、端部を跳ね上げる。頸部に押圧突帯。３～５は甕底部。３は平底。４・５は上げ底状。６は大型壺の口縁。外に大きく開き端部は上方に肥厚させて幅広の面をもつ。７は壺の胴頸部片。頸部に幅３cm程の粘土帯を貼り付け、櫛目状の工具で上下２段の押圧を行う。８～24は底部片。16～20は狭い平底。17の底部外面は指押さえの凹凸が顕著。18は３cm程の厚底で、内面には棒状のもので押さえたような窪みが残る。19は内面にはクモの巣状にハケメの痕跡が残る。22～24は大型壺の底部。25は外反する壺の口頸部。外面には縦方向の粗いハケメが施される。26も壺の口頸部。口縁は大きく外反し、頸部に縦ハケメの後、突帯を貼り付け斜格子状に押圧を施す。27は丸底の甕底部で、やや尖りぎみ。28は高坏の坏部。外に大きく開く口縁で、内外面に明瞭な稜をもつ。29は支脚。中実で器高は低く円柱状で、側面・上面には指頭を顕著に残し、上面は窪む。側面には火を受けた痕跡が見られる。25～29は後期後半～終末。

30～36は土師器。30～34は甕。30は直線的に伸びる胴部から緩やかに外反し、口縁は厚みをもち、内外面とも屈曲部にゆるい稜が入る。31は内面屈曲部に面をもち、外面に「ノ」の字状の沈線文が施される。胴部は大きく外に張る。32は厚みのある口縁で若干内傾し、端部は丸く収める。33の口縁は厚く、内湾する。34は直線的で張りをもたない筒状の胴部から、外面で

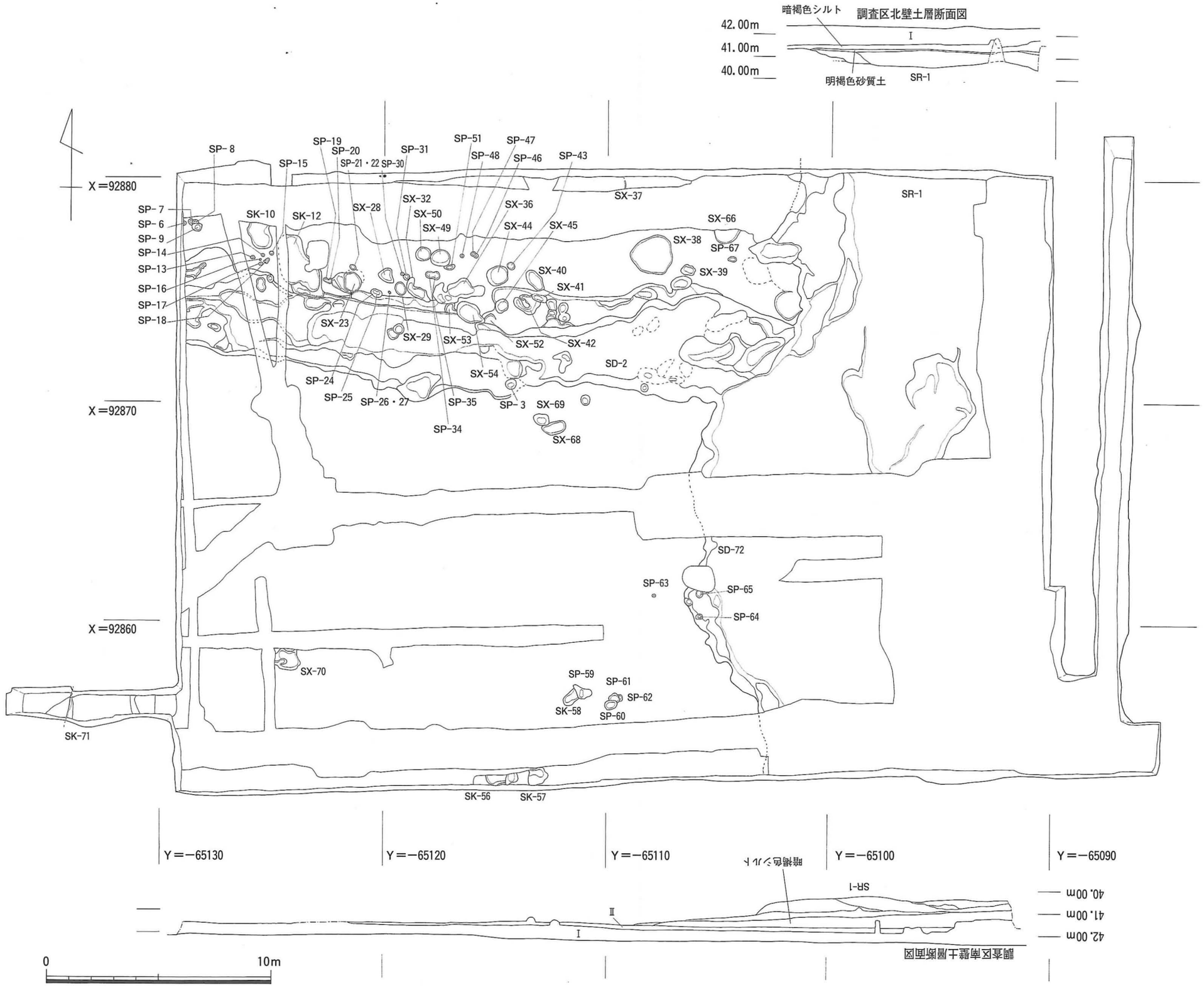


図５　遺構配置図（縮尺１/200）

図６　土層注記

調査区北壁土層

1　黒褐色（10YR2/3）シルト。本来のⅢ層に近い。ブロック状に明黄褐色土が混じる。しまりあり。
2　黒褐色（2.5Y3/2）シルト。色調薄いが、粘性は上層に比べてやや高い。
3　暗灰黄色（2.5Y5/2）砂質土。0.1㎜の細砂が少し混じる。粘性あり。
4　黄灰色（2.5Y4/1）砂質土。４層に比べ、やや粘性高い。しまり弱い。
5　黄灰色（2.5Y4/1）砂質土。シルト質土がラミナ状に混じる。
6　暗灰黄色（2.5Y4/2）砂質土。粗砂は１㎜未満主体。３㎜程の礫が混じる。しまり弱い。
7　にぶい黄色(2.5Y6/3)砂質土。鉄分の沈着あり。
8　暗灰黄色（2.5Y5/2）砂質土。0.1㎜の細砂が混じる。しまり弱い。
9　黄灰色（2.5Y4/1）砂質土。0.5㎜の礫が主体で、２㎜の礫が混じる。しまり弱い。
10　オリーブ褐色（2.5Y4/3）砂質土。砂粒がラミナ状に入る。やや粘性高い。
11　黄灰色（2.5Y6/1）砂礫。0.5～１㎜の粗砂が中心だが、２cmまでの砂礫が多数混じる。
12　暗灰黄色(2.5Y4/2)シルト。0.5㎜以下の粗砂を散在させ、ややしまりあり。
13　にぶい黄色(2.5Y6/3)砂質土。鉄分の沈着あり。
14　にぶい黄色（2.5Y6/3）砂質土。砂礫混じり。
15　黄灰色（2.5Y5/1）砂礫層。１㎜の粗砂主体。３㎜の礫が混在。しまり弱い。
16　黄灰色（2.5Y5/1）砂質土。１㎜前後の粗砂主体。１～２㎜の砂粒も混在。しまりあり。
17　黄褐色（2.5Y5/3）砂質土。ラミナ状に鉄分の沈着あり。しまり弱い。
18　黄灰色（2.5Y6/1）砂礫。１～５㎜の砂礫主体。拳大の礫も多数混じる。遺物含む。また、所々にラミナ状の粒度の細かい砂帯あり。
19　暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト混じりのオリーブ褐色（2.5Y4/6）砂礫。シルトがブロック状に混じる。しまり弱い。遺物含む。
20　黄灰色（2.5Y4/1）砂質土。５㎜の礫、明黄褐色土の小ブロックが少量混じる。しまりあり。
21　黄褐色（2.5Y5/4）砂質土。
22　暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）砂質土。１㎜未満のやや粗い砂粒が混じる。明黄褐色の微細ブロック粘質土がラミナ状に堆積。ややしまりあり。
23　黄灰色（2.5Y4/1）シルト。砂粒、明黄褐色土の微細ブロックを含む。粘性あり。しまりあり。
24　黄灰色（2.5Y4/1）シルト。12層に比べ、砂粒の割合多く、粘性あり。
25　黄灰色（2.5Y4/1）砂質土。１㎜未満の砂粒、シルトが混じる。やや粘性あり。
26　黒褐色（2.5Y3/1）シルト。粘性強い。砂粒が混じる。
27　暗灰黄色（2.5Y4/2）砂質土。鉄分の沈着あり。
28　黒褐色（2.5Y3/1）シルト。粘性強い。砂礫、５㎜の明黄褐色砂質土のブロックが混じる。

調査区中央土層

明褐色砂質土

a　明褐色(7.5YR5/6)シルト。鉄分の沈着層。
b　黄褐色（2.5Y5/3）砂質土。暗褐色シルト質土に比べ、５㎜の砂礫が多く混じる。

SD-72

1　黄褐色（2.5Y5/3）砂質土。明黄褐色シルトのブロックが混じる。0.1㎜程の砂粒が混じる。やや粘性あり。
2　にぶい黄褐色（10YR5/4）砂質土。0.5㎜の砂粒が混じる。ラミナ状に鉄分の沈着あり。
3　黄灰色（2.5Y6/1）砂質土。１㎜の砂粒で４層よりさらに粗い。しまり弱い。
4　暗灰黄色（2.5Y5/2）砂質土。砂粒が混じらない。オリーブ褐色シルトの小片点在。しまりあり。
5　暗オリーブ褐色粘質土。帯状に堆積。粘性強い。
6　オリーブ褐色砂質土。
7　暗灰黄色（2.5Y5/2）砂質土。５層に同じ。９層との境付近に１㎜の溜まりあり。
8　黄灰色（2.5Y6/1）砂礫。１㎜の砂粒に５㎜の砂礫が混じる。しまり弱い。
9　暗灰黄色（2.5Y5/2）砂質土。７層に同じ。
10　黄灰色（2.5Y4/1）砂礫。１㎜の砂粒に５㎜の砂礫が混じる。しまり弱い。11層に同じ。
11　黄灰色（2.5Y5/1）砂礫。１㎜前後の砂粒間に１～５㎜の砂礫が多数混じる。しまりやや弱い。
12　暗灰黄色(2.5Y5/2)砂質土。上面粘性強い。砂粒は0.1㎜。
13　黒褐色（2.5Y3/2）砂質土。しまりあり。

SR-1

1　明黄褐色（10YR6/8）砂礫。0.5㎜の砂粒中に３㎜の砂礫が多く混じる。しまり強い。
2　黄灰色（2.5Y6/1）砂。１㎜前後の砂粒。
3　褐色（10YR4/4）砂礫。
4　黄灰色（2.5Y5/1）砂礫。１～２㎜の砂粒。粗く、しまり弱い。
5　にぶい黄褐色（10YR5/4）砂礫。３㎜の礫が混じり、その間に幅0.1㎜前後の砂層がラミナ状に入る。
6　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂礫。３㎜の礫が混じり、その間は0.1㎜の砂粒が混じる。
7　褐色（10YR4/3）砂質土。0.5㎜の砂粒。しまりあり。
8　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂礫。３㎜の礫が混じり、その間は0.1㎜の砂粒が混じる。
9　黄褐色（2.5Y5/4）砂質土。砂粒は0.1㎜。しまりあり。
10　明黄褐色（10YR6/6）砂質土。0.1㎜以下の細かい砂粒中に、１㎜の砂粒層がラミナ状に混じる。
11　にぶい黄橙色（10YR6/4）砂質土。0.1～0.5㎜の砂粒。
12　暗灰黄色（2.5Y5/2）砂質土。0.1㎜の砂粒。しまり弱い。
13　オリーブ褐色（2.5Y4/3）砂質土。１㎜前後の砂粒中に、３㎜の砂礫が混じる。
14　灰白色（2.5Y7/1）砂礫。１～２㎜の砂粒。しまり弱い。
15　黄灰色（2.5Y6/1）砂礫。１～２㎜の砂粒に５㎜までの砂礫が混じる。しまり弱い。
16　灰黄色（2.5Y6/2）砂質土。１～２㎜の砂粒。しまりあり。
17　暗灰黄色（2.5Y5/2）砂質土。0.1㎜の砂粒でややしまりあり。0.5㎜の砂粒が少し混じる。
18　暗黄灰色（2.5Y5/2）砂礫。１～５㎜の砂礫。ややしまりあり。遺物混じる。
19　褐色（7.5YR4/6）砂礫。１～５㎜の砂礫。しまりあり。遺物が混じる。

調査区南壁土層

Ⅱ-1　黄灰色（2.5Y6/1）シルト。１～２㎜の砂粒をやや含む。しまりあり。水田耕作土。
Ⅱ-2　黄褐色（2.5Y5/3）シルト。１～２㎜の砂粒をやや含む。粘性、しまり強い。水田床土。
1　暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）シルト。２～３㎜の明黄褐色土ブロックが多く混じる。しまりあり。遺構埋土か。
2　暗オリーブ褐色シルト。２～３㎜の明黄褐色土小ブロックが多く混じる。しまりあり。
3　褐色（10YR4/4）砂質土。鉄分の沈着あり。１㎜の砂粒を含む。しまりあり。
4　暗灰黄色シルト。
5　暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト。１cm未満の明黄褐色ブロックが少し混じる。しまりあり。
6　黄灰色（2.5Y5/1）砂質土。５㎜未満の明黄褐色ブロックがかなり混じる。しまりあり。
7　黄灰色(2.5Y5/1)砂質土。２㎜の礫が混じる。しまり弱い。
8　灰黄色（2.5Y7/2）シルト。２㎜の礫が少し混じる。
9　にぶい黄色(2.5Y6/3)砂質土。５㎜の礫。しまり弱い。
10　黄灰色（2.5Y5/1）砂。２㎜の礫が少し混じる。
11　黄灰色（2.5Y6/1）砂質土。一部シルト質を呈する。１㎜の砂粒が混じる。
12　黄灰色（2.5Y6/1）砂質土。１㎜の砂粒が混じる。
13　暗灰黄色（2.5Y5/2）砂礫。１㎜の砂粒が主。５㎜の礫が混じる。しまり弱い。
14　黄灰色（2.5Y5/1）砂質土。１㎜の砂粒主体。１cmの礫が混じる。
15　黄褐色（2.5Y5/3）砂質土。0.5㎜の砂粒が混じる。しまり弱い。
16　にぶい黄褐色（10YR5/4）砂質土。0.5㎜の砂粒が混じる。幅１㎜前後の層がラミナ状に入る。

図6　SR−1実測図（縮尺1/80）

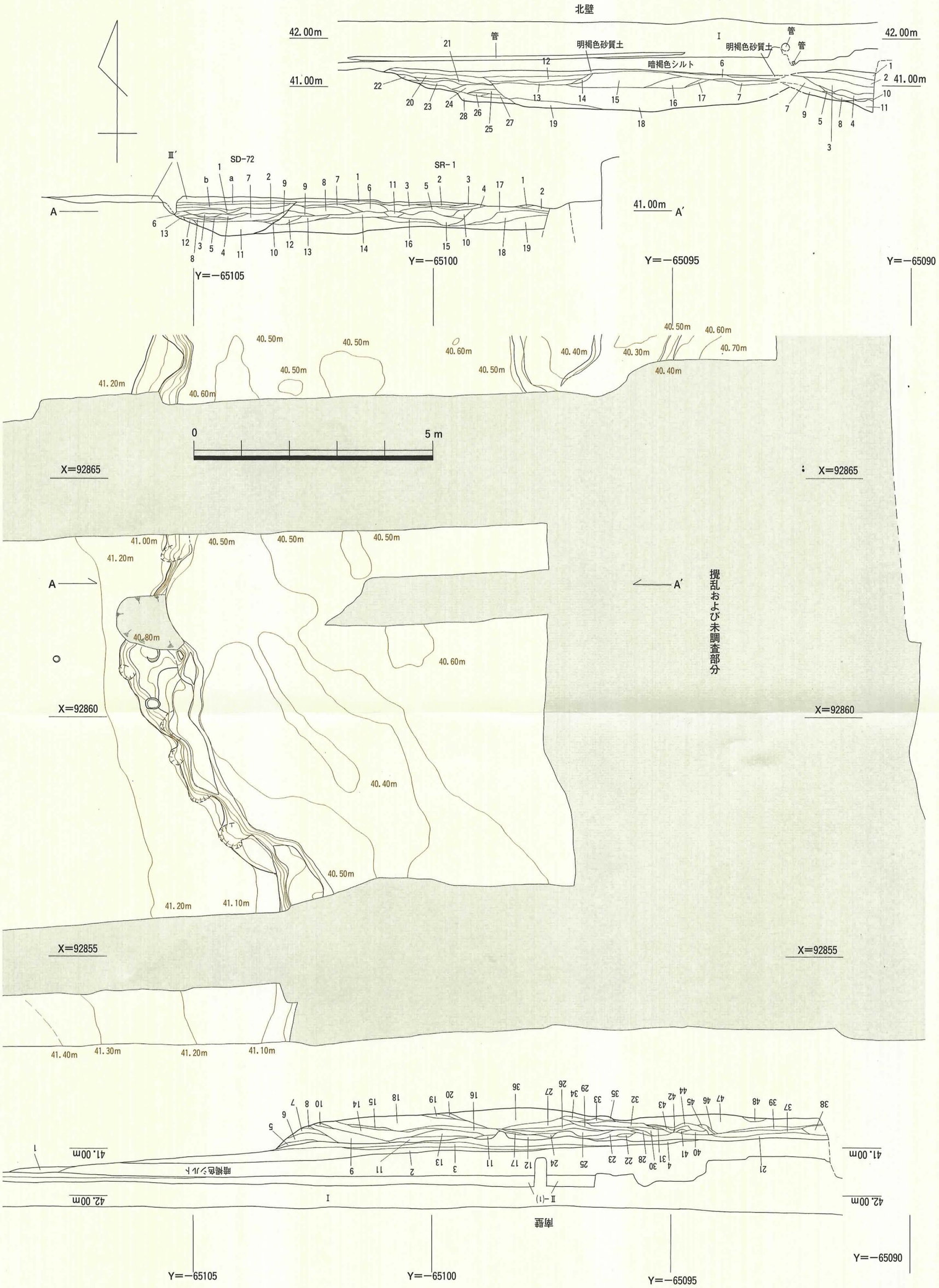

北壁
42.00m
41.00m
管
明褐色砂質土
暗褐色シルト
SD-72
SR-1
A
A′
Y=−65105
Y=−65100
Y=−65095
Y=−65090
X=92865
X=92860
X=92855
0
5 m
攪乱および未調査部分
南壁
暗褐色シルト

図６　土層注記
調査区南壁土層

17　黄灰色（2.5Y5/1）砂質土。0.5㎜の砂粒を含む。シルト質を呈する部分も認められる。
18　褐色（7.5YR4/4）砂質土。１㎜の砂粒中に５㎜の礫が混じる。
19　灰色（5Y5/1）砂質土。１㎜未満の砂粒が混じる。
20　黄灰色（2.5Y4/1）シルト。粘性高い。溜まり。
21　黄灰色（2.5Y6/1）砂質土。0.1㎜の砂粒が混じる。わずかにシルト質を帯びる部分も認められる。しまりあり。
22　にぶい黄橙色（10YR6/4）砂質土。0.5㎜未満の砂粒が混じる。しまり弱い。
23　灰黄色（2.5Y6/2）砂質土。0.1～１㎜の砂粒が混じる。シルト質を呈する部分も認められる。ややしまりあり。
24　にぶい黄色（2.5Y6/3）砂質土。0.5㎜の砂粒が混じる。しまりあり。
25　黄灰色(2.5Y6/1)砂質土。0.5～１㎜の砂粒。しまり弱い。
26　灰黄色（2.5Y6/2）砂質土。0.1㎜以下の砂粒からなり、0.1㎜以上の砂粒がラミナ状に混じる。
27　明褐色（7.5YR5/6）砂礫。１～５㎜の砂礫が混じる。しまり弱い。
28　黄灰色（2.5Y6/1）砂質土。0.5㎜未満の砂粒が混じる。しまり弱い。
29　にぶい褐色（7.5YR5/4）砂質土。１～３㎜の砂礫が混じる。しまり弱い。
30　黄灰色（2.5Y6/1）砂質土。0.1㎜の砂粒が混じる。しまり弱い。
31　黄灰色（2.5Y6/1）砂質土。２㎜未満の砂粒が混じる。しまり弱い。
32　にぶい黄橙色（10YR6/3）砂質土。１㎜未満の砂粒が混じる。ややしまりあり。
33　明褐色（7.5YR5/6）砂礫。１～５㎜の砂礫が混じる。しまり弱い。
34　黄褐色（10YR5/6）砂質土。１～３㎜の砂礫が混じる。しまり弱い。
35　黄灰色（2.5Y5/1）シルト。２㎜未満の砂礫がかなり混じり、やや砂質あり。
36　灰黄褐色（10YR6/2）砂礫。１㎜の砂粒を主体として、３㎝の砂礫が混じる。
37　黄灰色（2.5Y6/1）砂質土。0.1㎜の砂粒が混じる。しまり弱い。
38　黄灰色（2.5Y6/1）砂礫。0.5～５㎜の砂礫が混じる。しまり弱い。
39　黄灰色（2.5Y5/1）シルト。0.1㎜の砂粒がやや混じる。粘性あり。
40　黒褐色（2.5Y3/2）シルト。褐色（10YR4/4）シルトがラミナ状に混在するとともに、１㎝未満の灰白色(2.5Y8/2)シルトブロックが混じる。
41　黒褐色（2.5Y3/1）シルト。
42　黄灰色（2.5Y5/1）砂質土。0.1～0.5㎜の砂粒中に、１㎜前後の砂粒が混じる。しまりあり。
43　黄灰色（2.5Y6/1）砂質土。0.1㎜の砂粒が混じる。しまり弱い。
44　黒褐色（2.5Y3/1）シルト。
45　黄灰色（2.5Y5/1）砂質土。0.1～0.5㎜の砂粒が混じる。しまり弱い。
46　黒褐色（2.5Y3/1）シルト。
47　にぶい褐色（7.5Y5/4）砂質土。１㎜前後の砂粒中に、２㎜未満の砂粒が混じる。
48　にぶい黄色(2.5Y6/4)砂質土。0.5㎜の砂粒。しまり弱い。

は胴部と口縁部の境で段をもち、わずかに外に開き口縁となる。口縁端部は先細り。35は丸みを帯びた体部の椀で、口縁がナデによりやや内傾し先細りする。内外面は多方向のミガキが施され、底部外面はケズリが施される。精製土を用い、赤彩していた可能性がある。36は、口縁がナデにより外反し先細りする坏。

37～89は須恵器。37～41は坏蓋。37は天井部と口縁部の境目が明瞭な段で、ケズリは天井部の３/４を占める。５世紀後葉。38は境目の段が沈線状となりやや新しい。39は全体的に厚ぼったく、重量感があるが軟質。40の境界はさらに曖昧となる。いずれも６世紀前葉。41は天井部と口縁の境目がなくなり、器高も低く扁平。端部には浅い沈線状の擦痕が見られる。６世紀後葉。42～51は坏。42～44は端部に内傾する凹線状の段をもつ。51は受け部が短く薄いわりに、法量が大きい。42は５世紀末から６世紀初。43は６世紀前葉。44～47は６世紀中葉。48～50は６世紀後葉。51は６世紀末～７世紀初。52・53は蓋。52は宝珠形つまみをもつタイプが想定され、７世紀前葉。53はかえりをもたず、端部を内面下方に屈曲させる。54は坏としているが、小型であることから、壺蓋の可能性も考えられる。55・56は坏もしくは椀の口縁部。55は口縁端部付近に強いナデを施し、緩やかに外反し先細りする。56の体部は丸みをもち端部はナデにより若干外反する。57は坏。外方向へ開く短めの高台で、接地部は平ら。８世紀前葉。58～61は坏底部。59の焼成はやや軟質。62・63は高坏の脚柱部。62は２方向の透かし、63は透かしなし。64は皿の口縁部。８世紀初頭。65は鉢。径は小さく口

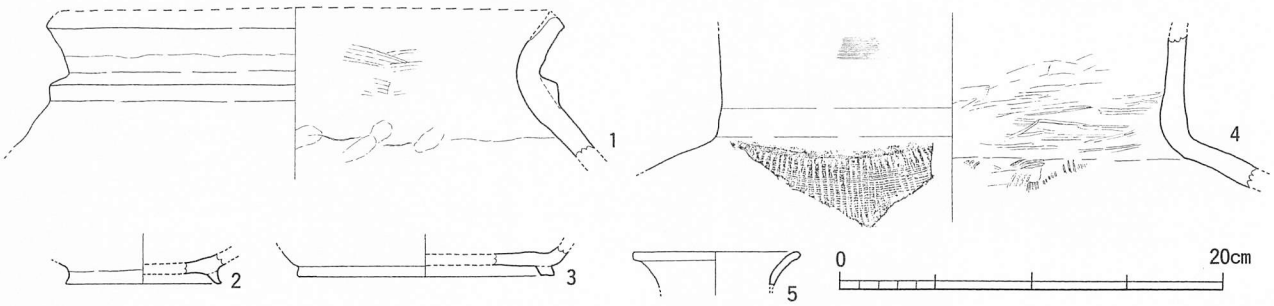


図７　SR－１灰褐色砂質土・砂層出土遺物実測図（縮尺１/４）

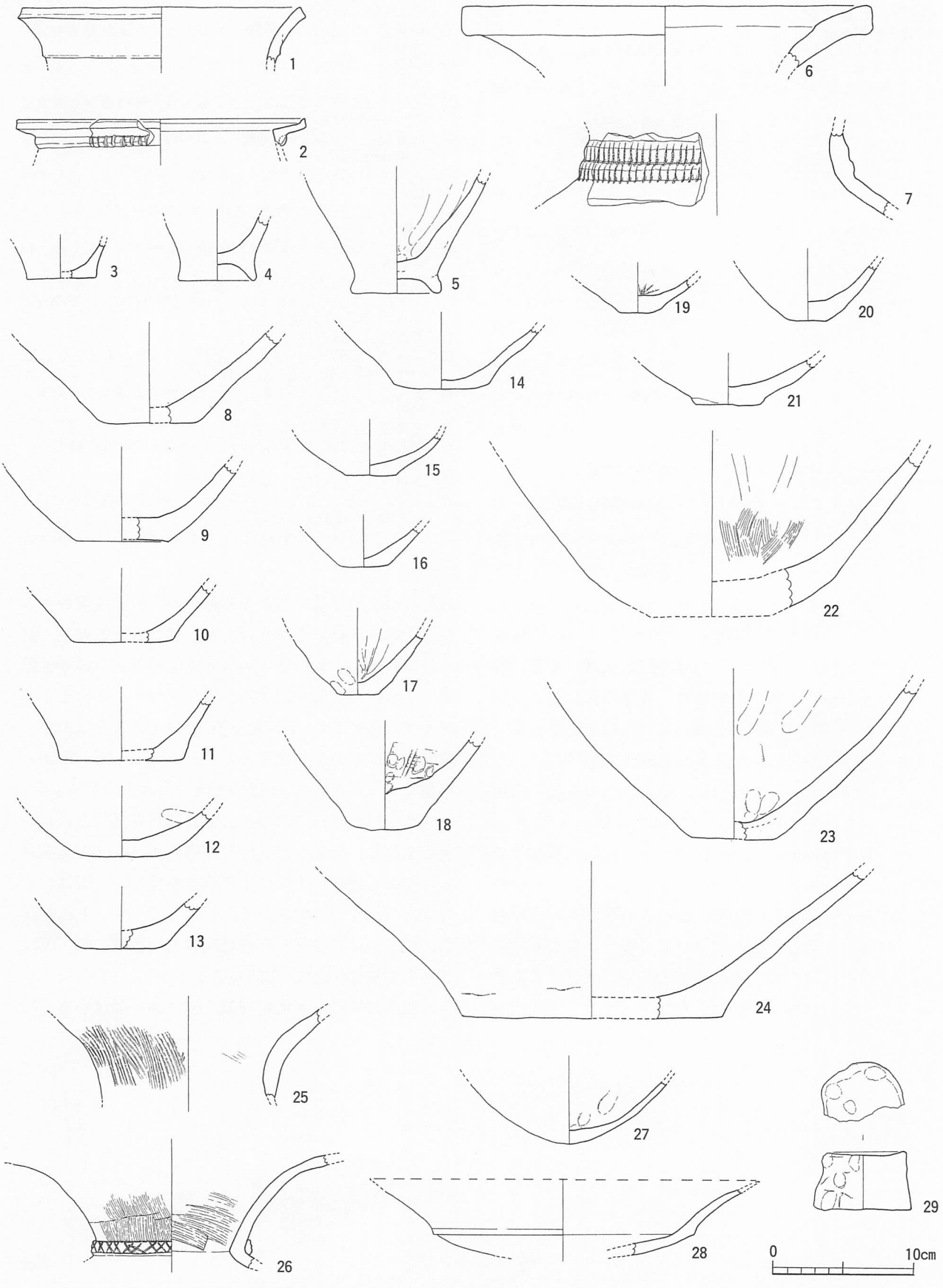


図８　SR－１砂礫層出土遺物実測図(1)（縮尺１／４）

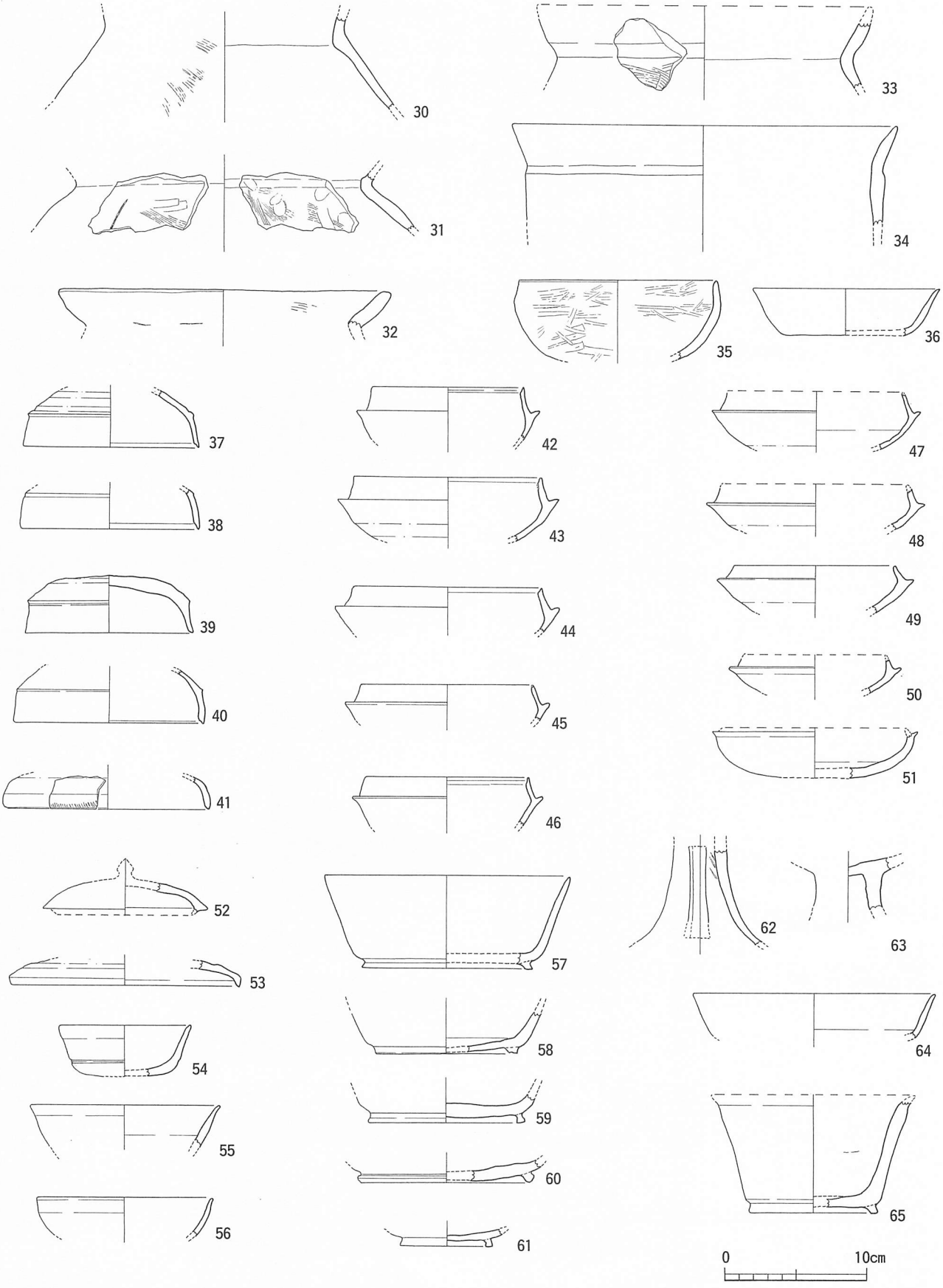


図９　SR－１砂礫層出土遺物実測図(2)（縮尺１／４）

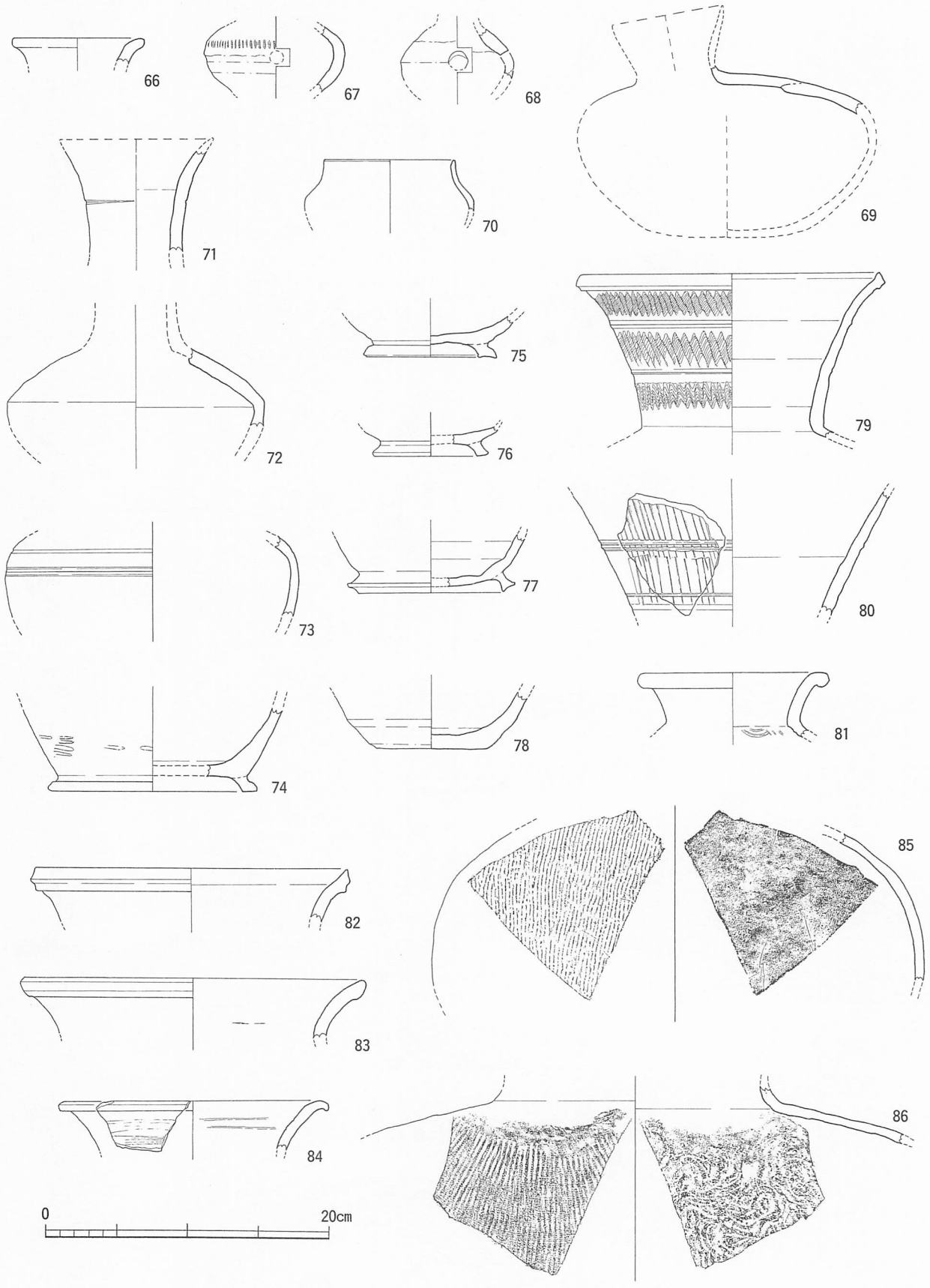


図10　SR－１砂礫層出土遺物実測図(3)（縮尺１／４）

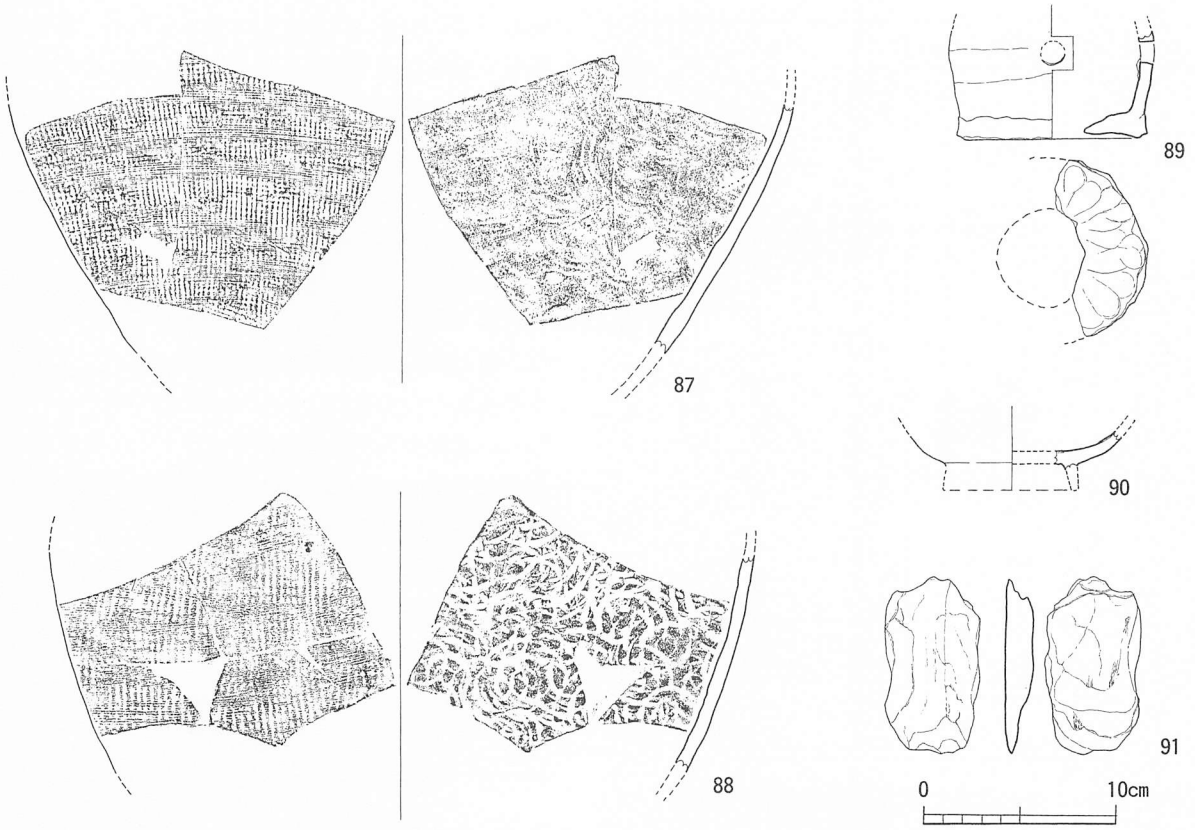


図11　SR－１砂礫層出土遺物実測図(4)（縮尺１／４）

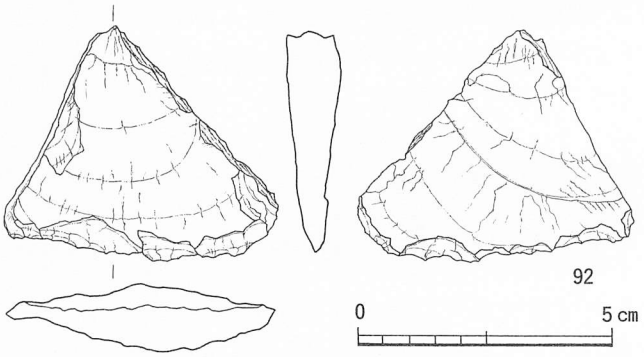


図12　SR－１砂礫層出土遺物実測図(5)（縮尺２／３）

縁部は先細り。

66は提瓶の口縁部。径9.2cmとやや大きい。67・68は瑞の胴部。いずれも小型で、67は胴部やや上方に押圧櫛目文。68は口縁部との接合が器壁の厚みの差異に明瞭に残る。69は平瓶の体部片。粘土円盤による閉塞の状況が窺える。70は小型短頸壺の口縁。71～73は長頸壺。71は頸部で、外面に沈線を巡らすが一周しない。72は算盤玉状の胴部片。頸部と体部の接合痕が一部残る。73も体部片であるが、胴部の張りは弱い。74～77は底部。77の高台は内端部で接地する。78は壺底部。下方にはケズリが施されている。79～81は広口壺の口縁部。79は２本の突帯で区画された中に波状文を３段に施す。80は、外面に横ハケメ後、浅い幅広の型押ししたような規則正しい間隔の縦方向の調整を施したのち、２条の沈線により上下を区画する。81は端部を下方に巻き込む。

82～84は大甕か壺の口縁部。84はやや赤味がかった灰白色。85は初期須恵器の大甕胴部片。外面は縦方向の平行タタキ、内面は円形無文当て具痕の重複が薄く残る。86～88は大甕の胴部片。89は焼き台状の形態をとるが、二次焼成はなく、器種不明。底部からやや内傾する体部には径１cm程の穿孔があり、底部に径４～５cm程の円孔が開く。外底部には円弧状に指押さえ痕が顕著に残る。

90は白磁碗の底部片。内外面の高台に至るまで、施釉が見られるが、内面見込み部では環状に釉を掻き取る。12世紀中頃～後半。

91は緑色片岩石材。92はサヌカイト製スクレイパー。平面三角形で厚みのある剥片を素材に用い、背面の右側面には素材面を残す。刃部は両面調整剥離。

図13は調査区北壁際のSR－１埋土を断ち割った際に出土した遺物。１は弥生土器壺の口縁部。端部は上方

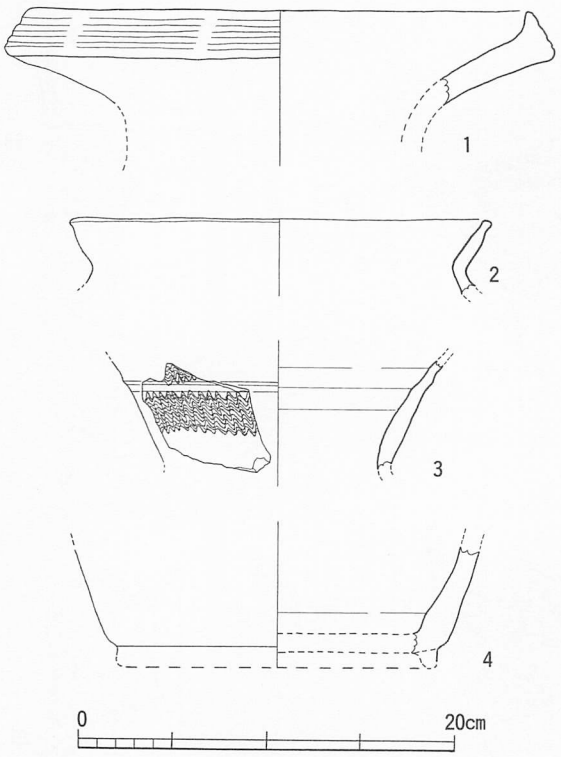


図13　SR－１北壁際断割出土遺物実測図（縮尺１／４）

に肥厚し、３条の凹線文を施す。後期前半段階。２は土師器の甕口縁部。３・４は須恵器。３は広口壺の口縁部。低めの突帯で区画し波条文を施す。４は長頸壺底部。８世紀前半。

以上の出土遺物は、90の12世紀に下がる白磁碗を除いて、ほぼ８世紀前半以前に限定でき、SR－１は基本的に８世紀前半で埋没していたとすることができよう。

(2)　SD－２（図14・15、図版４-2～５-3）

概要報告ではSR－２と報告したが、人工的な溝の要素が強いため、本報告ではSD－２として取り扱う。

暗褐色シルト質土除去後、調査区北半で東西方向に確認された溝である。調査区東端では、SR－１上面で検出できたことから、SR－１に後行する。平面プランと土層断面の所見から、上層と下層に分離が可能である。溝底面のレベル等から、西から東に流水しているものと考えられる。

上層溝は、検出面から最深で約20㎝を測る。溝の埋土下半は、径１㎜未満の砂粒を伴う砂質土が堆積しており、底面にそって鉄分の沈着層が認められる。粘性を帯びた土の堆積が見られないことなどから、溝の機能低下は洪水砂によるものと考えられる。溝の西端は後世の掘削により削平され途切れるが、その直前の溝幅は１～1.5mと幅狭である。そして、Y＝－65125～－65115の約10m間では、３m近くを測り幅広であるが、Y＝－65115付近で約１mと急激に幅を減じて東側に続く。幅広部分も、土層観察からすると、複数の溝が切り合っている状況になく、意図的に溝幅を狭めている可能性が高い。また、Y＝－65120～－65116には、溝の北岸にテラス状の段が認められる。以上のような状況からすると、溝の幅広部分で西からの流水を貯め、北岸のテラス状の段を水口として取水していたことが想定される。そうすると、溝幅が急激に減じるY＝－65115付近に堰などの敷設が想定されるが、柱穴などの附随遺構は確認できていない。

下層溝は、調査区の西端から調査区東端へとほぼ東西方向に続く。溝の深さは、検出面から約50㎝。埋土は、砂礫混じりの黄褐色もしくは黄灰色系の砂質土である。流水があったことが明らかであるとともに、幾たびかに及ぶ砂礫を伴った洪水によって溝が機能しなくなったと考えられる。

溝はSR－１に接するやや西側、Y＝－65105付近で、２本の溝（北側を①、南側②とする）に分かれる。SD－２下層①はSR－１上面で確認しており、SR－１に後行するものである。SD－２下層②はSR－１の上面で平面プランを追えていないことから、SR－１と同時期か、SR－１に先行するのか不明。SD－２下層の南岸西側および北岸中央部（図15の網掛け部分）はテラス状の段を呈しており、水口などの関連施設の可能性が高い。川幅は調査区西端で約2.5m、Y＝－65120～－65113ではテラス部分を除くと1.5～２mを測る。その後、南岸は南に突出し徐々に溝幅を広げ、二股に分かれる直前のY＝－65103付近で、最大幅約５mを測る。おそらく、南岸が南側に突出するY＝－65113付近で２つの溝が合流し、溝幅が広くなっていると考えられる。ただ、急激に溝幅が広がる大きな要因は見いだせないことから、SD－２下層①とSD－２下層②は切り合い関係の可能性も考えられる。そうであるならば、どちらかの溝はSD－２下層をある段階に付け替えたために掘り返されたと想定される。

SD－２出土遺物は細片が多いが、若干図化できたものがある。図16が上層出土、図17が下層出土である。

上層出土で図化できたのは６点。１～５は土師器。１は甕の口縁でやや内湾する。器壁は厚く、体部は胴

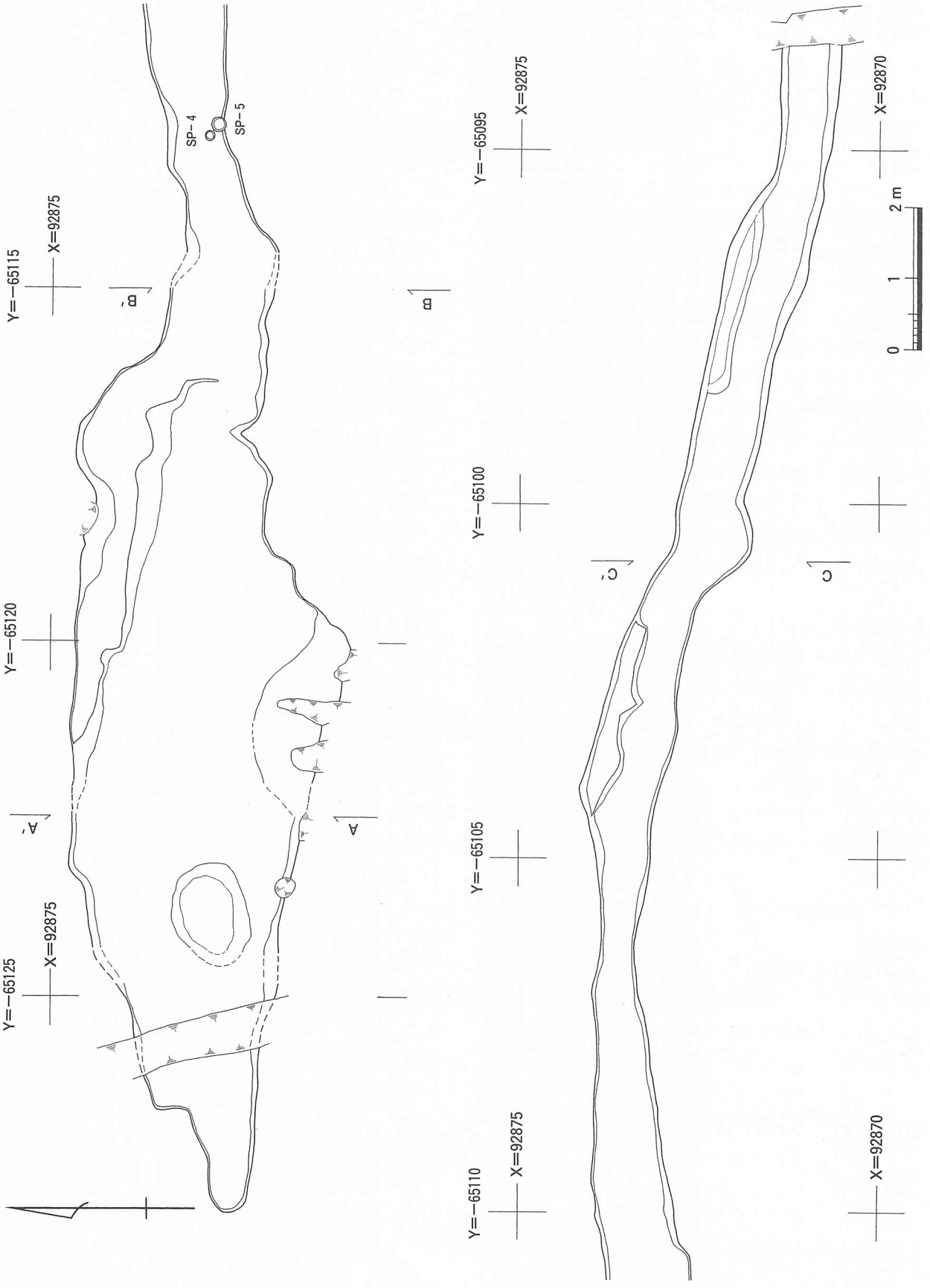


図14　SD−２上層実測図（縮尺１/80）（A—A′、B—B′、C—C′は図15に対応）

の張らない筒状が想定され、７世紀以降の古代。２は椀で、底部は低めの高台となる。口縁端部は膨らみをもつ。11世紀から12世紀。３は椀底部、４は坏底部。５は甑の把手部で、側面にハケメが残る。６は須恵器の鉢の口縁部。直上に立ち上がり、端部は緩やかに外反する。

下層出土遺物は11点を図化した。１・２は土師器。１は高坏の坏底部で、脚部接合の痕跡が凹みと環状の焼きの違いにより見てとれる。２は支脚。３～９は須恵器。３～５は坏底部。６・７は壺の口縁部。８は長頸壺胴部片。算盤状の胴部であり、屈曲部には明瞭な稜が入る。９は高台付きの壺の底部。10は緑色片岩石材。広く素材面を残す。11はサヌカイト製打製石鏃。側片は比較的直線的であり、また凹基部においても直線的で角をもつ。剥離は側片のみで浅い。

SD-２下層出土遺物は、SR-１出土遺物との間に大きな隔たりを想定できる状況にはないが、SD-２上層出土遺物には11～12世紀に下がる例があり、あるいは上層と下層の間に大きな隔たりがあるのかもしれない。

(3) SD-72（図６）

SR-１中央土層断面の観察で、幅３m弱、深さ約70cmの溝がSR-１の西岸付近に認められる。これをSD-72とした。南北方向に続くと考えられるが、北壁、南壁どちらの土層断面にも該当するものは認められない。つまり調査区内のどこかで東西方向に溝の進路を変えていると考えられる。土層観察による切り合い関係から、SR-１に後行することは間違いない。SD-２との関係についても明確ではないが、SD-２上層およびSD-２下層①は、確実に調査区東端まで続くことが確認されており、SD-２に至る直前に大きく東にふれるのか、もしくはSD-２下層②に続くものと想定される。ただ、SD-２下層②に続くとしても、SD-２下層②底面のレベルは、SD-72のレベルに対して40cm程度の差があり、同一の溝とするにも問題点が残る。

埋土は、砂礫混じりの暗灰色もしくは黄灰色系砂質土が主体であり、溝には流水を伴う。またシルトもしくは粘質土の堆積が見られないことから、洪水砂による埋没で徐々に溝としての機能を失っていったと考えられる。

遺物に関しては、SR-１完掘後に遺構の存在を認識したため、SR-１と一連の取り上げとなっている。

(4) その他の遺構と遺構出土遺物（図18～23）

上記した遺構以外には、遺物を多く出土する、あるいは明確な掘り込みが認められる遺構はほとんどない。以下、溜まり状のものも含めて認識した遺構について、概述しておく。

SP-３　Ｆ４・Ｆ５区。径40cm強の柱穴。深さ約10cm。SD-２下層を切る。埋土は、灰黄褐色(10YR6/2)砂質土。鉄分を多く含む。

SP-４　Ｆ５区。SD-２上層内で検出した径約15cmの小穴。深さ約14cm。

SP-５　Ｆ５区。SD-２上層内で検出した径約20cmの小穴。深さ約13cm。SP-４に近接する。

SP-６　Ｃ６区。径約20cmの小穴。深さ約10cm。埋土は灰褐色（7.5YR4/2）シルト。

SP-７　Ｃ６区。径約20cmの小穴。深さ約５cm。SP-８、９に切られる。埋土は灰褐色(7.5YR4/2)シルト。

SP-８　Ｃ６区。径約30cmの柱穴。深さ約９cm。SP-９に切られ、SP-７を切る。埋土は灰褐色（7.5YR4/2）シルト。

SP-９　Ｃ６区。径30～50cmの柱穴。平面形は隅丸方形に近い。深さ約６cm。SP-７、８を切る。埋土は灰褐色（7.5YR4/2）シルト。

SK-10（図18）　Ｃ６区。南北方向を軸とした長方形土壙。北側の一部は近代の溝によって切られる。東西幅は約１m。埋土は、褐灰色(10YR5/1)シルトを主体として、明黄褐色(10YR7/6)シルトが混じる。埋土中には炭化物が混じり、須恵器細片が出土している。

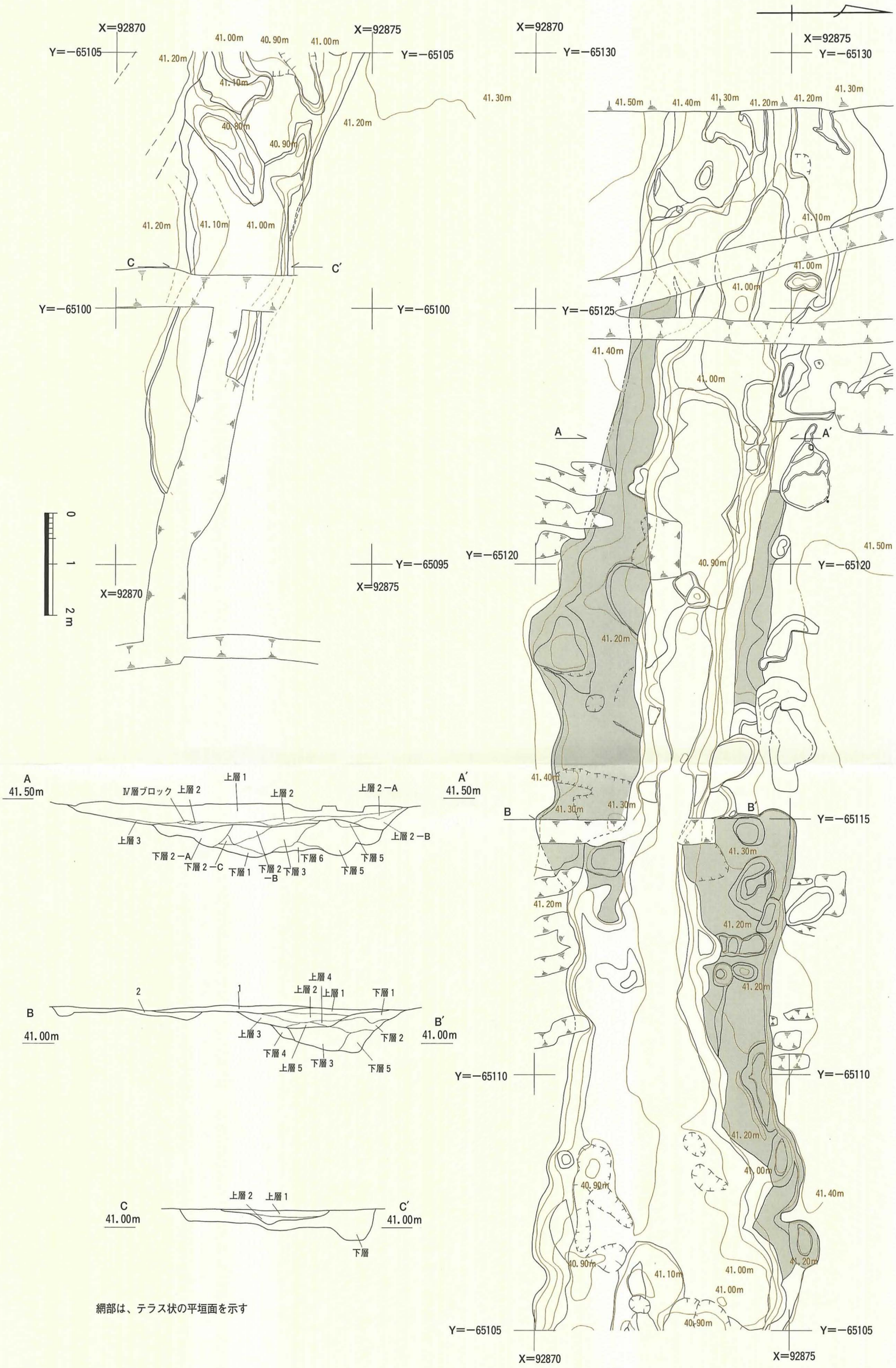
SK-12（図18）　Ｄ６区。埋土は、褐灰色（10YR5/1）シルトを主体としながら、黒褐色（10YR2/2）シルト、明黄褐色（10YR7/6）シルトが混じる。調査段階では明確な情報を得られなかったが、SD-２に接していることから水口の可能性も考えられる。

SP-13　Ｃ６区。深さ約５cm。埋土は、黒褐色（10YR2/2）シルトに褐灰色（10YR5/1）シルトが混じる。木の根の可能性も考えられる。

SP-14　Ｃ６区。径10cm強の小穴。深さ約６cm。埋土は、黒褐色（10YR2/2）シルトに褐灰色（10YR5/1）シルトが混じる。

SP-15　Ｃ６区。径約15cmの小穴。深さ約４cm。埋土は、黒褐色（10YR2/2）シルトに褐灰色（10YR5/1）シルトが混じる。

SP-16　Ｃ６区。径約10cmの小穴。深さ約３cm。埋土は、黒褐色（10YR2/2）シルトに褐灰色（10YR5/1）



網部は、テラス状の平垣面を示す

図15　SD−2下層実測図（縮尺1/80）

図15　土層注記

A－A′
上層１　暗灰黄色（2.5YR4/2）砂質土。
上層２　黒褐色（2.5Y3/2）土。明黄褐色土の小ブロックが少量混じる。有機質土（本来のⅢ層か）が多く混じる。粘性強い。
上層２－A　上層２とほぼ同じ。明黄褐色土の小ブロックが占める割合高い。
上層２－B　上層２とほぼ同じ。暗褐色土のブロックが混じる。
上層３　黄灰色(2.5Y5/1)砂質土。0.5㎜以下の砂粒が混じる。シルト質やや強く粘性ある。
下層２－A　黄灰色（2.5Y5/1）砂質土。しまりあり。１㎜以上の砂粒は見られない
下層２－B　黄灰色（2.5Y5/1）砂質土。下層２－A層に比べ砂礫はやや粗い。
下層２－C　暗灰黄色（2.5Y5/2）砂質土。一部粘性を帯びた部分も見られる。
下層６　浅黄色（2.5Y7/4）砂質土。ラミナ状に砂礫を含む。砂礫やや粗い。
下層７　暗灰黄色（2.5Y5/2）砂礫。３㎝の礫が混じるが、主体は１㎜前後の砂粒。

B－B′
上層１　オリーブ褐色（2.5Y4/3）砂質土。砂粒は0.5㎜以下でやや粘性がある。西側ほど色調暗く、粘性が強い。
上層２　黒褐色（2.5Y3/2）土。明黄褐色土の小ブロックを少量、有機質土（本来のⅢ層か）が混じる。粘性強い。
上層３　黄灰色(2.5Y5/1)砂質土。0.5㎜以下の砂粒が混じる。シルト質がやや強く、粘性あり。
上層４　明黄褐色土のブロック中に１㎜未満の砂粒が混じる。
上層５　暗灰黄色（2.5Y5/2）砂質土。１㎜未満の砂粒が混じる。しまり弱い。
下層１　明黄褐色砂質土のブロックに黄灰色（2.5Y5/1）砂質土がラミナ状に混じる。しまり強い。
下層２　黄灰色（2.5Y5/1）砂質土。上層３に共通。明黄褐色土の小ブロックが混じる。
下層３　オリーブ褐色（2.5Y4/6）砂質土。１㎜未満の砂粒が混じる。数枚の硬い鉄分沈着層を形成する。
下層４　黄灰色（2.5Y5/1）砂質土。下層２に同じ。
下層５　黄褐色（2.5Y5/4）砂質土。しまり弱い。遺物が混じる。
１層　明黄褐色砂質土。上層の水田層の鉄分の沈着層あり。0.５㎜の砂粒が混じる。ややしまりあり。
２層　灰褐色土。ラミナ状に粘質土と砂層が混じり、しまり強い。砂層中には１㎜の砂粒が混じる。やや粗い。

C－C′
上層１　褐灰色（7.5YR4/1）シルト。近代の水田層によるものか。鉄分の沈着あり。
上層２　灰白色（7.5Y8/1）砂質土。上層からのものか。鉄分の沈着あり。
下層　灰白色（7.5Y8/1）砂質土。ラミナ状に鉄分沈着あり。上面は硬くしまる。

シルトが混じる。

SP-17　C６区。平面長楕円形を呈する径10～20㎝の小穴。深さ約２㎝。埋土は、黒褐色（10YR2/2）シルトに褐灰色（10YR5/1）シルトが混じる。

SP-18　C６区。平面は不定形。深さ約４㎝。埋土は、黒褐色（10YR2/2）シルトに褐灰色（10YR5/1）シルト質土が混じる。

SP-19　D６区。深さ約11㎝。埋土は、黒褐色（10YR2/2）シルトに褐灰色（10YR5/1）シルトが混じる。

SP-20　D６区。深さ約11㎝。埋土は、黒褐色（10YR2/2）シルトに褐灰色（10YR5/1）シルトが混じる。

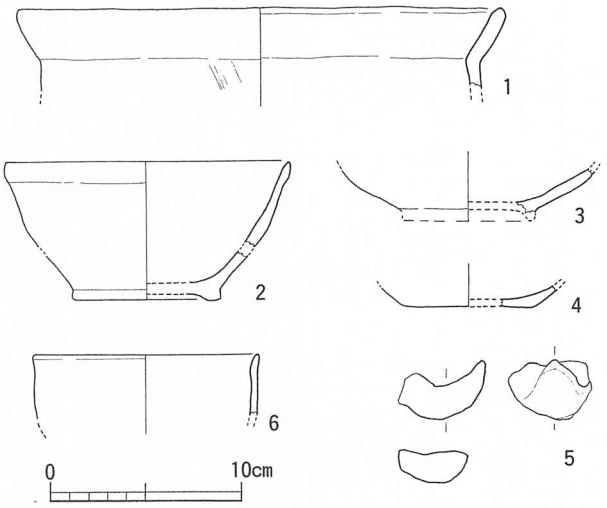


図16　SD－２上層出土遺物実測図（縮尺１／４）

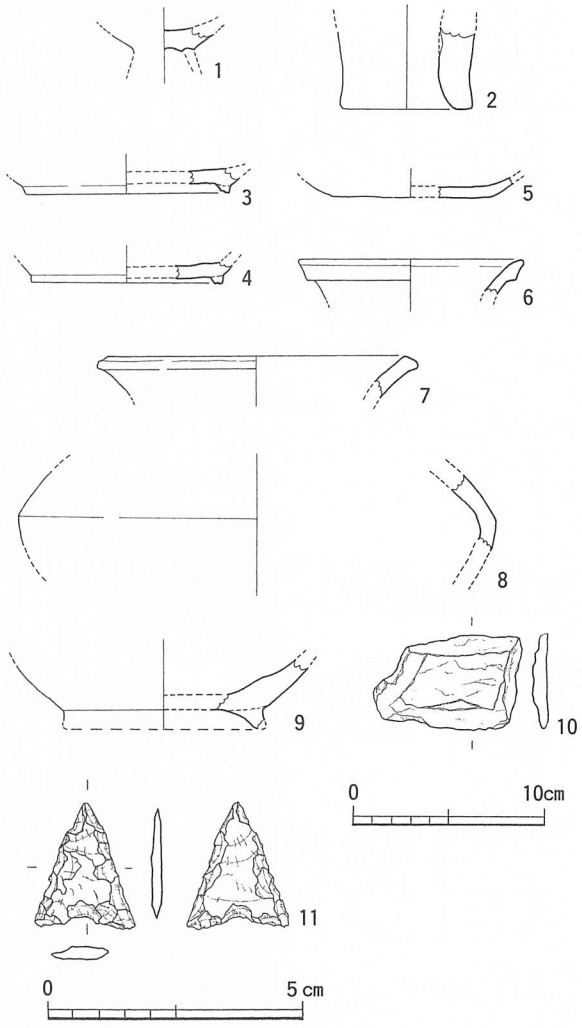
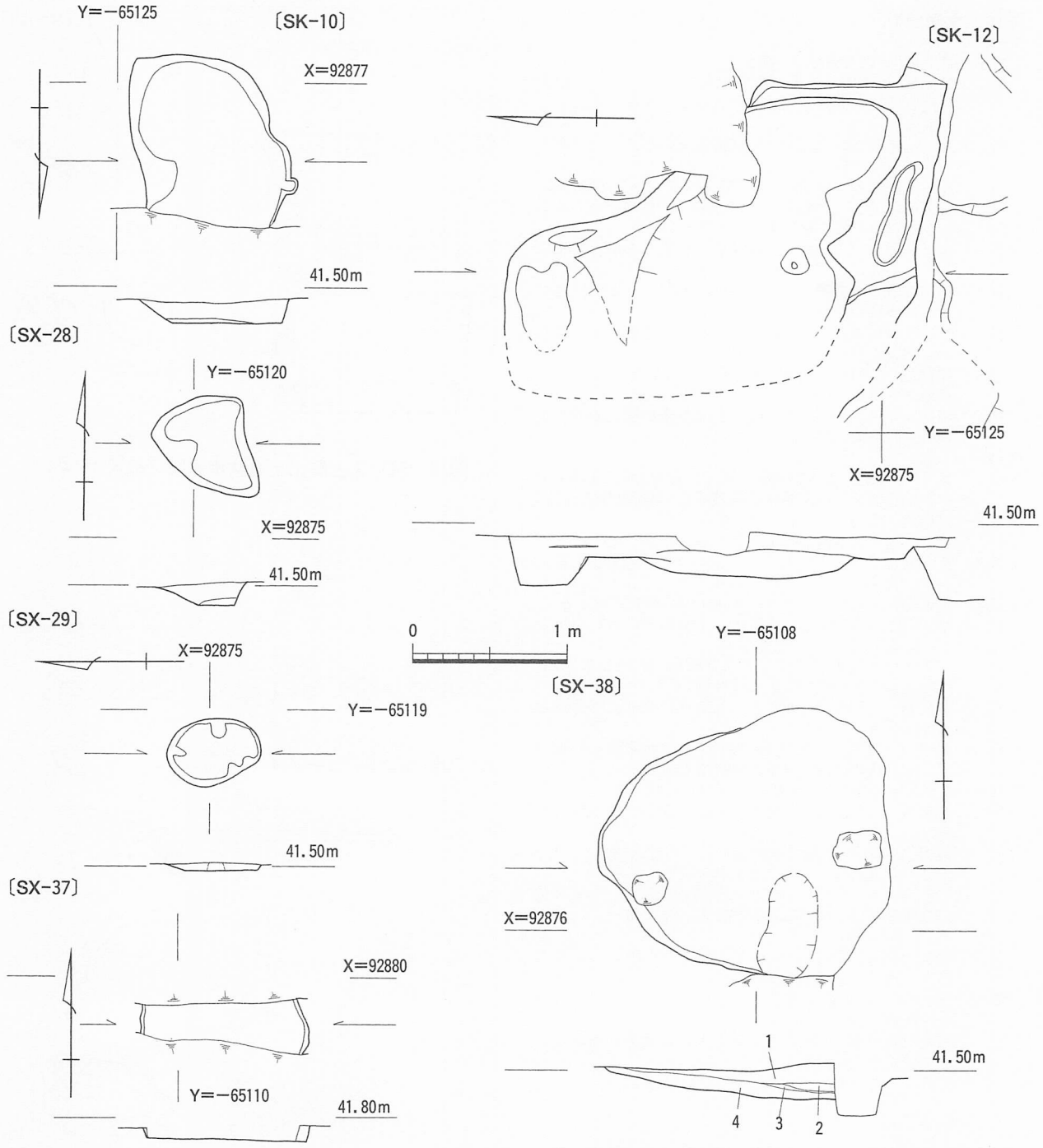


図17　SD－２下層出土遺物実測図（縮尺１／４、２／３）



SX-38埋土

1 暗褐色（10YR3/3）シルトで、鉄分を含み、しまりが強い。
2 浅黄色（2.5Y7/3）シルトで、しまりが強い。
3 暗褐色（10YR3/3）シルトで、鉄分を含み、しまりが強い。
4 浅黄色（2.5Y7/3）シルト。しまりが強い。

図18　主要遺構実測図(1)（縮尺１/40）

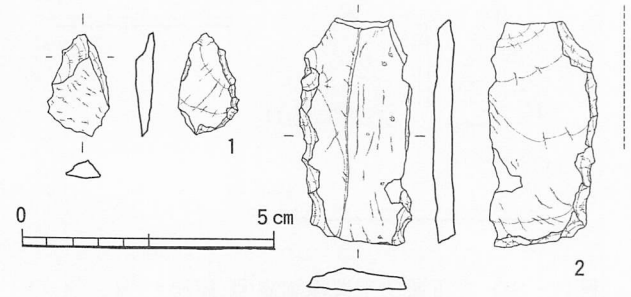
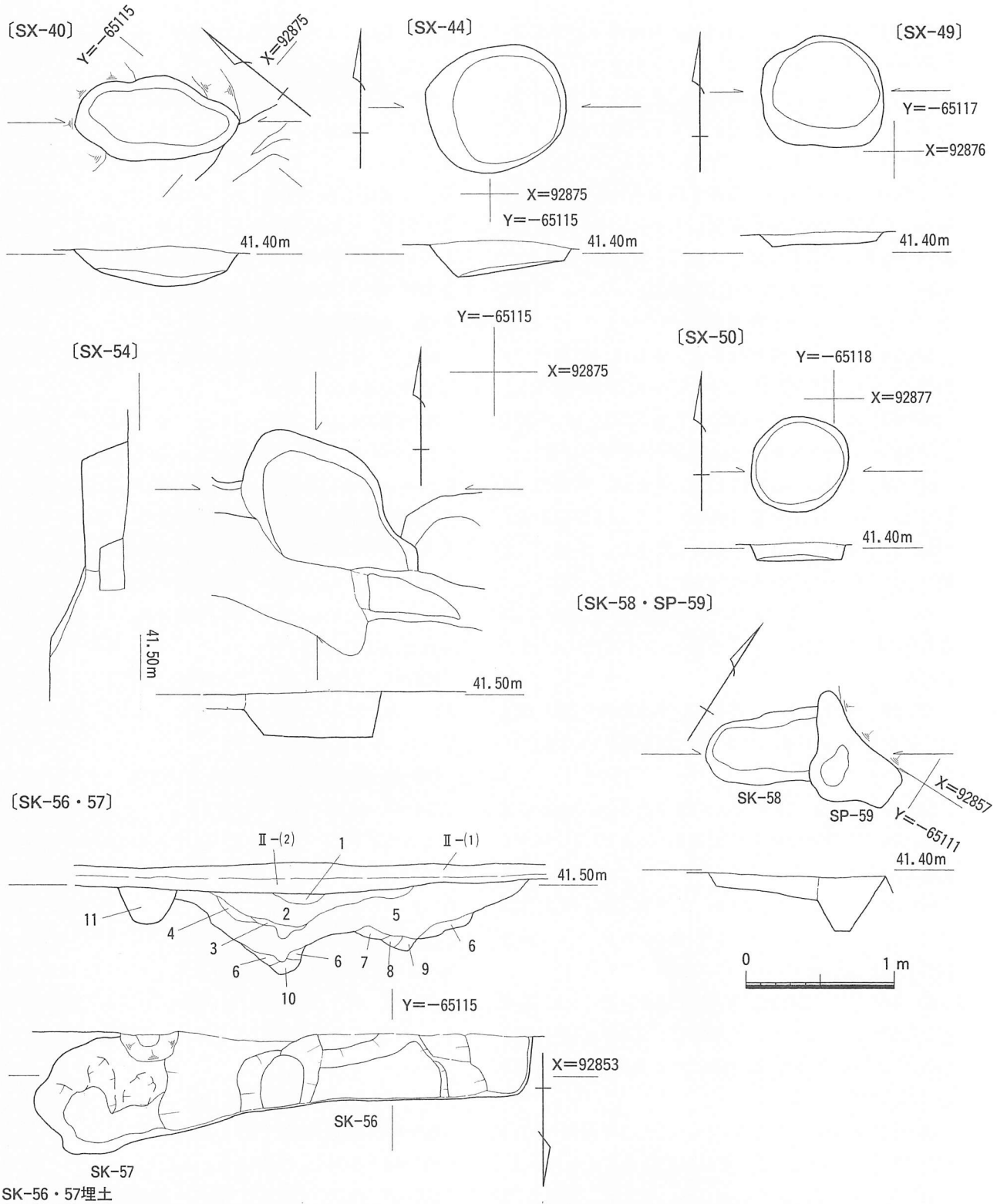


図19　SX-38出土遺物実測図（縮尺２/３）



SK-56・57埋土

1　明黄褐色土。
2　黒褐色（10YR2/2）シルト。３㎝の明黄褐色土小ブロックが多く混じる。しまりあり。
3　黒褐色（10YR2/2）シルト。２層に同じ。炭化物が混じる。
4　褐色（7.5YR4/4）シルト。焼土層。
5　黒色（10YR2/1）シルト。３㎜の明黄褐色土小ブロックが混じるが、２層に比べ少ない。粘性強い。
6　オリーブ褐色（2.5Y4/4）シルト。明黄褐色土小ブロック、暗褐色土が若干混じる。しまりあり。
7　黄褐色（2.5Y5/4）砂質土。５㎜の礫が混じる。
8　黒褐色（2.5Y3/1）シルト。
9　にぶい黄色（2.5Y6/4）シルト。明黄褐色土のブロック、0.5㎜の砂礫が混じる。
10　黒色（10YR2/1）シルト。３㎜の明黄褐色土の小ブロックが混じるが、２層に比べ少ない。粘性強い。
11　にぶい黄色（2.5Y6/3）シルト。５㎜の明黄褐色土ブロックと黄褐色土ブロックが混じる。

図20　主要遺構実測図(2)（縮尺１/40）

SP-21　D６区。深さ約14cm。黒褐色（10YR2/2）シルトに褐灰色（10YR5/1）シルトが混じる。

SP-22　D６区。深さ約10cm。黒褐色（10YR2/2）シルトに褐灰色（10YR5/1）シルトが混じる。

SX-23　D５・D６区。平面形は隅丸長方形を呈する。西側にはテラス状の段が２段見られる。遺構北東隅は、底面のみが大幅にⅣ層に入り込んでいることから風倒木等の可能性も考えられる。埋土は、褐灰色（10YR5/1）シルトに黒褐色（10YR2/2）シルト、明黄褐色（10YR7/6）シルトが混じる。

SP-24　D５区。深さ約８cm。埋土は、黒褐色（10YR2/2）シルトに褐灰色（10YR5/1）シルトが混じる。

SP-25　D５区。深さ約10cmを測る。埋土は、黒褐色（10YR2/2）シルトに褐灰色（10YR5/1）シルトが混じる。

SP-26　E５区。深さ約４cm。埋土は、黒褐色（10YR2/2）シルトに褐灰色（10YR5/1）シルトが混じる。

SP-27　E５区。深さ約６cm。埋土は、黒褐色（10YR2/2）シルトに褐灰色（10YR5/1）シルトが混じる。

SX-28（図18）　D６・E６区。平面不定形。埋土は、灰黄褐色（10YR4/2）シルトに黒褐色（10YR2/2）シルトが混じる。

SX-29（図18）　E５・E６区。平面長楕円形。埋土は、灰黄褐色（10YR4/2）シルトに黒褐色（10YR2/2）シルトが混じる。

SP-30　E６区。径約10cm、深さ約３cm。埋土は黒褐色（10YR2/2）シルトに褐灰色（10YR5/1）シルトが混じる。

SP-31　E６区。径約20cm、深さ約４cm。埋土は黒褐色（10YR2/2）シルトに褐灰色（10YR5/1）シルトが混じる。

SX-32　E５・E６区。平面不定形。埋土は、黒褐色（10YR2/2）シルト。北東部は、底面のみがⅣ層に大きく入り込む。SX-23同様に木の根に伴う落ち込みの可能性が考えられる。

SP-33　E５区。深さ約７cm。埋土は黒褐色（10YR2/2）シルト。SX-32と一連の可能性も考えられる。

SP-34　E６区。深さは約５cm。埋土は、黒褐色（10YR2/2）シルト。

SP-35　E６区。深さは約３cm。埋土は、黒褐色（10YR2/2）シルト。

SX-36　E５・E６区。遺構北側の底部のみがⅣ層に大きく入り込み、木の根に伴う落ち込みの可能性もある。

SX-37（図18）　F６・F７・G６・G７区。遺構の南北は、攪乱により平面形状は不明。埋土は黒褐色（10YR2/2）シルト。

SX-38（図18）　F６・G６区。約２×1.8mのやや歪んだ円形。最深で約25cm。１～４層の埋土中には砂礫を一切含まない。出土遺物には弥生土器もあり、石器２点を図化した（図19）。１は剥離の見られるサヌカイト剥片。片面に素材面を残し、厚みがある。側片のみ浅い剥離が行われ、石鏃の未製品の可能性もある。２もサヌカイト。片面に素材面を広く残し、縦長素材に浅い剥離を施す。

SX-39　G６区。径約30cmの柱穴が２つ接している可能性も考えられる。

SX-40（図20）　F５・F６区。平面は約１×0.6mの長楕円形状。SD-２に関連する施設の可能性も考えられる。出土した遺物は１点のみ（図21）。土師器坏の口縁部。端部は丸く収め、内面上半に粗い横ハケメを施し下半ではナデ。内面には赤彩が認められる。

SX-41　F５区。SD-２完掘後、SD-２内で確認。SD-２の一部とした方が適切かもしれない。埋土は、暗褐色（10YR3/3）シルト。

SX-42　F５区。SD-２完掘後、SD-２内で確認。SD-２の一部とした方が適切かもしれない。埋土は、暗褐色（10YR3/3）シルト。

SP-43　F６区。径約30cm、深さ約25cmを測る。

SX-44（図20）　E６区・F６区。径１m前後の円形。埋土は暗灰黄色（2.5Y4/2）シルトを主体として、明黄褐色（10YR7/6）の丸いブロックを上部に含む。中世土師器の細片が出土している。

SX-45　F５区。SD-２完掘後、SD-２内で検出。SD-２の一部とした方が適切かもしれない。径50～60cmの円形。埋土は褐灰色（10YR5/1）シルトを主体として、黒褐色（10YR2/2）シルト、明黄褐色（10YR7/6）シルトが混じる。

SP-46　E６区。深さ約６cm。

SP-47　E６区。深さ約７cm。

SP-48　E６区。径約15cm、深さ約11cm。

SX-49（図20）　E６区。径60～80cmのやや歪みのある円形。

SX-50（図20）　E６区。平面は径約60cmの円形を呈する。埋土は、暗灰黄色（2.5Y4/2）シルト。しまりは強い。

SP-51　E６区。深さ約８cm。平面はやや不整形を呈し、木の根などの可能性も考えられる。

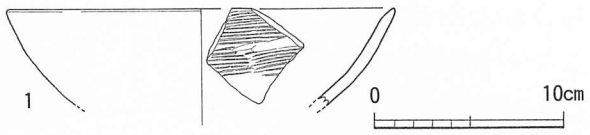


図21　SX-40出土遺物実測図（縮尺１／４）

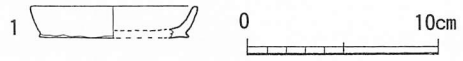


図23　SK-71出土遺物実測図（縮尺１／４）

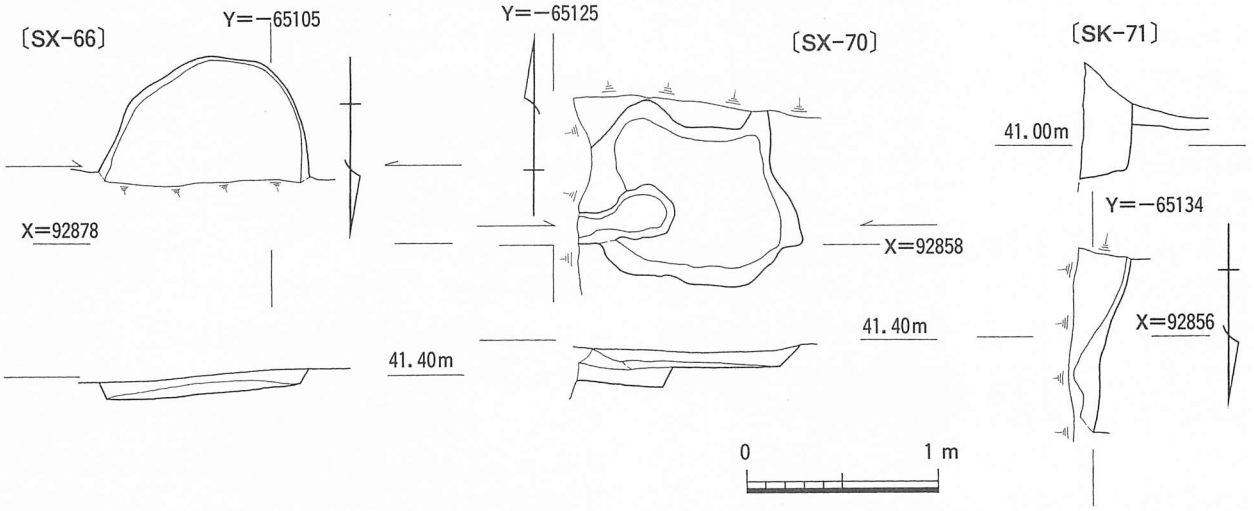


図22　主要遺構実測図(3)（縮尺１/40）

SX-52　Ｅ５区。SD-２に接しており、SD-２の一部とした方が良いかもしれない。

SX-53　Ｅ５区。SD-２に接しており、SD-２の一部とした方が良いかもしれない。

SX-54（図20）　Ｅ５区。SD-２に接しており、SD-２の水口部分等の可能性が考えられる。

SX-55　Ｃ６区。SD-２の底面で検出したことなどを考えると、SD-２の一部とした方が良いかもしれない。

SK-56（図20、図版５-4）　Ｅ１区。一辺２m強の土壙で、大きな落ち込みが東西に２カ所見られる。埋土の主体は褐色系シルトであるが、Ⅳ層のブロックや炭なども混じることから、人為的な遺構の可能性が高い。SK-57に切られる。

SK-57（図20、図版５-4）　Ｅ１区。径約１mの土壙もしくは柱穴の可能性が考えられる。検出面からの深さは約30cmを測る。SK-56を切る。SK-56と一連に掘り下げたため遺物が混在しているが、古代の土師器、中世の土師器・瓦器の細片が出土している。

SK-58（図20）　Ｆ２区。埋土は、暗オリーブ褐色シルトで、粘性も認められる。下層は薄めの色調を呈する。SP-59に切られる。

SP-59（図20）　Ｆ２区。埋土は黒褐色（10YR2/2）シルト。２㎜の焼土粒を含み、粘性およびしまりあり。SK-58を切る。

SP-60　Ｆ２区。径30～50cmの楕円形を呈する。深さ約15cm。埋土は黒褐色（10YR3/2）シルト。SP-61を切る。

SP-61　Ｆ２区。径約40cm、深さ約24cm。埋土は暗褐色（10YR3/3）砂質土。上層は黒褐色に近いが、下層は薄めの色調。SP-62を切り、SP-60に切られる。しまりあり。

SP-62　Ｆ２区。径約30cm、深さ約10cm。埋土は黒褐色（10YR3/2）シルト。２㎜のⅣ層粒を含み、しまりあり。SP-61に切られる。

SP-63　Ｇ３区。径約10cmで、深さ約７cm。埋土は黒褐色（2.5Y3/2）砂質土。粗砂を含む。しまりあり。

SP-64　Ｇ３区。SR-１肩にて検出。径20～30cmの楕円形を呈する。埋土は灰オリーブ色（5Y4/2）砂質土。SR-１に関連する柱穴の可能性が考えられる。

SP-65　Ｇ３区。SR-１肩にて検出。径約30cm。埋土は暗褐色（10YR3/3）砂質土。粘性あり。SR-１に関連する柱穴の可能性が考えられる。

SX-66（図22）　Ｇ６・Ｈ６区。北側は攪乱によって欠損する。径約１mの円形状。埋土は灰黄褐色（10YR5/2）シルト。粘性あり。上層に一部にぶい黄褐色（10YR4/3）シルトが認められる。

SP-67　H６区。平面形は不整形を呈し、深さ約４cm。

SK-68　E６・F６区。約１m×約0.5mの土壙。埋土は褐灰色(10YR5/1)シルト。明黄褐色(10YR7/6)シルトのブロックが多く混じる。SK-69に切られる。

SK-69　E６・F６区。平面形は、径50～70cmの歪んだ円形を呈する。埋土は、褐灰色（10YR5/1）シルト。SK-68を切る。

SX-70（図22）　D２区。１辺約１mの方形状土壙。埋土は黒褐色（7.5YR3/2）シルトを主体としながら、明黄褐色シルトの丸いブロックおよび粒状炭化物を少量含む。

SK-71（図22）　B２区。形状不明。埋土はにぶい黄褐色(10YR4/3)シルト。１cm程のⅣ層小ブロック、Ⅲ層小ブロックが混じる。ややしまりあり。出土遺物１点を図化した（図23)。土師器の小皿で、底部は回転糸切り。

(5)　その他の出土遺物

①　暗褐色シルト質土出土遺物

（図24・25、図版７-5）

「Ⅲ′層」出土で取り上げた暗褐色シルト質土出土遺物から、82点を図化した。１～12は須恵器。１は蓋の口縁部で、宝珠形つまみがつくタイプ。２は坏底部。短い高台は接地面が凹状で内端部が接地する。３～５は坏の口縁部。端部はナデによりわずかに外反する。４は軟質で火襷が入る。６は足高の高台を持つ椀底部。７は広口壺の口縁。８は短頸壺の体部。10は大甕の胴上部から口縁にかけてで、口縁外面に縦方向の沈線が数本入る。９・11は壺の底部。９は断面三角形の低めの高台をもつ。11は底部から直線的に立ち上がり、底部にケズリが施される。12は東播系のこね鉢で、口縁を上方に拡張し、内面屈曲部に沈線が入る。

13～56は土師器。ただし、13は軟質の須恵質。16～33は円盤状高台をもつ坏底部。14～17が内傾に、18～22は直上に、29～33は外傾して立ち上がる。34～40は高台と体部の境目が曖昧。40の体部は大きく外に開かず、底部回転糸切り。41は薄い底部が高台状に立ち上がったのち外反する。42・43は坏か皿の底部。44～47は椀もしくは坏の口縁部。45は端部で強いナデが施され、厚みも減じている。48～56は高台付きの底部。48～50は底部から体部への変換点に高台を貼り付ける。51は高台接地部に明瞭な面をもつ。52～54は断面三角形の高台で、52は内側のナデが強く直角三角形状となる。55・56の高台は低く小さい。54は重厚な底部で、高台内が圏線状に窪む。

57～68は内黒の黒色土器。57が口縁部で、他は底部。これらの黒色土器は砂粒を多く含む粗い胎土。ミガキを施しているものもあるが、磨滅により不明瞭なものが多い。58～61・66は厚めで丸みのある高台。65は細長く外に開く。67は高台内に圏線状の凹みがある。

69～76は瓦器。69の口縁は内湾し端部内面に１条の条線がある。70・71は、指押さえ痕を顕著に残して口縁部下方に稜が入り、緩やかに外反する。内面は横方向のミガキ。胎土は粗い。和泉型。73～76は底部。73の内面には暗文が施される。これらの瓦器は12世紀前半段階と考えられる。

77は白磁皿底部。圏線より角度を変えて、外に大きく開く。高台は低く角ばり、高台内・畳付は露胎。11世紀後半～12世紀前半。78は甕の口縁部。79は備前焼擂鉢。80は平瓦で、表面に炭素の吸着が見られる。81は花崗岩質の砥石。両側面に角をもち、擦痕が側面・上面にわずかに見られる。82は緑色片岩石材。

以上から、暗褐色シルト質土は、一部後世の遺物を包含する場合もあるが、基本的に12世紀代までに堆積を終えていたと推測される。なおこの時期は、下層のSR-１に混在していた遺物の最新相に一致する。

②　明褐色砂質土出土遺物（図26、図版７-6）

明褐色砂質土出土遺物からは15点を図化した。１～５は土師器の坏底部。１～３は円盤状高台。６・７は内黒の黒色土器の底部片で、７は細めの断面三角形の高台をもつ。８は土師器甕。９～13は須恵器。９は坏蓋もしくは椀の体部片。10・11は高台付きの坏底部。11の高台は底部から体部への変換点に付く。12は壺か大甕の屈曲部。13は壺底部。14は白磁碗。高台は削り出し。施釉は厚めで、外面体部下方以下露胎。11世紀中頃。15は緑色片岩石材片。明褐色砂質土出土遺物も、暗褐色シルト質土出土遺物同様、12世紀以前。

③　攪乱出土遺物（図27）

攪乱出土遺物からは25点を図化した。１は弥生土器の壺底部。２は須恵器の坏口縁部。３は和泉型瓦器椀の口縁部片。口縁と体部の境に明瞭な稜が入り、指押さえ痕が顕著に残る。稜の下にケズリらしき痕跡が見られ、内面にわずかにミガキが見られる。12世紀後半から13世紀初め。４・５は須恵器の坏底部で円盤状高台。４は回転ヘラ切りで、５は回転糸切り後ナデ。６は土師器椀の底部片。７は須恵器壺の口縁部で、口縁

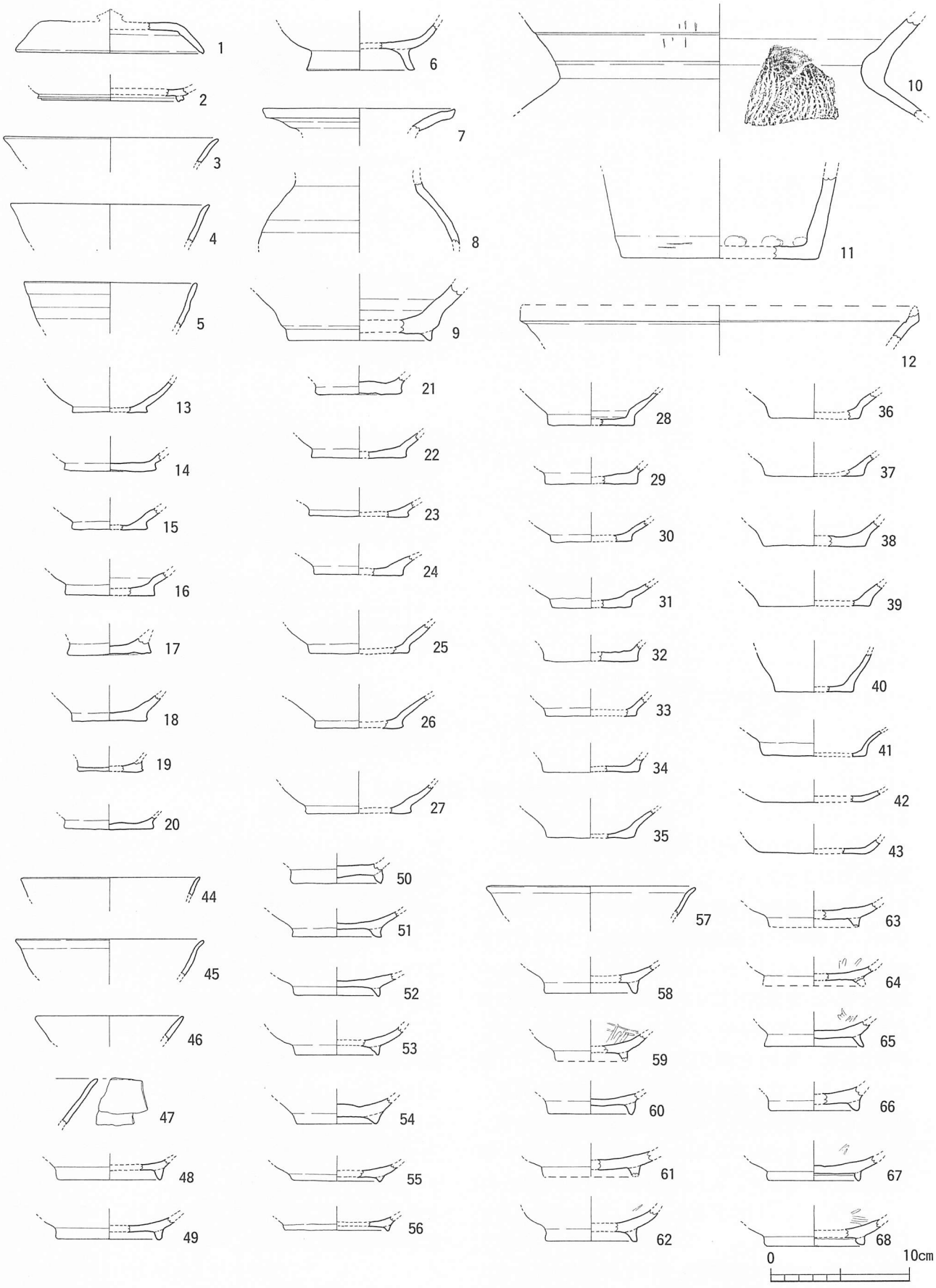


図24　暗褐色シルト質土出土遺物実測図(1)（縮尺１／４）

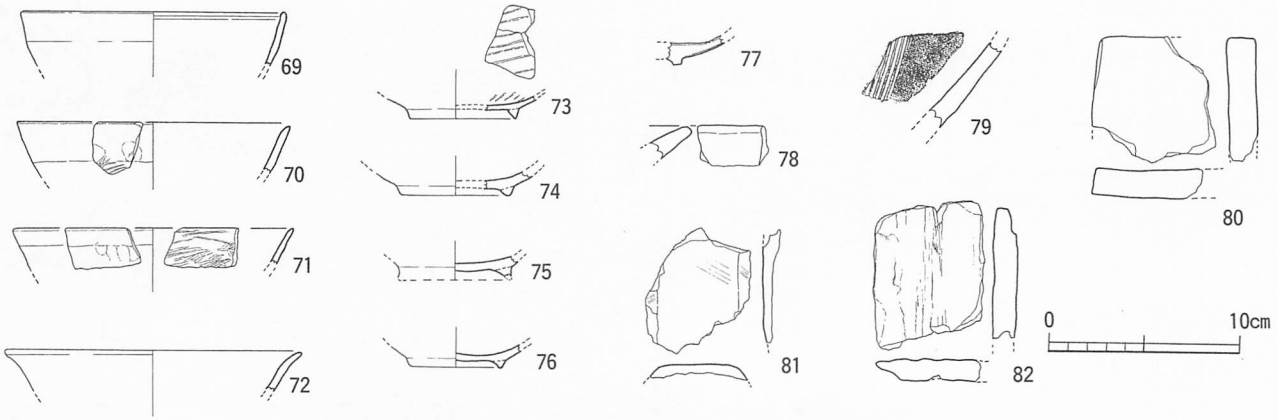


図25　暗褐色シルト質土出土遺物実測図(2)（縮尺１／４）

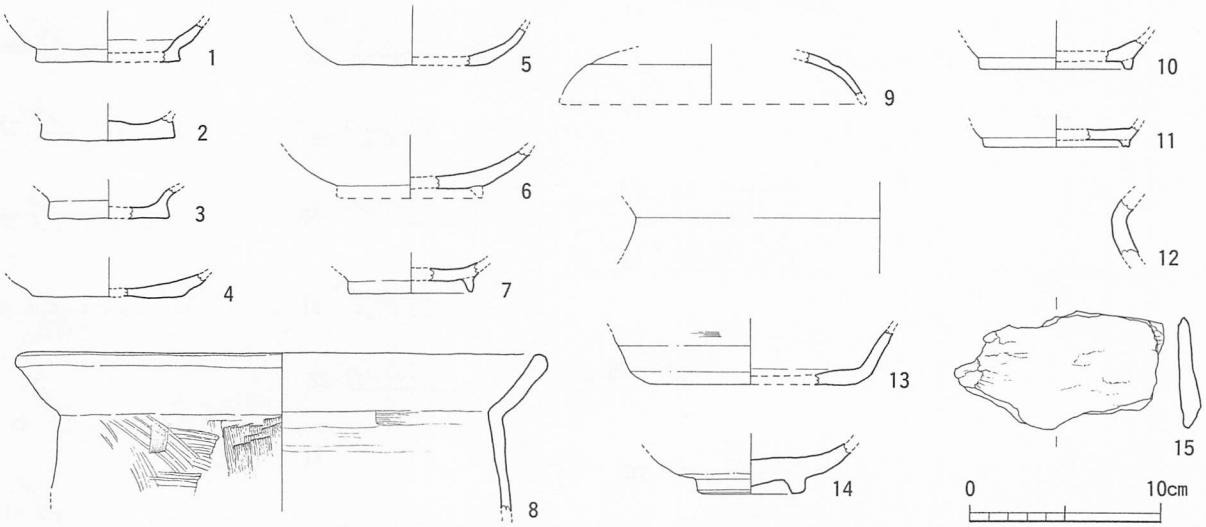


図26　明褐色砂質土出土遺物実測図（縮尺１／４）

下に断面三角形の突帯が付く。８は須恵器壺底部で、断面方形の高台をもち、体部は直線的に伸びる。９・10は土鍋の口縁部。体部が直線的に外に開き、鈍角に屈曲して口縁にいたる。器壁は指押さえによる凹凸が顕著。９の外面には煤の付着が見られる。11は羽釜の脚部。12～14は白磁。12は鉢の体部片で、内面に圏線が見られる。11世紀後半～12世紀前半。13は碗の底部。畳付は露胎である。11世紀後半～12世紀前半。14は碗で、高台は細く高く直立する。高台内と高台は露胎。見込みに６条単位の櫛目文が施される。12世紀中頃。15は龍泉窯系青磁碗の底部片。施釉は全面に及び、高台端部近くのみ露胎。２ヶ所にトチンの痕跡が見られる。13世紀中頃～14世紀前半。16・17は染付碗。畳付は露胎で、16の内底面においては環状に釉の掻き取りが見られる。施文は底部と高台に１条の施文が施される。17は見込みに草文、高台に２条の線文が施される。18は施釉磁器で、口縁端部が花弁状を呈する。施釉・発色から近代以降。19～21は備前焼の匣鉢である。いずれも底部からやや内傾し、内外面にロクロ痕を明瞭に残す。20は静止糸切り、21は回転糸切り。19は竹管文のような施文が施される。近代のものである。22・23は敲石。22の先端部とその側辺に敲打痕が見られる。23は上部が欠損しているが、敲打痕は先端部と側辺に見られ、左側面と先端部に面がある。24・25は緑色片岩の縦長の素材片である。25の先端部は剥離が見られ、敲石の可能性もある。26～29は緑色片岩石材。

(6)　樹木移植に伴う調査区（図28）

農学部附属農業高等学校校舎新営予定地には、卒業記念樹が植栽されており、工事に先立って移植が行われることとなった。抜根に伴う掘削深度はⅠ層内に収まることを確認したが、移植先については、掘削深度

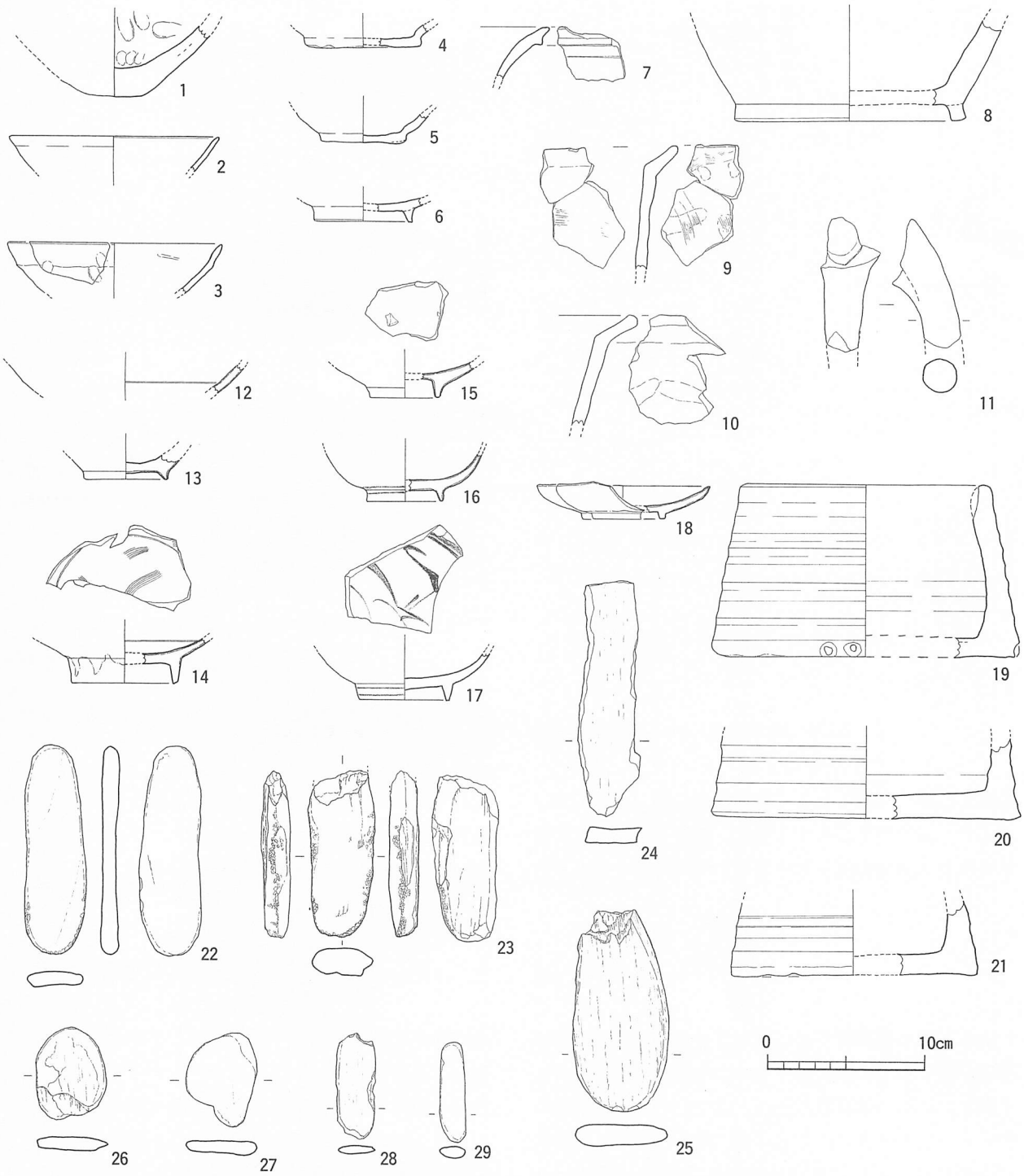


図27　攪乱出土遺物実測図（縮尺１/４）

から調査が必要となり、1997年11月17日に実施した。本来なら別調査として年報で報告すべきであったが、遺漏しており、今回ここで併せて報告しておく。

移植先は樽味遺跡２次調査が実施された農学部３号館の北側である。掘削深度は現地表下から約1.2m。標高41.54mまでがⅠ層で、標高41.27m以下Ⅳ層となる。その間にⅢ層は確認されず、①～③の３層が確認できた。①層は、灰黄褐色（10YR6/2）シルト質。②層は、暗青灰色（10BG4/1）シルト質で、２～３㎜の砂礫を少量含む。③層は灰褐色（7.5YR5/2）シルトで、①・②層に比べて粘性が弱く、砂礫を含む割合が高い。上層部分には、鉄分の沈着が認められる。①～

Ⅰ　攪乱層。
① 灰黄褐色（10YR6/2）シルト。きめは細かく、砂に近い。遺物なし。
② 暗青灰色（10BG4/1）シルト。２～３㎜の礫が少量混じる。遺物なし。
③ 灰褐色（7.5YR5/2）シルト。①②層に比べて粘性が弱い。２㎜の礫を含む割合が高い。上層部分に、鉄分の沈着あり。遺物なし。
Ⅳ　明黄褐色土。

図28　樹木移植に伴う調査区位置および土層柱状図（縮尺１/500、１/40）

③層から遺物は出土せず、時期決定は難しいものの、周辺での調査例を参考にすると、①層または③層が樽味遺跡２次調査の基本層位Ⅲ層に対応すると考えられることから、①層～③層は16世紀以降の堆積層と想定される。①～③層の年代の下限については不明であり、基本層序Ⅱ層の可能性も残る。

4　ま　と　め

樽味遺跡４次調査では、旧地形の高い樽味団地内東部に位置するためか、削平等により遺構の残存は芳しくない。検出遺構は自然流路と溝で、わずかに土壙や柱穴・小穴が伴うのみであった。したがって、直接的にこの地点での生活変遷を語れるような状況にはない。しかし、自然流路と溝はその遺構の切り合い関係から、その変遷を辿ることができる（図29）。

まず層序的に最も古いのがSR－１であり、８世紀前半までには埋没をほぼ完了している。流路として機能したのはそれ以前であり、埋土には弥生前期以降の遺物を含んでいた。続いて、東西方向のSD－２下層②、そして埋没後のSR－１上にSD-72が掘削される。SD-72は断面だけでの確認で、詳細は不明であるが、SD－２は西から東へと流水させる溝で、下層①としての再掘削等も想定され、水口と思われるような附随施設相当部も想定可能である。本来の東高西低の地形にも反した構造であり、明らかに人為的な水利施設の溝として機能していたと想定される。さらにSD－２上層段階でも、その性格は変わらないようである。なお、SD－２の機能した時代であるが、下層出土遺物は、SR－１出土遺物と大きな差は認められなかったが、上層出土遺物には11～12世紀に下がる例が存在した。出土遺物からは、SD－２下層も上層の時期まで下がるのか、あるいはSD－２の上層・下層の間に大きな時間差が存在したのか、両者の可能性がある。ただし、遺構の検出状況からすれば、上層・下層の間に300年近い時間差

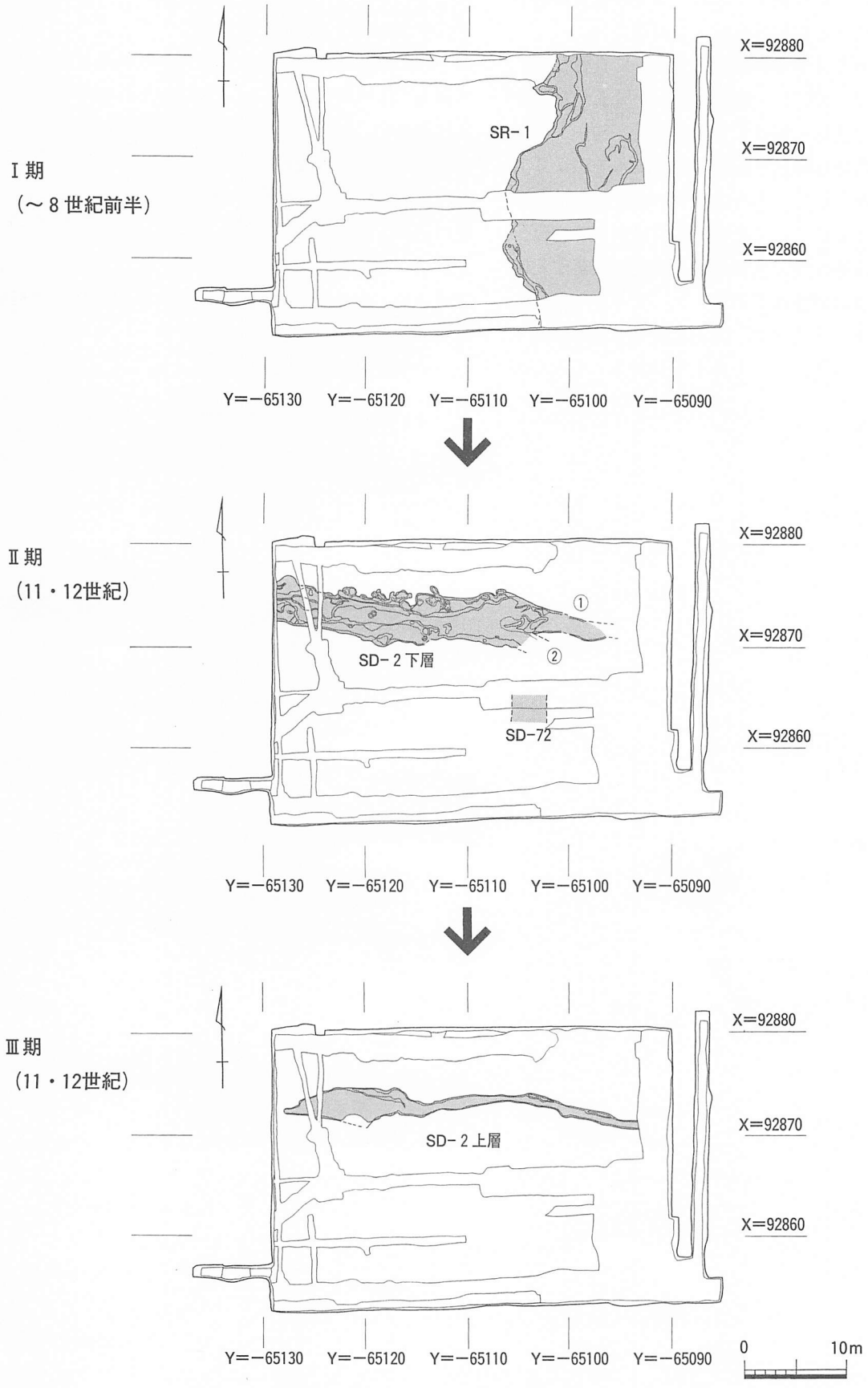


図29　SR－１・SD－２変遷図（縮尺１/600）

を想定するには、やや無理があり、下層の埋没も本来は11・12世紀に下る可能性を考えておきたい。

なお、流路内堆積や包含層堆積で決して良好な出土状況ではないが、SR-１や暗褐色シルト質土からは比較的多くの出土遺物を得ることができた。SR-１出土遺物は、下層の砂礫層出土が大半で、洪水等により上流の北側から押し流してきた遺物である。弥生前期以降の遺物からなるが、中でも古墳時代後期から古代、６・７世紀の遺物が多く含まれ、当該期の集落が北側いずれかの地点に営まれていたことになる。一方、暗褐色シルト質土出土遺物は、12世紀代までの遺物からなる。土質からして、遺物を長距離移動させてきたようなものではなく、周辺での当該期の生活領域が想定されなければなるまい。２次調査や５次調査Ⅱ区で検出された集落は、14世紀前後とやや時期が下がり、４次調査でも西端のSK-71は、その時期の遺構である可能性が高い。対して、12世紀代の生活領域は別地点に想定されなければならない。５次調査Ⅰ・Ⅲ・Ⅳ区で検出された東西方向の自然流路SR-１にも、10～12世紀の遺物を多く含み、その上流東側に10～12世紀の生活領域が想定されるところである。したがって、なお正確は期しがたいが、４次調査地点から東の、樽味団地東北部に、10～12世紀の集落を想定しておきたい。

表２　樽味遺跡４次調査出土遺物観察表

図７　SR－１灰褐色砂質土および砂層出土遺物								
	出土位置			種別	器種	部位	調整・その他特徴	実測番号
	遺構	層位	地区					
1	SR1	砂層	H2	弥生土器	甕	口縁	外面ナデ。内外面橙～にぶい橙色、断面浅黄橙色。１～５㎜の長石・石英少量含む。	1094
2	SR1	砂層	H2	土師器	椀	底部	内外面磨滅。内外面・破面橙色。精製土に長石少量含む。	1093
3	SR1	砂層	H2	須恵器	坏身	底部	内外面ナデ。外面灰色、内面・破面灰白色。長石少量含む。焼き歪みあり。	1095
4	SR1	砂層	H2	須恵器	壺	肩部	外面縦の平行タタキ後カキメ、頸部カキメ。外面暗青灰色、内面灰色、破面赤灰色。長石少量含む。	1096
5	SR1	灰褐色砂質	H2·3	須恵器	壺	口縁	内外面ナデ。器壁薄く、口縁端部は丸く厚みを増す。内外面・破面灰白色。１㎜以下の長石少量含む。	1097
図８～12　SR－１砂礫層出土遺物								
	出土位置			種別	器種	部位	調整・その他特徴	実測番号
	遺構	層位	地区					
1	SR1	砂礫層	I·J5	弥生土器	壺	口縁	内面指頭圧痕。外面灰白色、内面暗灰色。長石・石英多く、角閃石少量含む。	1063
2	SR1	砂礫層	I·J4	弥生土器	甕	口縁	内外面ナデ。外面にぶい黄橙色、内面灰黄色。きめ細かい胎土に長石まばらに含む。	1029
3	SR1	砂礫層	I·J4	弥生土器	甕	底部	外面にぶい橙色、内面にぶい黄橙色。きめ細かい胎土に１～３㎜の長石少量含む。	1045
4	SR1	砂礫層	I2·3	弥生土器	甕	底部	内外面磨滅。外面浅黄橙色、内面暗灰色。長石・石英多く含む粗い胎土。煤付着。	1018
5	SR1	砂礫層	H3	弥生土器	甕	底部	内底面指頭圧痕顕著、外面磨滅。内外面灰白色、外面黒変あり。１～２㎜の長石少量含む。	1014
6	SR1	砂礫層	I·J6	弥生土器	壺	口縁	内外面磨滅。口縁内面に段。内面灰白色、破面灰色。長石・泥岩質の黒色粒多く含む粗い胎土。	1088
7	SR1	砂礫層	I·J4	弥生土器	壺	頸部	櫛目状工具で刺突後ナデ。内外面にぶい黄橙色、破面黒化層。長石・石英・雲母を含む粗い胎土。	1037
8	SR1	砂礫層	I·J5	弥生土器	壺	底部	内外面磨滅。外面浅黄橙色、内面灰白色。長石・石英・泥岩質の礫・雲母少量含む。	1064
9	SR1	砂礫層	I·J4	弥生土器	壺	底部	内外面磨滅。外面淡黄色、一部黒変あり。内面・破面灰白色。１～５㎜の長石多く含む。	1047
10	SR1	砂礫層	I4	弥生土器	壺	底部	調整不明。外面・破面にぶい橙色、内面浅黄橙色。１～３㎜の長石・石英多く含む粗い胎土。	1027
11	SR1	砂礫層	I4	弥生土器	壺	底部	内外面磨滅。内外面・破面にぶい橙色。１～５㎜の長石・石英多く含む粗い胎土。	1028
12	SR1	砂礫層	I·J4	弥生土器	壺	底部	内底面指頭圧痕。外面にぶい黄橙色、内面・破面にぶい橙色。長石・石英多く含む粗い胎土。	1055
13	SR1	砂礫層	I6	弥生土器	壺	底部	内外面磨滅。外面赤橙色、内面浅黄橙色、破面にぶい黄橙色。長石・石英多く含む粗い胎土。	1078
14	SR1	砂礫層	I·J4	弥生土器	壺	底部	内外面・破面にぶい橙色、黒斑あり。精製土に大きめの長石・石英・黒色粒少量含む。	1039
15	SR1	砂礫層	I·J4	弥生土器	壺	底部	外面磨滅、内面ナデ。内外面橙色。きめ細かい胎土に長石・石英多く含む。	1046
16	SR1	砂礫層	I4	弥生土器	壺	底部	外面磨滅、内底面指頭圧痕。外面灰白色、破面黒化層あり。長石・石英多く含む。	1026
17	SR1	砂礫層	H4·5	弥生土器	甕	底部	内外面指頭圧痕顕著。外面灰黄～灰褐色、内面にぶい橙色。１～５㎜の長石・石英多く含む粗い胎土。	1021
18	SR1	砂礫層	I6	弥生土器	甕	底部	外面磨滅。外面橙色、内面にぶい黄橙色、破面褐灰色。大きめの長石・黒色粒多く含む粗い胎土。	1084
19	SR1	砂礫層	I·J4	弥生土器	甕	底部	外面橙色、内面灰黄色、破面黒化層あり。精製土に長石・石英少量含む。	1054
20	SR1	砂礫層	I·J6	弥生土器	甕	底部	外面磨滅、内底面ハケメ。外面橙色、内面浅黄橙色、破面黒化層。精製土に長石・石英含む。	1087
21	SR1	砂礫層	I·J4	弥生土器	甕	底部	外面磨滅、内面指頭圧痕。外面灰白色、内面浅黄橙色。１～５㎜の長石・石英多く含む。	1050
22	SR1	砂礫層	I·J5	弥生土器	壺	底部	外面磨滅、内底部縦ハケメ。外面灰白色、内面灰色、破面黄灰色。精製土に１～３㎜の長石多く含む。	1071
23	SR1	砂礫層	I·J5	弥生土器	壺	底部	外面磨滅、内面工具小口痕と指頭圧痕。内外面にぶい黄橙～橙色。長石・石英多く含む粗い胎土。	1070
24	SR1	砂礫層	I·J5	弥生土器	壺	底部	内外面磨滅激しい。外面にぶい橙色、内面・破面浅黄橙色。長石・石英・雲母含む粗い胎土。	1062
25	SR1	砂礫層	I·J4	弥生土器	壺	頸部	内面横ハケメ。外面にぶい黄褐色、内面にぶい橙色。長石・石英・雲母含む粗い胎土。	1038
26	SR1	砂礫層	I·J5	弥生土器	壺	頸部	内面粗い横ハケメ。内外面橙色、破面灰白色。きめ細かい胎土に１㎜以下の長石・石英多く含む。	1068
27	SR1	砂礫層	I·J5	弥生土器	甕	底部	内外面磨滅。外面淡黄色、内面灰白色、破面黒化層。１～３㎜の長石・石英・雲母多く含む。	1069
28	SR1	砂礫層	I·J4	弥生土器	高坏	坏部	内外面磨滅。内外面橙色。きめ細かい胎土に長石多く、雲母わずかに含む。やや軟質。	1048
29	SR1	砂礫層	I·J5	弥生土器	支脚	全形	上・側面指頭圧痕。外面橙色、内面・破面淡黄色。細かい胎土に１～２㎜の長石・雲母少量含む。	1072
30	SR1	砂礫層	H3	土師器	甕	肩部	内外面磨滅。外面橙色、内面にぶい橙色、破面灰白色。１～３㎜の長石・石英多く含む粗い胎土。	1009
31	SR1	砂礫層	I·J4	土師器	甕	頸部	外面沈線文、ハケメ後板ナデ。外面灰色、内面橙色。長石・石英少量含む。	1049
32	SR1	砂礫層	I·J6	土師器	甕	口縁	内外面ナデ。内外面にぶい橙色、黒化層残る。大きめの長石・石英含む粗い胎土。	1092
33	SR1	砂礫層	I3	土師器	甕	頸部	口縁内湾。内面横ナデ。内外面にぶい橙色、破面黒化層。長石少量含む粗い胎土。	1020
34	SR1	砂礫層	I6	土師器	甕	口縁	内外面磨滅。内外面浅黄橙色。精製土に１㎜以下の長石少量含む。	1077
35	SR1	砂礫層	H2	土師器	椀	全形	内外面多方向ミガキ、外底部ヘラケズリ。内外面にぶい橙色。精製土で砂粒含まない。	1004
36	SR1	砂礫層	I6	土師器	坏	全形	内外面ナデ。内外面橙色。きめ細かい胎土に黒色粒・長石少量含む。内外面赤彩か。	1079
37	SR1	砂礫層	I·J6	須恵器	坏蓋	口縁	外面回転ヘラケズリ。外面灰色、内面青灰色、破面赤灰色。長石・石英少量含む。	1090
38	SR1	砂礫層	I·J5	須恵器	坏蓋	口縁	内外面・破面灰色。精製土に１㎜以下の長石少量含む。やや軟質。	1065
39	SR1	砂礫層	I·J4	須恵器	坏蓋	全形	器壁に厚みあり。外面回転ヘラケズリ。内外面・破面灰色。精製土。軟質。	1034
40	SR1	砂礫層	I·J4	須恵器	坏蓋	口縁	内外面ナデ。外面・破面灰白色、内面青灰色。精製土。	1051
41	SR1	砂礫層	I·J4	須恵器	坏蓋	口縁	外面回転ヘラケズリ。口縁部擦痕は端部ナデ後。内外面灰色、破面赤灰～灰色。	1041
42	SR1	砂礫層	I6	須恵器	坏身	口縁	内外面ナデ。外面灰色、内面・破面灰白色。長石・石英多く含む。	1076
43	SR1	砂礫層	I5	須恵器	坏身	口縁	外面回転ヘラケズリ・ナデ、内面ナデ。内外面・破面灰色。１㎜以下の長石多く含む。	1059
44	SR1	砂礫層	I·J4	須恵器	坏身	口縁	内外面ナデ。内外面灰色、破面灰白色。１㎜の長石少量含む。やや軟質。	1030
45	SR1	砂礫層	I·J4	須恵器	坏身	口縁	内外面ナデ。内外面・破面灰色。きめ細かい胎土に１㎜以下の長石多く含む。	1053
46	SR1	砂礫層	I·J6	須恵器	坏身	口縁	内外面ナデ。内外面・破面灰白色。きめ細かい胎土に１㎜以下の長石少量含む。	1086
47	SR1	砂礫層	I·J4	須恵器	坏身	口縁	外面回転ヘラケズリ・ナデ、内面ナデ。内外面青灰色。精製土に１㎜以下の長石まばらに含む。	1033
48	SR1	砂礫層	H4·5	須恵器	坏身	口縁	内外面ナデ。内外面灰白色。砂粒ほとんど含まない。	1023
49	SR1	砂礫層	I·J4	須恵器	坏身	口縁	外面回転ヘラケズリ・ナデ。内外面青灰色、破面にぶい赤褐色。精製土に長石少量含む。	1052

50	SR1	砂礫層	H3	須恵器	坏身	口縁	内外面ナデ。内外面灰色。1～2㎜の長石少量含む。	1011
51	SR1	砂礫層	H3	須恵器	坏身	口縁	内外面ナデ。外面灰色、内面灰白色。1㎜以下の長石まばらに含む。	1015
52	SR1	砂礫層	I4	須恵器	蓋	天井部	内外面ナデ。内外面灰白色。砂粒ほとんど含まない。	1025
53	SR1	砂礫層	I·J4	須恵器	蓋	口縁	内外面ナデ、外面天井部に薄いケズリ。外面灰白色、内面・破面灰色。	1042
54	SR1	砂礫層	H3	須恵器	坏	全形	内外面ナデ。内外面・破面灰白色。1㎜以下の長石多く含む。やや軟質。蓋の可能性あり。	1010
55	SR1	砂礫層	H3	須恵器	坏か椀	口縁	口縁端部ナデにより先細り。外面灰白色、内面灰色。精製土に長石まばらに含む。	1012
56	SR1	砂礫層	H5	須恵器	坏か椀	口縁	口縁端部ナデにより外反。内外面灰色。きめ細かい胎土に長石・石英多く含む。	1057
57	SR1	砂礫層	I·J4	須恵器	坏身	全形	内外面ナデ。内外面灰白色、破面にぶい赤褐色。1㎜以下の長石少量含む。	1040
58	SR1	砂礫層	H2·3	須恵器	坏身	底部	高台接地面凹む。内外面ナデ。内外面にぶい橙色。精製土に1㎜以下の長石少量含む。	1008
59	SR1	砂礫層	I2	須恵器	坏身	底部	内外面ナデ。内外面灰白色。砂粒ほとんど含まない。軟質。	1019
60	SR1	砂礫層	I6	須恵器	坏身	底部	高台内端部で接地。外底面ヘラケズリ。内外面灰白色、破面赤灰色。大きめの長石少量含む。	1075
61	SR1	砂礫層	I6	須恵器	坏身	底部	内外面ナデ。内外面灰色、破面灰白色。1㎜以下の長石多く含む。やや軟質。	1082
62	SR1	砂礫層	H2	須恵器	高坏	脚部	2方向透かし。内外面・破面灰色。1㎜の黒色粒少量含む。やや軟質。	1003
63	SR1	砂礫層	H·I1	須恵器	高坏	脚部	無透かし。内外面ナデ。内外面灰白色。1㎜以下の長石少量含む。	1001
64	SR1	砂礫層	I6	須恵器	皿	口縁	ナデの凹凸顕著。外面灰白色、内面・破面青灰色。1㎜以下の長石少量含む。	1083
65	SR1	砂礫層	H2	須恵器	鉢	全形	小型。口縁部先細り。内外面・破面灰白色。1㎜以下の長石多く含む。	1005
66	SR1	砂礫層	I·J5	須恵器	提瓶	口縁	内外面ナデ。外面灰白色、内面青灰色、破面明赤灰色。精製土に長石・石英多く含む。	1061
67	SR1	砂礫層	I·J6	須恵器	瑞	胴部	小型。胴部押圧櫛目文、外底面ヘラケズリ。外面灰白色、内面・破面灰色。2㎜以下の長石少量含む。	1089
68	SR1	砂礫層	I·J4	須恵器	瑞	胴部	小型。頸部接合部で厚み増す。内外面灰白色。1㎜以下の長石少量含む。	1031
69	SR1	砂礫層	I·J4	須恵器	平瓶	胴部	粘土円盤閉塞部。内外面ナデ。内外面・破面灰白色。1㎜以下の長石まばらに含む。	1032
70	SR1	砂礫層	H4·5	須恵器	短頸壺	口縁	小型。端部丸く収める。内外面ナデ。内外面・破面灰色。1㎜以下の長石まばらに含む。	1022
71	SR1	砂礫層	H3	須恵器	長頸壺	口縁	内外面ナデ。外面灰色、内面灰白色に自然釉。1㎜以下の長石少量含む。	1016
72	SR1	砂礫層	I6	須恵器	長頸壺	胴部	内外面ナデ。外面黄灰色、内面暗青灰色、破面灰赤色。1㎜以下の長石少量含む。	1080
73	SR1	砂礫層	H·I1	須恵器	長頸壺	胴部	外面ヘラ状工具によるナデ。内外面灰白色、自然釉、破面灰褐色。砂粒ほとんど含まない精製土。	1002
74	SR1	砂礫層	I2	須恵器	壺	底部	外面横の平行タタキ後ナデ、高台強いナデ。内外面・破面灰白色。1㎜以下の長石多く含む。	1017
75	SR1	砂礫層	I6	須恵器	壺	底部	高台貼付部に隙間。内外面灰白色、破面赤灰色。1㎜以下の長石少量含む。	1081
76	SR1	砂礫層	I·J4	須恵器	壺	底部	「ハ」の字状に開く高台。内外面ナデ。内外面灰白色。きめ細かい胎土に1㎜以下の長石少量含む。	1035
77	SR1	砂礫層	I6	須恵器	壺	底部	高台内端部で接地。外面暗灰色、内面灰色。1～2㎜の長石少量含む。	1074
78	SR1	砂礫層	H3	須恵器	壺	底部	底部下方ケズリ。内外面青灰色、破面灰白色。1㎜以下の長石多く含む。	1013
79	SR1	砂礫層	I·J4	須恵器	壺	口縁	2条の突帯で区画、3段の波状文。内外面ナデ。内外面・破面灰白色。きめ細かい胎土。軟質。	1036
80	SR1	砂礫層	I5	須恵器	壺	頸部	外面横ハケメ後浅い縦ハケメ。外面灰白色、内面灰色。精製土に1㎜以下の長石少量含む。	1060
81	SR1	砂礫層	I·J6	須恵器	壺	口縁	内面青海波文。外面青灰色、内面・破面灰色。2㎜以下の長石少量含む。	1091
82	SR1	砂礫層	I·J4	須恵器	甕か壺	口縁	口縁にナデによる突帯。外面灰色、内面灰白色、破面にぶい黄褐色。細砂粒多く含む。	1043
83	SR1	砂礫層	I·J4	須恵器	甕か壺	口縁	内外面ナデ。外面青灰色、内面灰色、自然釉、破面紫灰色。精製土。	1044
84	SR1	砂礫層	I·J5	須恵器	甕か壺	口縁	内外面ヘラナデ。内外面・破面灰白色。1㎜以下の長石・石英・黒色粒少量含む。生焼け。	1066
85	SR1	砂礫層	I·J5	須恵器	甕	胴部	内外面灰色、破面褐灰色。内面木製無文当て具痕。1㎜程の長石少量含む。	1073
86	SR1	砂礫層	H2·3	須恵器	甕	胴部	外面平行タタキ後カキメ、内面青海波文後ナデ。外面・破面灰色、内面灰白色。長石少量含む。軟質。	1007
87	SR1	砂礫層	H4·5	須恵器	甕	下半部	外面平行タタキ後カキメ、内面青海波文後ナデ。内外面・破面灰色。1～3㎜の長石少量含む。	1024
88	SR1	砂礫層	H2	須恵器	甕	下半部	外面平行タタキ後カキメ、内面青海波文後ナデ。外面灰色、内面灰白色。長石少量含む。軟質。	1006
89	SR1	砂礫層	I5	須恵器	不明	底部	内外面ナデ。内外面灰色、破面灰赤色。2㎜以下の長石少量含む。	1058
90	SR1	砂礫層	I·J6	白磁	碗	底部	内外面施釉。見込み部環状に釉の掻き取り。やや青味がかる。胎土きめ細かい。	1085
91	SR1	砂礫層	I·J4	石器	素材		緑色片岩。	1056
92	SR1	砂礫層	I·J5	石器	スクレイパー		平面三角形。素材面を片面に残す。サヌカイト。	1067

図13　SR－1 北壁際断割出土遺物

	出土位置			種別	器種	部位	調整・その他特徴	実測番号
	遺構	層位	地区					
1	SR1	北断割	I6	弥生土器	壺	口縁	口縁部凹線文。外面浅黄橙色、内面にぶい橙色。1～5㎜の長石・石英多く含む粗い胎土。	1101
2	SR1	北断割	I6	土師器	甕	口縁	内外面ナデ、口縁端部強いナデ。外面灰白色、内面浅黄色。精製土に1～3㎜の長石少量含む。	1100
3	SR1	北断割	I6	須恵器	壺	口縁	口縁部波状文、ナデ。外面灰白色、内面灰色、自然釉。精製土に長石少量含む。	1098
4	SR1	北断割	I6	須恵器	壺	底部	外面底部付近強いナデ、内面ナデ。外面灰色、内面・破面灰白色。1㎜以下の長石多く含む。	1099

図16　SD－2 上層出土遺物

	出土位置			種別	器種	部位	調整・その他特徴	実測番号
	遺構	層位	地区					
1	SD2	上層	D5	土師器	甕	口縁	口縁部内湾。内外面ナデ。内外面橙色、破面灰色。長石・石英多く含む粗い胎土。	1102
2	SD2	上層	J5	土師器	椀	全形	内外面ナデ。外面灰白色、内面にぶい橙色。精製土に細かい長石少量含む。	1105
3	SD2	上層	J5	土師器	椀	底部	内外面磨滅。外面浅黄橙色、内面・破面橙色。精製土に0.5㎜以下の長石少量含む。	1107
4	SD2	上層	D5	土師器	坏	底部	内外面磨滅激しい。外面浅黄橙色、内面黄灰色。きめ細かい胎土。	1103
5	SD2	上層	D5	土師器	甑	把手	おそらくナデによる整形。外面にぶい黄色、破面橙色。精製土に0.5㎜以下の長石少量含む。	1104
6	SD2	上層	J5	須恵器	鉢	口縁	内外面回転ナデ。内外面灰色、破面褐灰色。0.5㎜以下の長石少量含む。	1106

図17　SD-２下層出土遺物								
	出土位置			種別	器種	部位	調整・その他特徴	実測番号
	遺構	層位	地区					
1	SD2	下層	C5	土師器	高坏	坏底部	調整不明。内外面橙色、破面灰色。胎土の粒子は揃うが粗い。	1110
2	SD2	下層	C5	土師器	支脚	底部	中空で底部に接地面。やや括れて立ち上がる。ナデ調整。外面淡黄色、内面にぶい黄橙色、外面・破面褐灰色部あり。精製土に長石、角閃石含む。	1108
3	SD2	下層	H5	須恵器	坏	底部	接地面凹状。内外面回転ナデ、内外面・破面灰白色。0.5㎜以下の長石多く含む。	1119
4	SD2	下層	F5	須恵器	坏	底部	接地面凹状。内外面回転ナデ、内外面・破面灰白色。0.5㎜以下の長石少量含む。	1115
5	SD2	下層	H5	須恵器	坏	底部	内外面回転ナデ、外底面ヘラケズリ。内外面・破面灰白色。0.5㎜以下の長石少量含む。	1118
6	SD2	下層	C5	須恵器	壺	口縁	内外面回転ナデ。内外面・破面灰白色。0.5㎜以下の長石少量含む。	1112
7	SD2	下層	F5	須恵器	壺	口縁	内外面回転ナデ。内外面・破面灰白色。0.5㎜以下の長石少量含む。	1114
8	SD2	下層	C5	須恵器	長頸壺	胴部	内外面回転ナデ。内外面・破面灰白色。0.5㎜以下の長石少量含む。	1111
9	SD2	下層	E5	須恵器	壺	底部	内外面ナデ。外面灰色、内面灰白色。長石多く含む。	1113
10	SD2	下層	G5	石器	素材		緑色片岩。	1117
11	SD2	下層	C5	石器	石鏃		側辺・基部とも直線的で、基部は角をもつ。剥離は側辺のみで浅い。サヌカイト。	1109
図19　SX-38出土遺物								
	出土位置			種別	器種	部位	調整・その他特徴	実測番号
	遺構	層位	地区					
1	SX38		F･G6	石器	剥片		側辺に剥離。片面に素材面を残し、厚みあり。石鏃未製品か。サヌカイト。	1122
2	SX38		F･G6	石器	素材		縦長素材の側辺に浅い剥離。片面に素材面を広く残す。サヌカイト。	1121
図21　SX-40出土遺物								
	出土位置			種別	器種	部位	調整・その他特徴	実測番号
	遺構	層位	地区					
1	SX40		F5･6	土師器	坏	口縁	外面磨滅、内面横ハケメ。外面にぶい橙色、内面橙色。0.5㎜以下の長石少量含む。内面赤彩。	1123
図23　SK-71出土遺物								
	出土位置			種別	器種	部位	調整・その他特徴	実測番号
	遺構	層位	地区					
1	SK71		B2	土師器	Ⅲ	全形	内外面ナデ、底部回転糸切り。外面にぶい橙色、内面浅黄橙色。0.5㎜以下の長石少量含む。	1124
図24・25　暗褐色シルト質土出土遺物								
	出土位置			種別	器種	部位	調整・その他特徴	実測番号
	遺構	層位	地区					
1	暗褐色シルト質土		G･H6	須恵器	蓋	口縁	内外面回転ナデ。内外面灰白色、破面灰色。精製土に0.2㎜以下の長石多く含む。	1349
2	暗褐色シルト質土		I6	須恵器	坏	底部	内外面回転ナデ。内外面灰白色、破面灰赤色。精製土に長石少量含む。	1379
3	暗褐色シルト質土		I6	須恵器	坏	口縁	内外面回転ナデ。内外面・破面灰色。１㎜以下の長石少量含む。	1382
4	暗褐色シルト質土		H3	須恵器	坏	口縁	内外面回転ナデ。内外面・破面灰白色。0.3㎜以下の長石少量含む。軟質で火襷あり。	1338
5	暗褐色シルト質土		H3	須恵器	坏	口縁	内外面回転ナデ。内外面・破面灰白色。やや粗い胎土に0.3㎜以下の長石少量含む。	1343
6	暗褐色シルト質土		I5	須恵器	椀	底部	内外面回転ナデ。内外面・破面灰白色。１㎜以下の長石少量含む。軟質。	1372
7	暗褐色シルト質土		H3	須恵器	壺	口縁	内外面回転ナデ。外面灰黄褐色、内面灰白色に自然釉、破面灰白色。砂粒ほとんど含まない。	1339
8	暗褐色シルト質土		H5	須恵器	短頸壺	胴部	内外面回転ナデ。内外面・破面灰白色。0.5㎜以下の長石少量含む。	1348
9	暗褐色シルト質土		I5	須恵器	壺	底部	内外面回転ナデ。内外面・破面灰色。１～２㎜の長石多く含む。	1371
10	暗褐色シルト質土		I6	須恵器	甕	頸部	外面口縁部に沈線。内外面・破面灰白色。１㎜の長石少量含む。	1380
11	暗褐色シルト質土		H1	須恵器	壺	底部	外面底部ヘラケズリ。外面灰色、内底面灰白色。１㎜の長石・黒色粒多く含む。やや軟質。	1326
12	暗褐色シルト質土		I6	須恵器	こね鉢	口縁	外面口縁部灰色、内面灰白色。0.5㎜以下の長石少量含む。	1383
13	暗褐色シルト質土		I6	土師器	坏	底部	内外面回転ナデ。内外面灰～灰白色。0.5㎜以下の長石少量含む。須恵質で火襷が入る。	1378
14	暗褐色シルト質土		H3	土師器	坏	底部	内外面回転ナデ、底部回転ヘラ切り。内外面灰白色。精製土に少量の長石含む。	1342
15	暗褐色シルト質土		I2	土師器	坏	底部	内外面回転ナデ、底部回転ヘラ切り。内外面灰白色。0.5㎜以下の黒色粒・長石・石英少量含む。	1357
16	暗褐色シルト質土		I1	土師器	坏	底部	内外面回転ナデ。内外面・破面灰白色。１㎜以下の長石少量含む。	1353
17	暗褐色シルト質土		I1	土師器	坏	底部	内外面回転ナデ。外面淡赤橙色、内面灰白色、破面灰色。１㎜以下の長石・石英多く含む。	1351
18	暗褐色シルト質土		G4	土師器	坏	底部	内外面ナデ。内外面・破面灰白色。精製土。	1309
19	暗褐色シルト質土		I2	土師器	坏	底部	内外面回転ナデ。内外面・破面灰白色。0.5㎜以下の砂粒少量含む。	1356
20	暗褐色シルト質土		H3	土師器	坏	底部	内外面回転ナデ、底部回転ヘラ切り。内外面灰白色。精製土。	1345
21	暗褐色シルト質土		G5	土師器	坏	底部	内外面回転ナデ、底部回転ヘラ切り。内外面灰白色。１㎜以下の長石・石英多く含む。	1322
22	暗褐色シルト質土		J6	土師器	坏	底部	内外面磨滅。外面・破面灰白色、内面浅黄色。0.5㎜以下の長石少量含む。	1387
23	暗褐色シルト質土		I5	土師器	坏	底部	内外面磨滅。内外面・破面灰白色。0.2㎜以下の長石少量含む。	1363
24	暗褐色シルト質土		I5	土師器	坏	底部	内外面磨滅。内外面・破面灰白色。0.5㎜以下の長石多く含む。	1361
25	暗褐色シルト質土		G5	土師器	坏	底部	内外面磨滅。外面・破面灰白色、内面淡黄色。精製土に１㎜以下の長石少量含む。	1323
26	暗褐色シルト質土		H1	土師器	坏	底部	内外面回転ナデ。外面灰黄色、内面・破面灰白色。0.5㎜以下の長石少量含む。	1328
27	暗褐色シルト質土		I6	土師器	坏	底部	内外面磨滅。内外面灰白色、破面淡黄色。長石・石英・砂岩質の礫少量含む。	1375
28	暗褐色シルト質土		J6	土師器	坏	底部	内外面ナデ、底部回転ヘラ切り。外面灰白色、内面・破面浅黄橙色。精製土に長石少量含む。	1385
29	暗褐色シルト質土		I5	土師器	坏	底部	内外面磨滅。内外面灰白色、破面淡橙色。精製土に長石少量含む。	1364
30	暗褐色シルト質土		北西	土師器	坏	底部	外面ナデ、内面磨滅。外面にぶい橙色、内面・破面赤灰色。0.5㎜以下の長石少量含む。	1391
31	暗褐色シルト質土		H2	土師器	坏	底部	内外面回転ナデ、底部回転ヘラ切り。内外面・破面灰白色。１㎜以下の長石少量含む。	1332

32	暗褐色シルト質土	F5	土師器	坏	底部	内外面回転ナデ。外面灰白色、内面・破面灰黄色。1㎜以下の長石・石英少量含む。	1301
33	暗褐色シルト質土	J5	土師器	坏	底部	内外面磨滅。外面灰白色、内面浅黄橙色。0.5㎜の長石・石英少量含む。	1384
34	暗褐色シルト質土	H2	土師器	坏	底部	内外面回転ナデ。内外面浅黄橙色。0.5㎜以下の砂粒少量含む。	1333
35	暗褐色シルト質土	I1	土師器	坏	底部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。きめ細かい胎土に1㎜以下の石英少量含む。	1354
36	暗褐色シルト質土	I6	土師器	坏	底部	内外面磨滅。外面・破面にぶい橙色、内面灰黄褐色。1～2㎜の長石・石英多く含む。	1374
37	暗褐色シルト質土	H3	土師器	坏	底部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。0.5㎜以下の長石わずかに含む。	1337
38	暗褐色シルト質土	H3	土師器	坏	底部	内外面磨滅。内外面灰白色。1～2㎜の長石・石英多く含む。	1336
39	暗褐色シルト質土	I5	土師器	坏	底部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。0.5㎜以下の長石多く含む。	1370
40	暗褐色シルト質土	H3	土師器	坏	底部	内外面回転ナデ、底部回転糸切り。内外面灰白色。きめ細かい胎土に0.5㎜以下の長石少量含む。	1347
41	暗褐色シルト質土	G4	土師器	坏	底部	内外面回転ナデ。外面灰白色、内面灰色。1㎜以下の長石少量含む。	1320
42	暗褐色シルト質土	I4	土師器	坏か皿	底部	内外面磨滅。内外面灰白色。0.5㎜以下の長石少量含む。	1359
43	暗褐色シルト質土	I4	土師器	坏か皿	底部	内外面磨滅。内外面灰白色。0.5㎜以下の長石少量含む。	1360
44	暗褐色シルト質土	H1	土師器	椀か坏	口縁	内外面回転ナデ。外面淡黄色、内面・破面灰白色。精製土。	1329
45	暗褐色シルト質土	H3	土師器	椀か坏	口縁	内外面ナデ。外面浅黄橙色、内面・破面灰白色。0.5㎜以下の長石少量含む。	1344
46	暗褐色シルト質土	I1	土師器	椀か坏	口縁	内外面ナデ。内外面・破面灰白色。0.5㎜以下の石英少量含む。	1355
47	暗褐色シルト質土	J6	土師器	椀か坏	口縁	内外面磨滅。内外面灰白色。1㎜程の長石少量含む。	1386
48	暗褐色シルト質土	I1	土師器	椀	底部	内外面磨滅。外面灰白色、内面灰白～淡赤橙色。1㎜以下の長石・黒色粒多く含む。	1352
49	暗褐色シルト質土	G3	土師器	椀	底部	内外面ナデ。内外面灰白色。0.2㎜以下の長石少量含む。	1305
50	暗褐色シルト質土	H3	土師器	椀	底部	内外面磨滅。外面淡黄色、内面・破面灰白色。1㎜程の長石・黒色石少量含む。	1340
51	暗褐色シルト質土	G4	土師器	椀	底部	内外面磨滅激しい。内外面浅黄橙色。	1318
52	暗褐色シルト質土	不明	土師器	椀	底部	内外面回転ナデ、底部回転糸切り。外面褐灰～淡橙色、内面にぶい黄橙色。長石を少量含む。	1390
53	暗褐色シルト質土	J6	土師器	椀	底部	内外面磨滅。内面・破面灰色、外面灰白色。0.5㎜以下の長石少量含む。	1389
54	暗褐色シルト質土	G5	土師器	椀	底部	内外面磨滅。外面灰白色、内面浅黄橙色、破面黒化層。0.5㎜以下の長石少量含む。	1321
55	暗褐色シルト質土	I5	土師器	椀	底部	内外面磨滅。内外面灰白色。精製土。	1362
56	暗褐色シルト質土	I5	土師器	椀	底部	内外面磨滅。外面橙色、内面暗灰色、破面黒化層。0.5㎜以下の長石少量含む。	1368
57	暗褐色シルト質土	G3	黒色土器(内黒)椀		口縁	内外面ナデ。外面にぶい黄橙色、内面暗灰色、破面にぶい黄橙～暗灰色。1～2㎜の長石まばらに含む。	1308
58	暗褐色シルト質土	G3	黒色土器(内黒)椀		底部	内外面磨滅。外面灰白色、内面暗灰色。0.5㎜以下の長石少量含む。	1307
59	暗褐色シルト質土	H3	黒色土器(内黒)椀		底部	内面ミガキ。外面灰色、内面暗灰色。精製土に長石多く含む。	1335
60	暗褐色シルト質土	I4	黒色土器(内黒)椀		底部	内外面磨滅。外面・破面灰白色、内面灰色。0.5㎜以下の砂粒多く含む。	1358
61	暗褐色シルト質土	I5	黒色土器(内黒)椀		底部	内外面磨滅。外面褐灰色、内面灰色。0.5～1㎜の長石多く含む。	1366
62	暗褐色シルト質土	H3	黒色土器(内黒)椀		底部	内外面磨滅激しい。内面ミガキの可能性あり。外面灰白色、内面灰色。0.5㎜以下の長石少量含む。	1334
63	暗褐色シルト質土	G2	黒色土器(内黒)椀		底部	内外面磨滅。外面浅黄橙色、内面暗灰色。精製土に1㎜以下の長石多く含む。	1317
64	暗褐色シルト質土	G3	黒色土器(内黒)椀		底部	外面磨滅、内面定方向ミガキ。外面灰白色、内面暗灰色。1㎜以下の長石・石英少量含む。	1304
65	暗褐色シルト質土	G2	黒色土器(内黒)椀		底部	内面ミガキ。外面黄灰色、内面にぶい黄橙色。0.5㎜以下の長石少量含む。	1302
66	暗褐色シルト質土	G4	黒色土器(内黒)椀		底部	内外面磨滅。外面灰白色、内面・破面灰色。長石多く、雲母わずかに含む。	1319
67	暗褐色シルト質土	H2	黒色土器(内黒)椀		底部	外面ナデ、内面ミガキ。外面灰白色、内面灰色。0.5㎜以下の長石多く含む。	1331
68	暗褐色シルト質土	G3	黒色土器(内黒)椀		底部	外面磨滅、内面ミガキ。外面淡黄色、内面灰色。0.5㎜以下の長石少量含む。	1306
69	暗褐色シルト質土	H3	瓦器	椀	口縁	内外面ナデ。内外面灰白色。きめ細かい胎土に砂粒少量含む。	1341
70	暗褐色シルト質土	I6	瓦器	椀	口縁	外面横ミガキ、内面ナデ。内外面暗灰色、破面灰白色。精製土。	1381
71	暗褐色シルト質土	I6	瓦器	椀	口縁	和泉型。外面ナデ・指頭圧痕、内面横ミガキ。内外面暗灰色。1㎜程の長石を少量含む。	1376
72	暗褐色シルト質土	H1	瓦器	椀	口縁	内外面ナデ。内外面灰白色、外面口縁端部黄灰色。精製土に0.5㎜以下の砂粒少量含む。	1330
73	暗褐色シルト質土	I5	瓦器	椀	底部	内面暗文、外面磨滅。外面灰～灰白色、内面灰色、破面灰白色。精製土。	1369
74	暗褐色シルト質土	H1	瓦器	椀	底部	内外面磨滅。内外面灰白色、破面淡橙色。精製土。	1325
75	暗褐色シルト質土	J6	瓦器	椀	底部	外面磨滅、内面ナデ。外面暗灰色、内面灰白～灰色。きめ細かい胎土。	1388
76	暗褐色シルト質土	I6	瓦器	椀	底部	内外面磨滅。外面暗灰色、内面灰白色。1㎜程の長石少量含む。	1377
77	暗褐色シルト質土	H2	白磁	皿	底部	露胎部分灰白色、施釉部明オリーブ灰色。きめ細かい胎土。	1393
78	暗褐色シルト質土	I5	土師器	甕	口縁	内外面回転ナデ。内外面橙色、破面灰～灰白色。1～2㎜の長石・石英多く含む粗い胎土。	1367
79	暗褐色シルト質土	北西	備前焼	擂鉢	胴部	内外面灰色、破面灰褐色。精製土に0.5㎜以下の長石少量含む。	1392
80	暗褐色シルト質土	H6	平瓦			炭素の吸着あり。1㎜の長石多く含む粗い胎土。	1350
81	暗褐色シルト質土	H3	石器	砥石		上面と両側面に使用の痕跡あり。花崗岩。	1346
82	暗褐色シルト質土	I5	石器	素材		緑色片岩。	1373

図26　明褐色砂質土層出土遺物

	出土位置			種別	器種	部位	調整・その他特徴	実測番号
	遺構	層位	地区					
1	明褐色砂質土		G4	土師器	坏	底部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。0.5㎜以下の長石少量含む。	1315
2	明褐色砂質土		I6	土師器	坏	底部	内外面磨滅、底部回転ヘラ切り。内外面灰白色。1～2㎜の長石少量含む。	1207
3	明褐色砂質土		G4	土師器	坏	底部	内外面回転ナデ。内外面灰白色。1㎜以下の長石・石英少量含む。	1314
4	明褐色砂質土		G4	土師器	坏	底部	内外面磨滅。外面灰白色、内面褐灰色。1～2㎜の長石・石英多く含む。	1312
5	明褐色砂質土		F5	土師器	坏	底部	内外面磨滅。外面橙色、内面浅黄橙色。精製土。	1201

6	明褐色砂質土	G4	黒色土器(内黒)椀		底部	内外面磨滅激しい。外面灰白色、内面黄灰色。１㎜以下の長石少量含む。	1311
7	明褐色砂質土	G4	黒色土器(内黒)椀		底部	内外面磨滅。外面にぶい橙色、内面灰色。胎土は粗く0.5㎜以下の長石少量含む。	1313
8	明褐色砂質土	I4	土師器	甕	口縁	外面粗い斜・横ハケメ後縦ハケメ、内面ナデ。外面灰黄褐色、内面にぶい黄橙色。	1206
9	明褐色砂質土	I6	須恵器	蓋か椀	体部	内外面ナデ。内外面灰白色。0.5㎜以下の長石少量含む。	1208
10	明褐色砂質土	G5	須恵器	坏	底部	内外面ナデ。内外面灰白色。0.5㎜以下の長石少量含む。	1202
11	明褐色砂質土	G5	須恵器	坏	底部	内外面ナデ。外面灰白色、内面青灰色、破面紫灰色。0.5㎜以下の長石少量含む。	1203
12	明褐色砂質土	H3	須恵器	壺か甕	頸部	内外面ナデ。内外面灰～灰白色。0.5㎜以下の長石少量含む。	1204
13	明褐色砂質土	I3	須恵器	壺	底部	外面カキメ、内面ナデ。内外面灰白色。１㎜以下の長石少量含む。	1205
14	明褐色砂質土	G4	白磁	碗	底部	露胎部分灰白色、施釉部分明オリーブ灰色。削出高台。0.5㎜以下の長石含む粗い胎土。	1316
15	明褐色砂質土	G4	石器		素材	緑色片岩。	1324

図27　撹乱出土遺物

	出土位置			種別	器種	部位	調整・その他特徴	実測番号
	遺構	層位	地区					
1	撹乱		北半	弥生土器	壺	底部	外面磨滅。外面にぶい橙色、内面灰白～灰黄褐色。１～５㎜の長石・石英多く角閃石少量含む。	1406
2	撹乱		不明	須恵器	坏	口縁	内外面ナデ。内外面灰白色。１㎜以下の長石わずかに含む。軟質で火襷が入る。	1428
3	撹乱		西半	瓦器	椀	口縁	和泉型。内外面ミガキか、外面指頭圧痕。内外面暗灰色。１㎜以下の長石多く含む。	1423
4	撹乱		西半	須恵器	坏	底部	内外面ナデ、底部回転ヘラ切り。内外面灰白色。精製土に１㎜の長石少量含む。	1422
5	撹乱		北半	須恵器	坏	底部	底部回転糸切り後ナデ。内外面灰白色。１㎜以下の長石少量含む。軟質。	1417
6	撹乱		北半	土師器	椀	底部	内外面ナデ。外面黄褐色、内面褐灰色。きめ細かい胎土に１㎜以下の長石・赤色粒少量含む。	1421
7	撹乱		南東	須恵器	壺	口縁	内外面ナデ。外面赤黒色、内面・破面灰赤色。精製土に黒色粒少量含む。	1429
8	撹乱		北半	須恵器	壺	口縁	外面底部ヘラケズリ、内面ナデ。外面灰色、内面赤褐色。１㎜以下の長石少量含む。	1418
9	撹乱		北半	土師器	土鍋	口縁	外面口縁部横ハケメ後ナデ、体部縦ハケメ後ナデ。内面橙色、外面にぶい橙色、破面黒化層。	1420
10	撹乱		北半	土師器	土鍋	口縁	内外面磨滅。外面橙色、内面にぶい黄橙色。長石・石英・雲母含む粗い胎土。	1407
11	撹乱		北半	土師器	羽釜	脚部	にぶい橙色。３㎜以下の長石・石英多く含む。	1413
12	撹乱		西半	白磁	鉢	体部	内外面薄い施釉。気泡多い。圏線入る。	1424
13	撹乱		北半	白磁	碗	底部	畳付露胎。露胎部灰白色。トチンの痕跡あり。	1414
14	撹乱		北半	白磁	碗	底部	高台と高台内露胎。見込み部に６条の櫛描き文。	1401
15	撹乱		北半	青磁	碗	底部	龍泉窯系。施釉部分明オリーブ灰色、破面灰色。高台端部付近露胎でにぶい赤褐色。	1408
16	撹乱		北半	染付	碗	底部	内底面釉の掻き取り。外面高台～底部に２条の施文。	1410
17	撹乱		北半	染付	碗	底部	草木文。砂粒を含まない胎土。	1419
18	撹乱		北半	施釉磁器	Ⅲ	全形	露胎部灰白色。	1409
19	撹乱		北半	備前焼	匣鉢	全形	内外面回転ナデ。外面褐～灰褐色、内面褐灰色、破面灰白色。１㎜以下の長石・石英少量含む。	1412
20	撹乱		北半	備前焼	匣鉢	底部	底部静止糸切り。外面暗灰色、内面灰色、破面灰赤色。長石・石英・雲母少量含む。	1415
21	撹乱		北半	備前焼	匣鉢	底部	底部回転糸切り。外面黄褐色、内底部灰赤色、体部灰色。１㎜以下の長石・黒色粒多く含む。	1411
22	撹乱		北半	石器		敲石	先端部と側辺に敲打痕。緑色片岩。	1404
23	撹乱		北半	石器		敲石	上部欠損。先端部と側片に敲打痕。左側面と先端部に面あり。緑色片岩。	1403
24	撹乱		西半	石器		素材	緑色片岩。	1426
25	撹乱		北半	石器		素材	緑色片岩。	1405
26	撹乱		北半	石器		素材	緑色片岩。	1402
27	撹乱		西半	石器		素材	緑色片岩。	1425
28	撹乱		北半	石器		素材	緑色片岩。	1416
29	撹乱		南半	石器		素材	緑色片岩。	1427

Ⅳ　樽味遺跡５次調査

1　調査の経過と方法

(1)　調査の経緯

1998年度補正予算に伴って、既存のRI実験施設拡充を図った遺伝実験施設の新営が計画された。位置はRI実験施設の東側、汚水処理施設・排水処理施設部分に相当する。埋蔵文化財調査室ではこれを承けて、1999年１月に事前試掘調査（調査番号：99804）を行った。その結果、建物本体部分では、RI実験施設と汚水処理施設の間と排水処理施設下部で、中世以前の流路を確認した。また、計画建物から西側へ延びる管路部分でも、同様の流路内堆積と基本層序Ⅳ層を計画深度内で検出した。これらの範囲に加えて、既往調査で埋蔵文化財への影響が予測できる、計画建物から北へ向かう管路部分、拓翠寮の管路部分についても、協議の上、発掘調査対象とした。結果、調査対象面積は979㎡、管路に関わる調査区は総延長500ｍを越える。これを1998年度に樽味遺跡５次調査（調査番号：99807）として実施することとなった（図30）。

調査にあたっては、管路に関わる調査区を、樽味団地西部一帯に対する大トレンチと位置づけ、旧地形と遺跡の広がりを確認することを第一の目的とした。

図30　調査地点位置図（縮尺１/2,000）

表３　樽味遺跡５次調査の経過

	３月	４月	５月	６月	７月
Ⅰ　区	16～	～15（公共下水道切替工事）			
ⅡW区		12～20	31～	～15	
ⅡE区		12～20			6～15
Ⅲ　区			6～26		
Ⅳ　区			（排水処理施設撤去工事）	16～	～5
Ⅴ　区		20～30			
Ⅵ　区		22～27			

(2)　調査区割の設定と呼称

各所に展開する発掘調査区については、以下のように、Ⅰ～Ⅵ区の調査区名を与えた。

Ⅰ区：遺伝子実験施設新営地点から西へ延びる下水管新設に伴う調査区。

Ⅱ区：遺伝子実験施設から北へ延びる上水管路と電気管路に伴う調査区で、前者が東、後者が西に平行し、前者をⅡE区、後者をⅡW区とした。

Ⅲ区：遺伝子実験施設本体部分の内、RI実験施設と汚水処理施設の間の調査区。

Ⅳ区：遺伝子実験施設本体部分の内、既存の排水処理施設部分の調査区。

Ⅴ区：電気管路の内、農学部校舎中庭の調査区。

Ⅵ区：拓翠寮敷地内の新設下水管に伴う調査区。

調査記録の作成にあたっては、農学部構内に設置されているNo.１とNo.２の２点の平面直角座標系Ⅳ系に基づく３級基準点から座標点を移動して用いた。

No.１　X＝92931.851，Y＝－65209.582，H＝42.243

No.２　X＝92936.614，Y＝－65083.907，H＝44.422

ただし、これら座標点に基づいた調査区割は、面的な調査区が設定されたⅢ・Ⅳ区に留まっている。他の調査区は、管路に伴う幅狭の調査区のため、また工程上からも、攪乱や既存枡などにより調査区が分断される毎に適宜分割して小区割とする方法を採用した。Ⅰ区は西からⅠa～Ⅰi区の９小区に、ⅡE区は南からⅡEa～ⅡEk区の11小区に、ⅡW区も南からⅡWa～ⅡWg区の７小区に、Ⅴ区は西からⅤa～Ⅴf区の６小区である。

(3)　調査の経過（表３）

発掘調査は、1999年３月16日から開始し、工程上の各区着手状況は表３の通りである。まず、Ⅰ区とⅡ区南部の調査を優先し、公共下水道への下水道管敷設と排水処理施設の撤去が図られるようにした。そして、その作業中にⅤ・Ⅵ・Ⅲ区・ⅡW区北部の調査を行い、排水処理施設の撤去を承けてⅣ区の調査に着手し、最後に残るⅡE区北部の調査を行った。そして、７月15日には現場での作業をすべて終えた。今回の調査では、調査終了後速やかな工事の着手が必要とされ、かつ広く面的な調査区でなかったため、外部に対する現地説明会は開催せず、７月21日にはすべての作業を終了し、現場を撤収した。

(4)　遺構・遺物の登録番号と種別の表示

遺構は種別を、SR：流路、SC：竪穴式住居、SD：溝、SK：土壙、SP：柱穴・小穴、SX：その他、の略号を遺構番号に冠して表した。遺構番号は、SP以外について、調査順に１から付し、44に及ぶ(42欠番)。SPは欠番を挟みながら、100から749に達する。

出土遺物のうち、調査時に原位置を記録したものについては、１～12のRを冠した番号を遺物取上番号として与えている。これ以外の出土遺物は、土層と調査区割単位あるいは遺構と埋土単位での取り上げである。この取り上げ単位に対して、改めて整理時に１からのrを冠した番号を付して、接合他の検討を行った。そして、報告書に記載すべき記録可能な個体を選別する時点で、１個体（実測図単位）に対して、４桁のRを冠した遺物実測番号を与え、別色で追加注記している。出土遺物観察表の実測番号がこれに当たる。Ⅰ区出土がR1001～1152、ⅡW区出土がR2001～2127、ⅡE区出土がR2501～2589、Ⅲ区出土がR3001～3192、Ⅳ区出土がR4001～4238、Ⅴ区出土がR5001～5055である。

2　調査の概要

調査地点　松山市樽味３丁目５番７号
愛媛大学遺伝子実験施設新営予定地
その他
調査番号　99807
調査面積　979㎡
調査期間　1999年３月16日～７月21日
調査担当　吉田　広
調査補助　宮崎直栄・平塚幸人

(1)　土層の堆積状況

基本層序は上位からⅠ～Ⅴ層である（Ⅰ-２参照）。このうち、遺物包含層としてのⅢ層が確認された範囲は、農学部研究実験棟（樽味遺跡２次調査地点）付近の、南北40m程の範囲のⅡ区と、Ⅴ区の一部に過ぎない。ただし部分的には、Ⅲ-１層とⅢ-２層に明確に区分できる地点も存在した。遺構は包含層であるⅢ層の下で密集して多くを検出しているが、Ⅲ層の広がらないⅠ・Ⅱ層直下のⅣ層上面でも、流路内堆積やⅢ層に準じる埋土の遺構を検出している。

(2)　遺構と遺物

確認した遺構は、以下の通りである。

自然流路　２条（SR-１・21）
溜まり状堆積　１単位（SX-２）
竪穴式住居　７棟
（SC-４・11・12・16～18・20）
溝　14条
（SD-６・９・10・15・19・22～24・28・32・36・37・39・41）
土壙　19基
（SK-３・５・７・８・13・14・25～27・29～31・33～35・38・40・43・44）
柱穴・小穴　550余基
Ⅰ区：26基（SP-100～116・119～127）
Ⅱ区：約500基（Ⅱ区SP一覧参照）
Ⅲ区：０基
Ⅳ区：１基（SP-176）
Ⅴ区：23基（SP-151～167・169～174）
Ⅵ区：１基（SP-175）

南部のSR-１・SX-２からは多くの遺物が出土し、中でも10～12世紀の遺物が多い。ただし、14世紀に下る遺物もあり、流路の最終埋没は14世紀前後にまで下る。対して２次調査地点付近では、14世紀前後の遺構・遺物が中心となる。この他、弥生時代に遡る遺構に竪穴式住居(SC-16～18・20)・溝(SD-15)・土壙(SK-38)がある。

①　Ⅰ区の遺構と遺物

Ⅰ区では、Ⅰf区以西に自然流路１条(SR-１)が広がる。出土遺物は12世紀以前を中心に、一部14世紀に下る。Ⅰa・Ⅰb区のSR-１の北岸ないし比較的浅い場所では竪穴式住居１棟（SC-４）、土壙４基（SK-３・５・７・８）、溝３条（SD-６・９・10）、柱穴・小穴26基を、Ⅰg区以東で竪穴式住居２棟と土壙１基の重複(SC-11・SC-12・SK-44)と土壙１基(SK-13)、溜まり状堆積１単位（SX-２）を検出している。SX-２がSR-１と同様の遺物を含む他は、詳細不明。

②　Ⅱ区の遺構と遺物

Ⅱ区では、２次調査地点東側を中心に多くの遺構を検出した。土壙13基（SK-14・25～27・29～31・33～35・38・40・43）、溝９条(SD-22～24・28・32・36・37・39・41)、柱穴・小穴約500基である。ほとんどが14世紀を中心とした遺構であるが、弥生時代の土壙（SK-38）もある。

③　Ⅲ区の遺構と遺物

Ⅲ区では、自然流路１条（SR-１）と溜まり状堆積１単位（SX-２）を検出した。出土遺物は12世紀以前を中心に、一部14世紀に下る。

④　Ⅳ区の遺構と遺物

Ⅳ区でも、自然流路１条（SR-１）と溜まり状堆積１単位（SX-２)、そして柱穴１基を検出した。出土遺物は12世紀以前を中心に、一部14世紀に下る。

⑤　Ⅴ区の遺構と遺物

Ⅴ区では、竪穴式住居４棟（SC-16～18・20)、溝２条(SD-15・19)、柱穴・小穴24基を検出している。竪穴式住居４棟と溝１条（SD-15）は弥生時代の遺構で、他は14世紀前後の遺構と見られる。

⑥　Ⅵ区の遺構と遺物

Ⅵ区では、自然流路１条（SR-21）を認めた他、小穴１基を検出したのみで、出土遺物はない。

3　調査の記録

i　Ⅰ区の調査

Ⅰ区は、遺伝子実験施設新営地点北側から、既設集水枡（99507調査地点）までの170mに及び、このうち西部約40mは幅２mで、残る東側は幅１m前後である。ただし、既存の下水管・電気管や既設枡によって調査区が寸断されるなどしたため、これら寸断等によって発掘区を適宜分割し、西側からⅠa区～Ⅰi区とした。

Ⅰa～Ⅰf区では、樽味団地基本層序Ⅱ層の下で、Ⅲ層あるいはⅣ層が直接現れず、流路内堆積が広がる（図版９-4）。これをSR-１とした。西端のⅠa区西半では、SR-１の北岸を確認している。これ以東は、厚い流路内堆積へと転じ、しばらくは調査区全体がSR-１の中にすっぽり入った格好である。Ⅰd区東端のY＝－65274からⅠe区東端のY＝－65263の間で一旦浅くなるが、最終的には、樽味団地南通用門からの道路との三叉路、Ⅰf区東端でSR-１は調査区から南に外れる。なお、後述するⅢ・Ⅳ区において、再びSR-１が確認されている。

SR-１内の基本層序は、先の試掘調査（調査番号99804）で認めていたa～d層の分層を基本とするが、a層とb層は土質がほぼ等しいため、本調査ではa・b層として一括大別している。また、d層は基本的にe層の一部とみなし、一部を除いて、基本層序からは除外した。地点によって差はあるが、基本的な内容は以下の通りである。

a・b層；灰黄褐色～にぶい黄褐色砂質土。５㎜前後の小石をやや多く含む。しまりは弱い。

c層；西側では、黒褐色～暗褐色粘質土。Ⅰd区以東では、黒味が薄まり、砂質もやや強くなる。

e層；20㎝までの礫を含む砂層を中心に、流水により多様な粒度の土層が互層状に堆積する。

SR-１の他、Ⅰ区で検出した遺構は、溜まり状堆積（SX）１単位、竪穴式住居（SC）３基、土壙（SK）６基、溝（SD）３条、柱穴・小穴（SP）26基である。

(1)　Ⅰa区（図31、図版８-1）

Ⅰa区は、幅２m前後・長さ約18.5mに及び、東のⅠb区との間には枡があり、ここを通路としても利用するため、長さ１m強の未掘部分を残す。

Ⅰa区内大半がSR-１となるが、SR-１北岸上には、SR-１埋土を一部被り、薄い包含層であるⅢ層の下、Ⅳ層上面でSC-４、SD-６と小土壙、柱穴・小穴を検出し、Ⅰa区東端のSR-１底面で、小土壙と柱穴・小穴を確認している。遺物も複数遺構・Ⅲ層から出土している（図33、図版26-1）。

①　SR-１

SR-１埋土が薄いⅢ層の上に被り、ちょうどⅠa区西南隅部から、Ⅰa区北壁のY＝－65330辺りに向けて、東西方向から東で約10°北にふってSR-１の北岸を検出した。北岸上は標高39.6m、Ⅰa区東端のSR-１底で標高39.5mと、まだこの地区ではSR-１の深さはあまりない。SR-１埋土もa・b層がほとんどで、東に行くにしたがってc層が現れてくる。

Ⅰa区のSR-１出土遺物は、２～５・９・11で、いずれもa・b層出土。２は白磁の碗。口縁端部は玉縁状。11～12世紀頃。３は椀底部で、断面三角形状の高台がつく。４は円盤状高台の坏底部で10世紀代。５は被熱粘土塊で、断面円形を呈し、表面には被熱によって黒褐色に変色した部分が見られる。９は打製石器。表面は全体的にローリングを受け磨滅し、稜は不明瞭。11は打製石鏃の未製品。平面二等辺三角形の平基無茎式で、素材剥離面と礫の自然面を広く残す。他にSR-１a・b層から鈍１点（図115-４）、c層上面から鉄滓１点（図115-11）が出土している。

②　SC-４（図32、図版８-2）

調査区北壁際で、約2.5m幅の落ち込みを確認した。深さは５㎝以下。検出面はⅣ層上面であるが、土層の観察から、遺構の掘り込みは、SR-１の堆積の下、Ⅲ層を切っていることが確認できる。小型ながら、埋土と床造成土等の差違が確認できたため、竪穴式住居と判断した。出土遺物はない。

③　SD-６（図32、図版８-2･3）

北から東へ約50°ふる、北東－南西方向の溝。SR-１の堆積の下、やはりⅢ層の堆積を切る。北壁では深さ50㎝以上を測る逆台形状の断面を有するが、以南では緩やかな二段状になり、深さも減じ、南壁では深さ

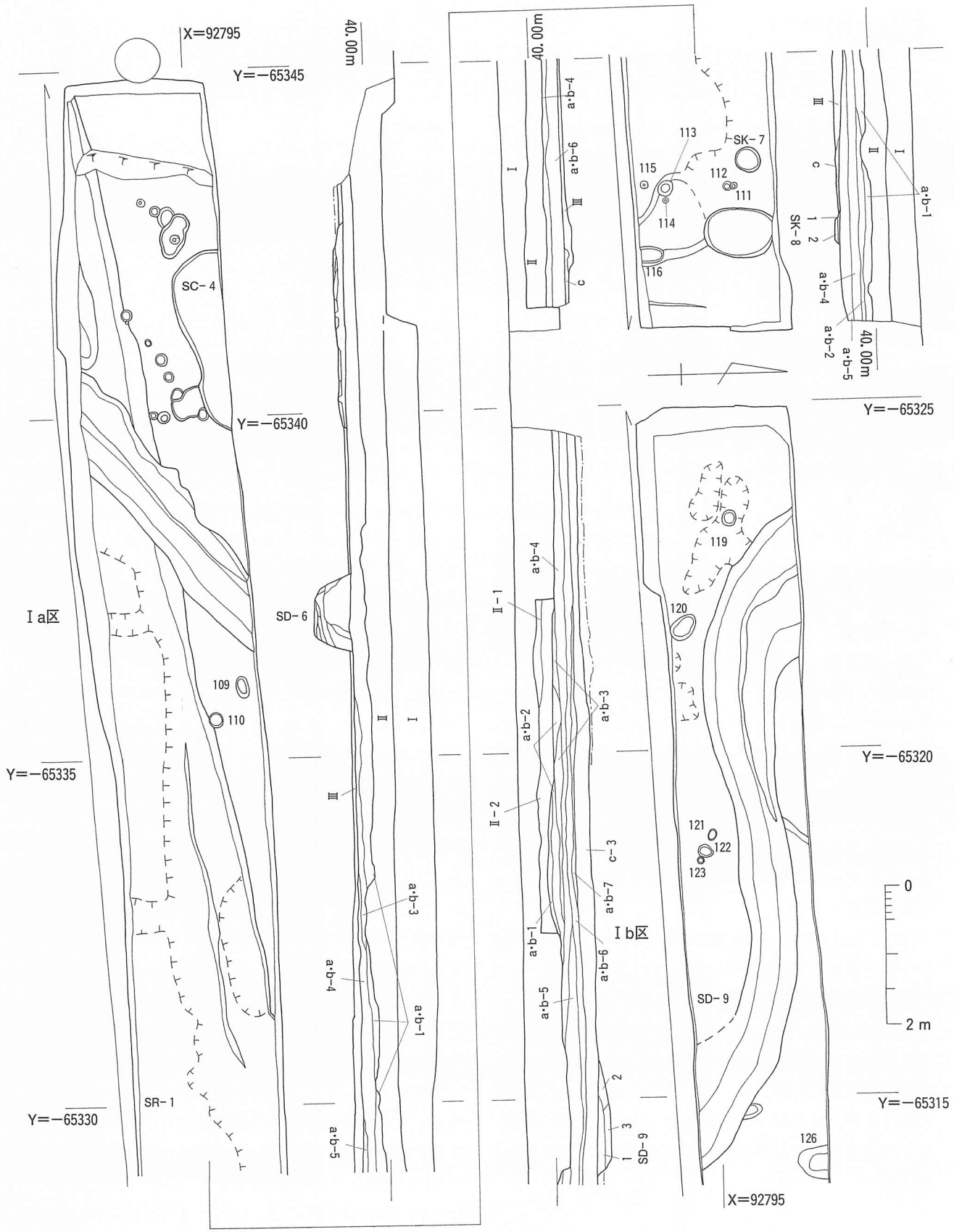


図31　Ⅰ区実測図(1)（縮尺１/80）（遺構名「SP-」省略）

図31　土層注記

Ⅰa区北壁土層

a·b－1　褐色(10YR4/4)砂質土。灰黄褐色(10YR4/2)砂質土。2～3㎜の礫をやや多く含む。しまりあり。
にぶい黄褐色(10YR5/3)砂質土。2～5㎜の礫を多く含む。
a·b－2　灰黄褐色(10YR4/2)砂質土。やや褐色味を帯びる。しまりあり。
a·b－3　灰黄褐色(10YR4/2)砂質土。サクサクしている。やや粗い。
a·b－4　灰黄褐色(10YR4/2)砂質土。サクサクしている。2～3㎜と1㎝の礫を多く含む。
灰黄褐色(10YR4/2)砂質土。しまりあり。
a·b－5　灰黄褐色(10YR4/2)砂質土。1～2㎝の礫を多く含む。粗い。サクサクしている。
c　灰黄褐色(10YR4/2)粘質土。きめ細かい砂。礫をほとんど含まない。
にぶい黄褐色(10YR5/4)粘質土。礫を含まない。
Ⅲ　暗褐色(10YR3/4)粘質土。粘性が強い。

Ⅰa区南壁土層

Ⅱ　灰黄褐色(10YR4/2)砂質土。a·b－4層よりやや茶色味を帯びる。
a·b－4　灰黄褐色(10YR4/2)砂質土。a·b－6層より砂粒が粗い。灰色味を帯びる。
灰黄褐色(10YR4/2)砂質土。
a·b－6　灰黄褐色(10YR4/2)砂質土。下部に3～5㎜の礫を多く含む。
c　黒褐色(10YR3/2)粘質土。遺構と考えられる。
Ⅲ　にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土。褐色(10YR4/6)の5㎜の円形ブロックを多く含む。砂粒をごく少量含む。

Ⅰb区南壁土層

Ⅱ－1　褐色(10YR4/4)砂質土。2～3㎜の礫を多く含む。
Ⅱ－2　記載なし。
a·b－1　にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土。
a·b－2　にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土。a·b－1層より粗く、5～10㎜の礫を多く含む。
a·b－3　にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土。5～10㎜の礫を多く含む。
a·b－4　にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土。やや褐色味を帯びる。
a·b－5　やや灰色味を帯びる。しまりあり。
a·b－6　灰黄褐色(10YR4/2)砂質土。サクサクしている。
a·b－7　灰黄褐色(10YR4/2)砂質土。5～10㎜の礫を多く含む。
c－3　黒褐色(10YR3/2)粘質土。

SD－9－1　c層ほど粘性は強くなく、やや砂質が混じる。灰色味を帯び、しまりあり。
SD－9－2　にぶい黄褐色シルト。きめ細かく、礫を含まない。
SD－9－3　褐色砂層。目立った礫はないが、やや粗い砂の層。

約30㎝。一部掘り直しも想定できる。埋土は、粘質土が多くを占める。出土遺物には、細片ながら中世土師器を含む。ただし、図示できたのは、1の須恵器の高坏脚部のみ。脚部には方形透かしがある。5世紀末から6世紀初。

④　**小土壙**（図31・32）

最初、土壙と認識して「SK」の略号を付した番号を与えたが、規模から柱穴あるいは柱穴の重複の可能性が高い遺構である。いずれも、SR－1埋土の下、Ⅳ層上面で検出した。SC－4の側のSK－3・5と、Ⅰa区東端のSK－7・8である。このうち、SK－8は南北長軸約1m・東西短軸約0.7mの楕円形で、深さ約8㎝の規模をもつ。いずれの遺構も出土遺物はない。

⑤　**柱穴・小穴**

SR－1埋土の下、Ⅳ層上面でSP－100～116の、17基の小穴を検出している。ただし、出土遺物はない。

⑥　**Ⅲ層出土遺物**（図33）

Ⅰa区の北側には、SR－1埋土とⅣ層の間に5㎝前後と薄いながらⅢ層が堆積している。このⅢ層出土遺物で図示できたのが、6～8・10である。6は土師器坏の口縁部。7は須恵器の坏底部。8は須恵器の壺胴部。10は砂岩質の打製石器。表面はローリングを受けている。

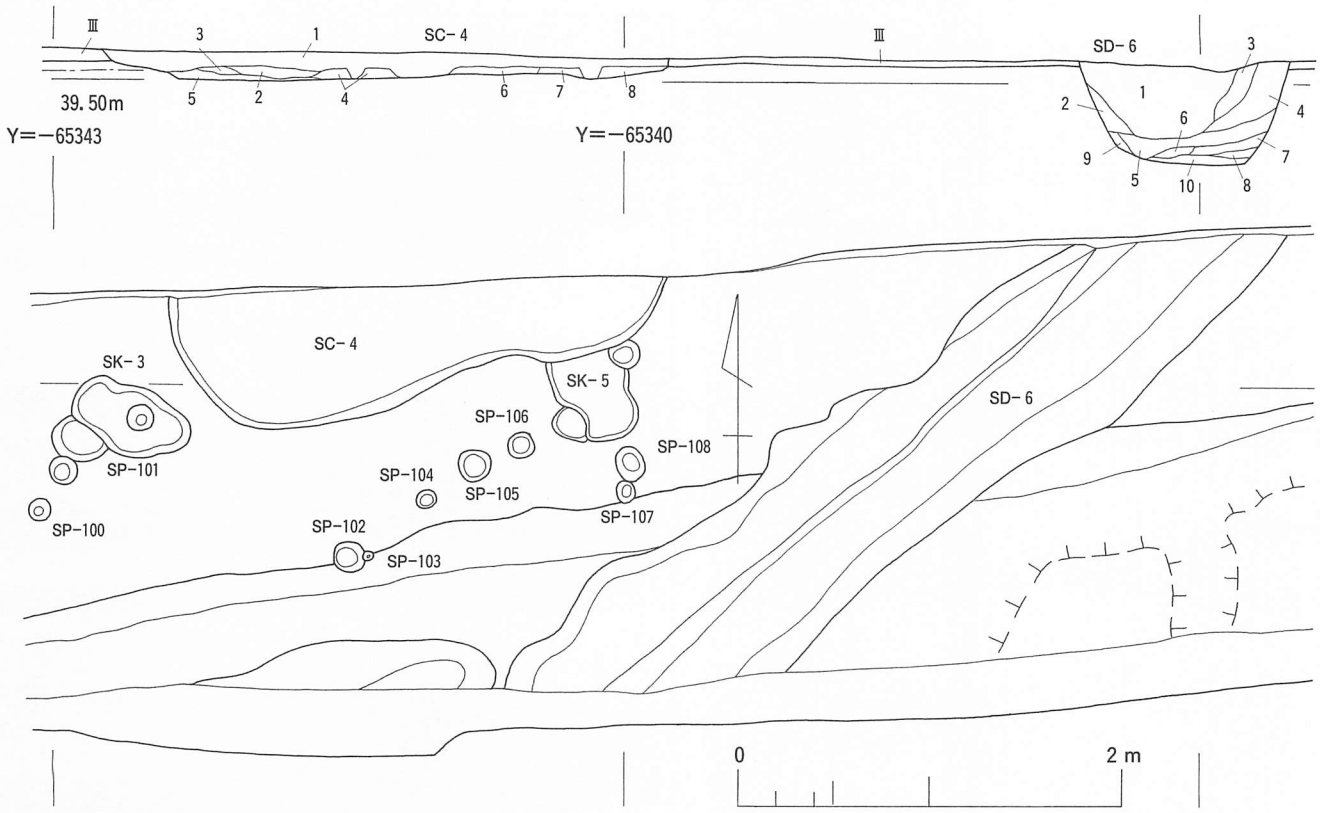
(2)　**Ⅰb区**（図31・34、図版8－4）

Ⅰb区は、幅2m弱・長さ20.8mに及び、やはり東側Ⅰc区との間に、通路用として既存枡部分を含めて長さ3mほどの未掘部分を挟む。SR－1が全面に及ぶが、SR－1の底面で、SD－9・10の溝2条と、若干の柱穴・小穴を検出している。

①　**SR－1**

Ⅰb区全面で、a・b層の下にc層が及び、しかも西端でその厚さが15㎝程度であったのが、東端では20㎝を越え、さらにその下にe層が認められるようになる。SR－1底面のレベルも、西端で標高39.4m弱であったのが、東端では39.2mにまで下がる。

Ⅰb区のSR－1出土遺物で図示できたのは17点（図35、図版26-2）。a・b層からは1の須恵器の蓋1点のみで、内面に比較的短いかえりが付き、口縁端部よりも下方に伸びる。7世紀末葉頃。2～13はc層出土。2は須恵器の壺口縁部で、直立した短い頸部から口縁部が緩やかに外反する。3は壺もしくは瑞の胴部片で、外面は回転ヘラケズリ後、横方向のカキメ調整。4は須恵器の壺もしくは甕の胴部片で、外面に縄蓆文タタキ。6世紀後半。5は軟質ながら須恵質の甕胴下半部で、外面に不定方向のタタキ。6は坏もしくは椀の口縁部。7・8は平瓦。凸面に縄目、凹面に布目が残る。9・10は高台付きの椀底部。9は所謂足高高台で10世紀代。11・12は坏底部。13は土師器Ⅲ底部。14～17はe層出土。14は土師器椀で、口縁部は端反り。15～17は須恵器の蓋。15・16は口縁部に稜が明瞭に入り、6世紀前葉。17はやや扁平。他に、a・b層から器種不明のU字状鉄器1点（図115－9）が出土している。



SC-4
1　黒褐色（10YR3/2）粘質土。礫はほとんど含まない。
2　黒褐色（10YR3/2）粘質土に褐色（10YR4/4）シルトの１～２㎝の楕円形のブロックを多く含む。
3　黒褐色（10YR3/2）砂質土と灰黄褐色（10YR4/2）シルトが混じりあう。やや白味を帯びる。
4　褐色（10YR4/4）粘質土に黒褐色（10YR3/2）の１～２㎝のブロックを多く含む。
5　褐色（10YR4/4）粘質土。少量の黒褐色（10YR3/2）粘質土の１～２㎝の楕円形のブロックを含む。
6　にぶい黄褐色（10YR4/3）粘質土。
7　にぶい黄褐色（10YR4/3）粘質土に黒褐色（10YR3/2）粘質土の１～２㎝のブロックを少し含む。
8　黒褐色（10YR3/2）粘質土。褐色（10YR4/4）シルトが混じるが、黒褐色粘質土が大部分を占める。

SD-6
1　黒褐色（10YR2/2）粘質土。礫をほとんど含まない。
2　黒褐色（10YR2/2）粘質土。褐色の１～２㎝の楕円形のブロックを少し含む。
3　にぶい黄褐色（10YR4/3）粘質土。黒褐色（10YR2/2）粘質土の２～３㎝のブロックを多く含む。
4　黒褐色（10YR2/2）粘質土とにぶい黄褐色（10YR5/3）粘質土が混じりあう。
5　黒褐色（10YR2/2）粘質土。
6　にぶい黄褐色（10YR5/4）粘質土がブロック状に入り込む。
7　灰黄褐色（10YR4/2）砂質土。
8　黒褐色（10YR2/2）粘質土。
9　にぶい黄褐色（10YR5/4）粘質土。
10　灰黄褐色（10YR4/2）砂質土。

図32　SC-4・SD-6他実測図（縮尺１/40）

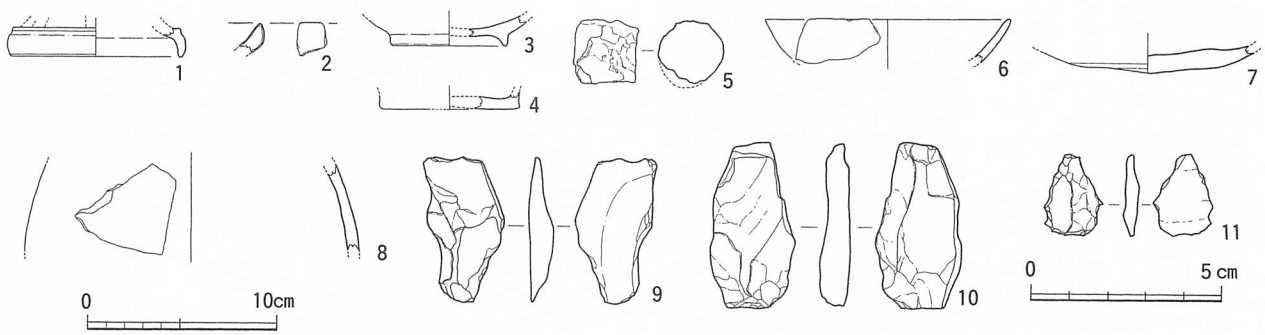


図33　Ⅰa区出土遺物実測図（縮尺１/４、１/２）

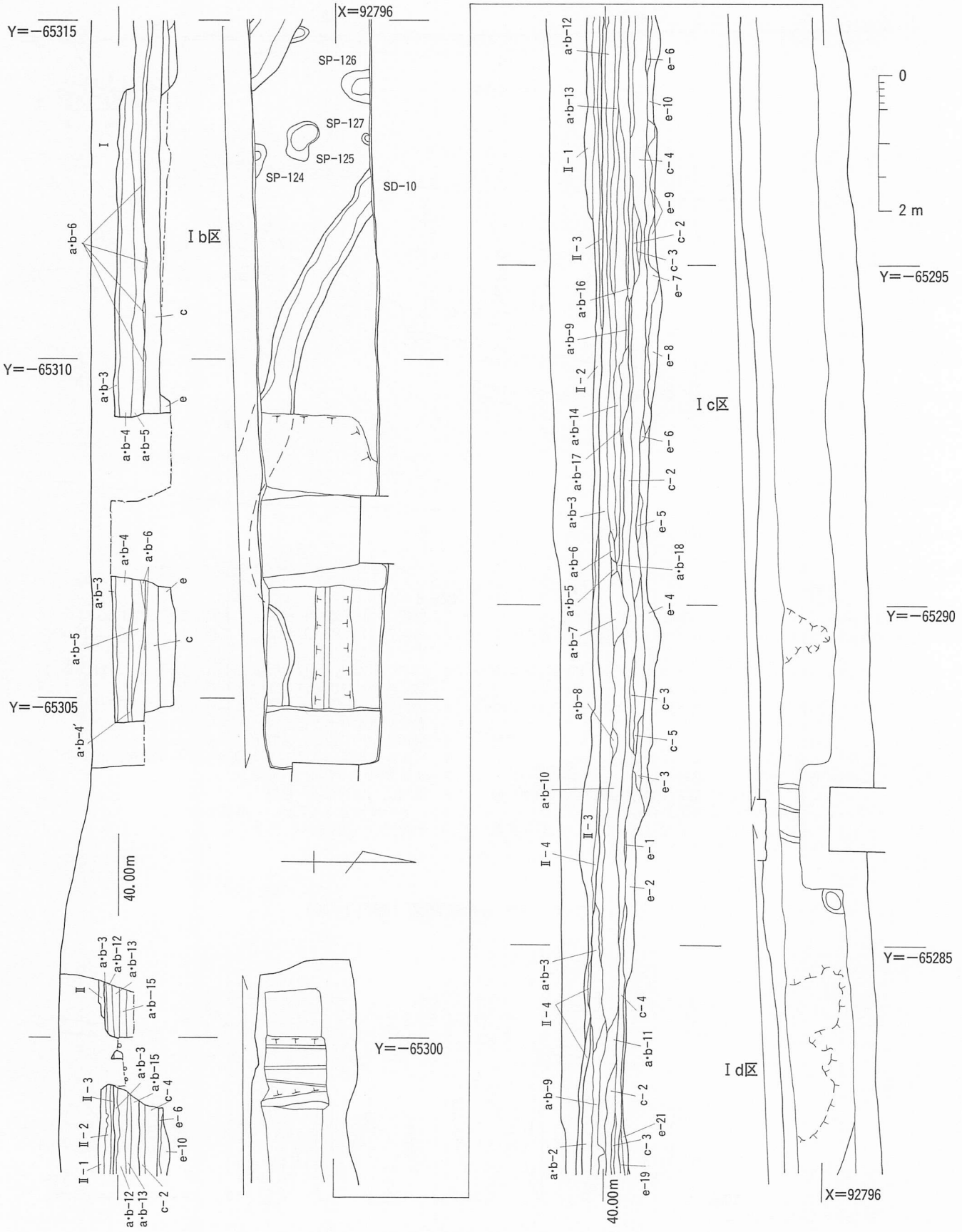


図34　Ⅰ区実測図(2)（縮尺1/80）

図34　土層注記

Ⅰb区南壁土層

a･b－３　褐色（10YR4/6）砂質土。２～３㎜の礫を多く含む。しまりあり。
a･b－４　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。３～５㎜の礫を多く含む。
a･b－４′　褐色（10YR4/4）砂質土。a･b－４層よりやや粗い。
a･b－５　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。やや灰色味を帯びる。しまりあり。
a･b－６　灰黄褐色（10YR4/2）砂質土。サクサクしていて５～10㎜の礫を多く含む。
c　黒褐色（10YR3/2）粘質土。
e　砂礫層。５～10㎝の礫を多く含む。

Ⅰc・d区南壁土層

Ⅱ－１　褐灰色（10YR6/1）砂質土。５㎜程の礫を多く含む。２㎝程の礫もまばらに含む。
Ⅱ－２　黄褐色（10YR5/6）砂質土。部分的に青灰色（10BG6/1）が混じる。
Ⅱ－３　暗灰黄色（2.5Y5/2）砂質土。５㎜の礫をまばらに含む。明黄褐色（2.5Y6/6）の土を斑らに含む。
Ⅱ－４　灰黄褐色（10YR5/2）砂質土。１～２㎝の礫を多く含む。
a･b－２　にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土。５～10㎜の角ばった礫を多く含む。a･b－９層よりやや灰色味を帯びる。
a･b－３　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。５㎜の礫を多く含む。部分的にやや灰色味を帯びる。しまりあり。
にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。５～10㎜の礫を多く含む。
にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土と黄褐色（10YR5/8）砂質土の混じった層。しまりあり。３㎜程の礫を少し含む。
a･b－５　ブロック状に見られる。灰色砂質土。１㎝程の礫をわずかに含む。
a･b－６　砂礫層。５㎝の礫を少し含む。２㎝程の礫を多く含む。
a･b－７　砂礫層。10㎝の礫を少し含む。
a･b－８　褐色砂質土。５㎜の礫を多く含む。a･b－４層とa･b－10層の互層。
a･b－９　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。５～10㎜の角ばった礫を多く含む。
a･b－10　灰黄褐色（10YR5/2）砂質土。５～６㎝の礫を極少量と１～２㎝の礫を多く含む。流路と考えられ、水の流れた痕跡が見られる。細かい砂・礫混じりの砂との互層。
a･b－11　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。やや灰色味を帯びる。下部ほど礫が少なくなる。
a･b－12　にぶい黄褐色（10YR5/3）砂質土。５㎜程の礫をやや多く含む。しまり弱い。
a･b－13　にぶい黄褐色（10YR5/4）砂質土。やや砂粒が粗い。
a･b－14　褐灰色（10YR5/1）砂質土。礫はほとんど含まない。下部に砂粒のやや粗い灰黄褐色（10YR5/2）砂質土が部分的に混じる。
a･b－15　灰黄褐色（10YR5/2）砂質土。部分的にc層との互層。
a･b－16　灰黄褐色（10YR5/2）砂質土。c層ほどではないが粘性が強い。c層との互層。
a･b－17　にぶい黄褐色（10YR5/3）砂質土。上位の砂粒は細かいが、下位はやや粗い。
a･b－18　黄褐色（10YR5/8）砂質土。５㎜程の礫をやや多く含む。しまり弱い。
c－２　黒褐色（10YR3/1）粘質土。やや砂質である。
c－３　c層間の砂層。
c－４　黒褐色（10YR3/2）粘質土。
灰黄褐色（10YR4/2）粘質土。やや砂質が強くなる。
c－５　やや砂質が強い。
e－１　灰黄褐色（10YR5/2）砂質土。１～２㎝の礫を多く含む。
e－２　礫層。
e－３　灰黄褐色(10YR4/2)砂質土。礫をほとんど含まない。
e－４　砂礫層。
e－５　暗灰黄色（2.5Y5/2）砂質土。粘性が見られc層との互層。
e－６　灰黄色（2.5Y6/2）砂質土。５㎜程の礫を含む。
灰黄色（2.5Y6/2）砂質土。やや粘性あり。
e－７　黄灰色（2.5Y6/1）砂質土。砂粒は細かい。
e－８　直上の黄灰色（2.5Y6/1）砂質土と砂礫層の互層。
e－９　黄褐色（10YR5/6）砂礫。
e－10　橙色（7.5YR6/8）砂礫。
e－19　灰黄褐色（10YR5/2）砂礫。
e－21　記載なし。

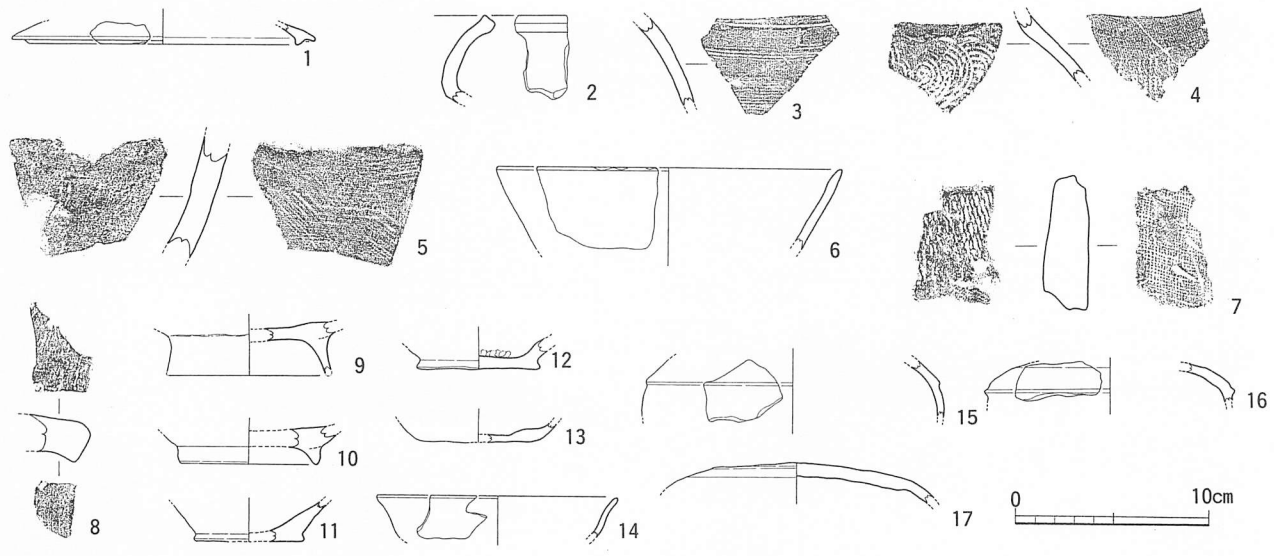


図35　Ⅰb区出土遺物実測図（縮尺１／４）

② **SD-9**（図31・図版8-6）

SD-9は、Ⅰb区を東西に長くS字状に走る溝。Y＝－65322付近で北壁に消えるが、そこでは幅2mを越える。ただし、S字を描く中央部では幅狭で約60cm。Y＝－65315付近で南壁に消える際は幅約1.7mを測る。断面は緩やかな逆台形。埋土は、南壁で一部粘質の高い埋土を上層に含むが、下部は基本的に砂質土層あるいは砂層で、流水性が高い。出土遺物はない。

③ **SD-10**（図34・図版8-5）

SD-10は、幅約40cm・深さ約10cmの溝で、Y＝－65312.5付近の北壁から、Y＝－65309付近の南壁に向けて、西北西－東南東方向にほぼ直線的に走る。既設

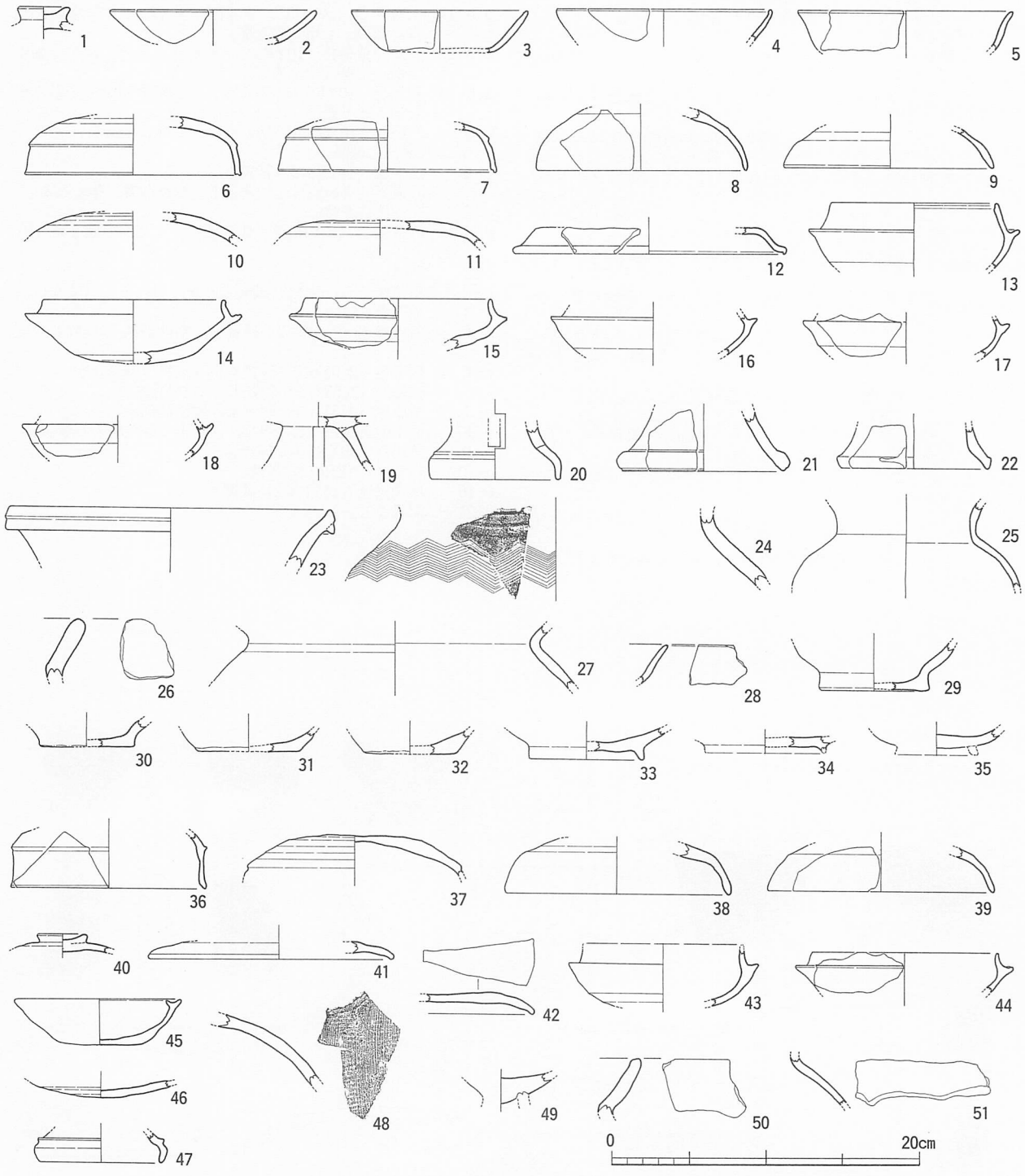


図36　Ⅰc区出土遺物実測図（縮尺1／4）

枡での未掘部分を挟んだⅠb区東端にも、連なると見られる落ち込みが南壁際に認められる。SD-10埋土は、SR-１e層に等しく、５～10cmの礫を含む。

④　柱穴・小穴

SR-１埋土の下、Ⅳ層上面でSP-119～127の、９基の小穴を検出している。ただし、出土遺物はない。

(3)　Ⅰc区（図34、図版９-1）

Ⅰc区以東は、調査区の幅を減じる。Ⅰc区では、上端で幅1.5m前後、ただし深さのあるため下端では0.8m程。長さは約９mで、既存枡で調査区幅を減じるものの、Ⅰd区とは連続する。SR-１が全面に及び、底面で若干の凹凸がある程度である。

①　SR-１

Ⅰc区ではSR-１の堆積は厚く、30～40cmに及ぶa・b層、25cm前後のc層、15～20cmのe層となる。特に、Y＝－65294.5付近で最も深くなり、標高39.2mを測る。それがⅠd区との境あたりで急速に深さを減じている。

Ⅰc区SR-１出土遺物は51点を図化した（図36、図版26-3～6）。１～５はa・b層出土。１は須恵器蓋のつまみ部。２～５は土師器。２は皿口縁部。３・４は坏口縁部で、３は直口し、４は端部が内面に突出する。５は椀の口縁部で先端が端反りする。また、小札とみられる鉄器１点（図115-１）も出土している。

６～35はc層出土。６～23・25は須恵器。６～11は蓋で、６・７は体部の稜が明瞭で、口縁端部が凹む。６世紀前葉。８・９は丸みをもった体部で６世紀後葉。10・11は扁平な天井部。12は断面逆S字状で器高が低く、口縁端部はわずかに下方に突出する。８世紀後半。13～18は坏。13は立ち上がりが長く、口縁端部は凹む。５世紀末から６世紀初。14～18は立ち上がりが短く、６世紀中葉から後葉。19～22は高坏脚部。19～21には方形透かしの痕跡が見られる。21は大型の脚部。いずれも５世紀末から６世紀初。23は壺口縁部で、端部が断面三角形状に肥厚。25は壺胴部。口縁部が直立し、緩やかに外反する。

24は須恵質陶器の壺肩部で、外面に13条１単位の櫛描き山形文が施される。26～33は土師器。26は甕口縁部。27は甕頸部で胴部が強く張り、５世紀代。28は坏もしくは椀の口縁部。29～32は坏底部。29・30は明瞭な立ち上がり。31・32は立ち上がりを持たず、底部からそのまま内湾する。33～35は高台付きの椀底部で、34・35は内黒の黒色土器。いずれも10～12世紀。

36～51はe層出土。36～48は須恵器。36～42は坏蓋。36は口縁部と天井部境の稜が明瞭で、５世紀後葉。37の稜は不明瞭で６世紀前葉。38・39は丸みをもった天井部となり６世紀後葉。40～42はつまみをもち、口径が大きく、器高が低くなるタイプ。いずれも８世紀代。43～46は坏。43・44は６世紀中葉。45は立ち上がりが短く、受部とほぼ同じ高さとなり、底部も扁平となる。７世紀前葉。47は高坏脚部で、脚端部は下方に伸びる。短脚の１段透かしと考えられ、５世紀末から６世紀初。48は横瓶肩部。外面には横方向のタタキ後に、縦方向のカキメ調整。49～51は土師器。49は高坏の坏底部で、脚部との接合痕が明瞭に見られ、５世紀代。50は甕口縁部。51は甕の肩部で、器壁は比較的薄く胴が大きく張る。５世紀代。

(4)　Ⅰd区（図34・37、図版９-2）

Ⅰd区は、上端で幅1.5m前後、深さがあるため下端では0.7～0.9mとなる。長さは約16.7mで、既存枡で調査区幅を減じるものの、Ⅰe区とは連続する。Ⅰd区でも、SR-１が全面に及ぶ。

①　SR-１

Ⅰc区との境あたりで深さを減じたSR-１は、しばらくは標高39.7mあたりを底面が推移する。そしてその間は、最下層のe層の堆積を欠く場所も存在する。それが、北壁でY＝－65282.4、南壁でY＝－65279.2を結ぶライン辺りで再び落ち込み、最深部は標高39.0mを下回る。そして、埋土最下層のe層も80cmに及ぶ厚い堆積をなす。ところが、このような深みも長くは続かず、南壁でY＝－65273.8、北壁でY＝－65271.2を結ぶライン以東は深さを減じていき、南壁でY＝－65272あたりでは標高39.6mが底となる。このように、Ⅰd区においてはSR-１が北側から湾入する格好となるのである。

Ⅰd区のSR-１出土遺物の内、図示できたのは８点（図38、図版27-1）。１～４はc層出土。１は羽釜脚部。13～14世紀。２～４は土師器。２・３は高台付きの椀底部。４は坏底部。５～８はe層出土。５は土師器の坏底部。６・７は高台付きの須恵質の坏。７の高台は台形状。８世紀前半。８は弥生土器複合口縁壺口縁部。櫛描き山形文が施される。後期後葉。

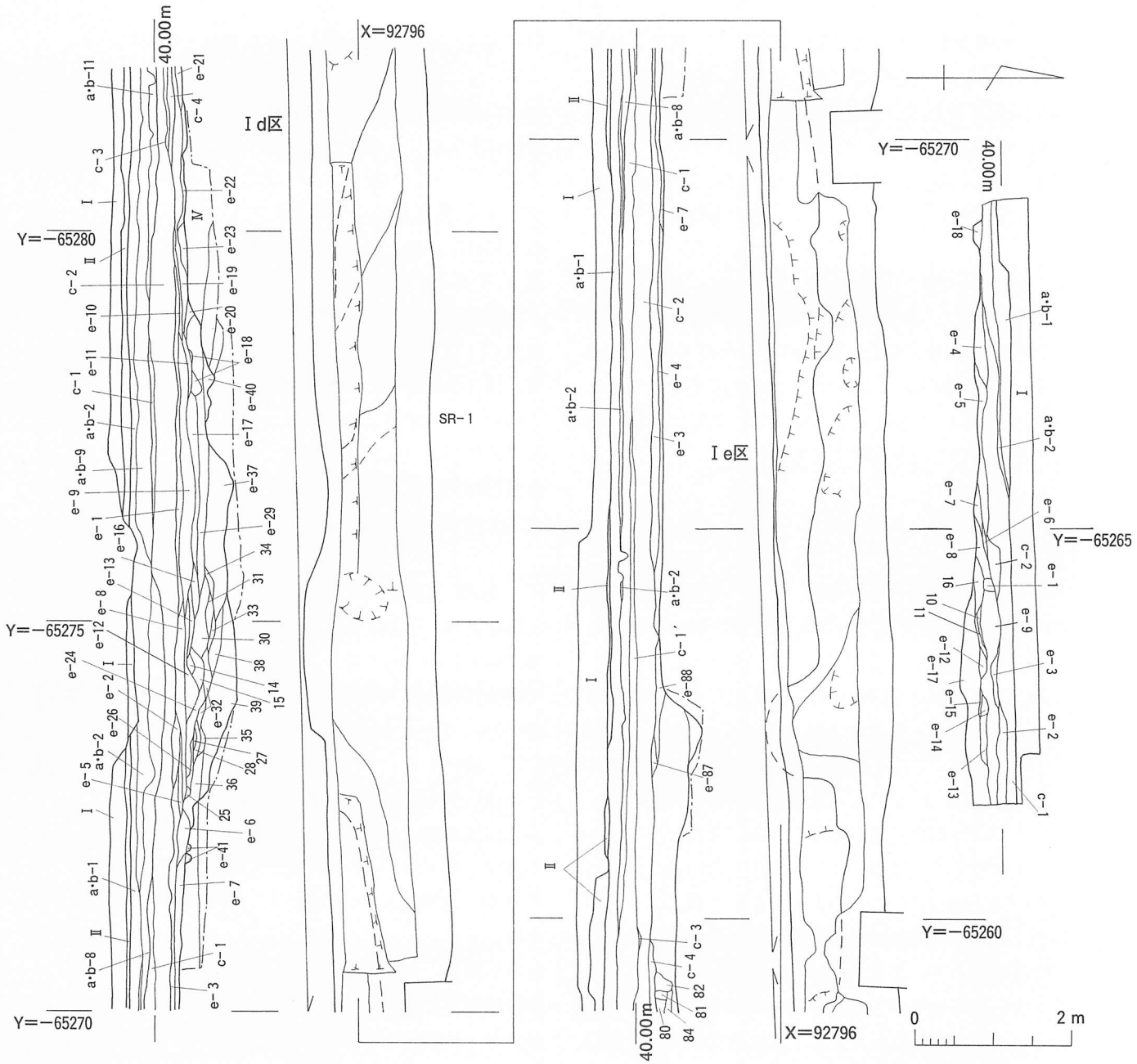


図37　Ⅰ区実測図(3)（縮尺1/80）（土層名「e-」一部省略）

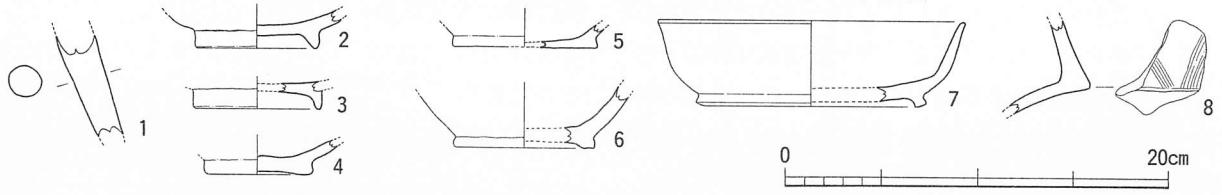


図38　Ⅰd区出土遺物実測図（縮尺1/4）

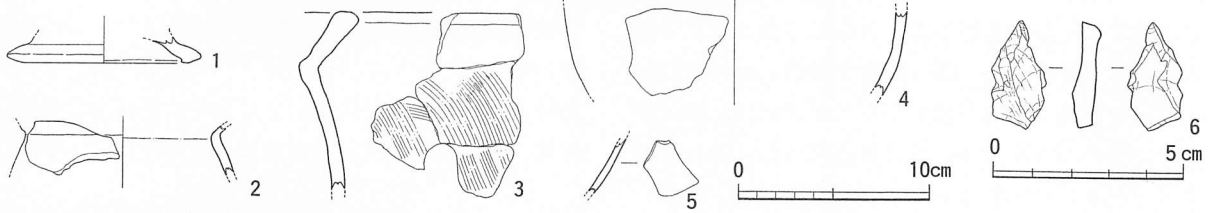


図39　Ⅰe区出土遺物実測図（縮尺1/4、1/2）

図37　土層注記

Ⅰd区南壁土層

a･b－１　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。a･b－２層より３㎜の砂礫が多く混在。砂質は強い。
a･b－２　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂。やや角ばった礫を多く含む。a･b－９層よりやや灰色味を帯びる。
a･b－８　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。
a･b－９　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。やや灰色味を帯びる。下部ほど礫は少なくなる。
a･b－11　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。
c－１　灰黄褐色（10YR4/2）粘質土。やや砂質が強い。
c－２　灰黄褐色（10YR4/2）粘質土。やや砂質が強い。
やや砂っぽく礫の量がかなり少なくなる。
c－３　灰黄褐色（10YR4/2）砂質土。やや粘性のあるc層にはさまれた砂質土。
c－４　灰黄褐色（10YR4/2）粘質土。やや砂質が強い。
e－１　灰黄褐色（10YR6/2）砂質土。0.5㎜の礫。c層を斑らに含む。しまりは弱い。
e－２　灰黄褐色（10YR5/2）砂礫。d層ブロックを多く含み、粘性は強い。
e－３　灰黄褐色（10YR5/2）砂質土。１㎝までの砂礫を少し含む。
e－５　褐灰色（10YR5/1）砂。0.5㎜までの礫。
e－６　灰黄褐色（10YR5/2）砂質土。１㎝までの砂礫を少し含み、e－３層に比べてd層を少し含み、粘性あり。
e－７　にぶい黄褐色（10YR4/3）粘質土。１㎝までの砂礫を多く含み、Ⅳ層の小ブロックを混じえ、しまりあり。
e－８　灰黄褐色（10YR5/2）砂礫。２㎝前後の礫を含み、ややしまりあり。
e－９　黒褐色（10YR3/1）シルト。d層。１㎜までの砂粒。Ⅳ層小ブロックを混じえ、粘性は強い。ラミナ状に砂層が入る。
e－10　にぶい黄橙色（10YR6/3）砂層。鉄分を含む。
e－11　褐灰色（10YR4/1）砂質土。e－１層の粘質土をラミナ状に含む。
e－12　黒褐色（10YR2/2）シルト。d層。
e－13　にぶい黄褐色（10YR5/3）砂。
e－14　記載なし。
e－15　黒褐色（10YR2/2）シルト。d層。
e－16　にぶい黄褐色（10YR5/4）砂。２㎜の礫を含む。
e－17　灰黄褐色(10YR5/2)砂。砂粒は１㎜でしまりは弱い。
e－18　黄褐色（10YR5/8）シルト。砂礫が混じる。３㎜までの礫を含む。
e－19　灰黄褐色（10YR5/2）砂礫。
e－20　にぶい黄褐色砂。砂粒は１㎜までででやや粗い。
e－21　記載なし。
e－22　明黄褐色（10YR6/8）砂質土。ラミナ状に堆積。ややしまりあり。Ⅳ層ブロックが少し混在。
e－23　にぶい黄褐色（10YR5/3）砂礫。
e－24　黒褐色（10YR3/2）シルト。d層。砂礫がやや混じる。
e－25　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。d層の混じり多く、粘性は強い。
e－26　灰黄褐色(10YR4/2)砂礫。５㎜までの砂礫を多く含み、かつd層を含み、粘性あり。
e－27　にぶい黄褐色（10YR5/3）砂。
e－28　暗褐色（10YR3/3）砂質土。d層。砂粒がラミナ状に混じる。
e－29　灰黄褐色（10YR4/2）砂礫。拳大の礫を含み、粘性の強いやや薄い色のd層がラミナ状に混じる。
e－30　黒褐色（10YR3/2）シルト。d層。１㎝までの砂礫を少し含む。
e－31　灰黄褐色（10YR4/2）砂質土。砂粒は１㎜で、d層をラミナ状に含む。
e－32　褐灰色（10YR4/1）シルト。砂粒・砂礫を少し含む。
褐色（10YR4/6）砂。しまりあり。
e－33　黒褐色(10YR3/2)シルト。d層。砂層をラミナ状に含む。
e－34　灰黄褐色（10YR5/2）砂礫。
e－35　灰黄褐色（10YR4/2）砂礫。２㎝までの砂礫を含む。
e－36　記載なし。
e－37　褐色（10YR4/6）砂礫。拳大の礫を混じえるが、e-29層に比べ、d層・Ⅳ層が５㎝のブロック状に混じる。
e－38　にぶい黄褐色(10YR5/3)砂礫。５㎝までの砂礫を含む。
e－39　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂礫。拳大までの礫を含み、２㎜前後の礫が多い。d層を斑状に含み、しまり弱い。
e－40　灰黄褐色（10YR4/2）砂質土。粘性のあるd層をラミナ状に含む。
e－41　にぶい黄褐色（10YR4/3）粘質土。

Ⅰe区南壁土層

Ⅱ　　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。礫を多く含む。
a･b－１　にぶい黄褐色（10R4/3）砂質土。３～５㎜の礫を多く含む。
a･b－２　黄褐色（10YR5/6）砂質土。a･b－１層と同様に砂礫を含む。砂質は強い。褐色味を帯びる。
a･b－８　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。
c－１　灰黄褐色（10YR4/2）粘質土。やや砂質が強い。
c－１′　c－１層とほとんど同様。やや砂っぽく、礫を極少量含む。
c－２　灰黄褐色（10YR4/2）粘質土。
c－３　にぶい黄褐色（2.5Y5/4）砂質土。c－１′層とc－２層に比べ、しまりがなく、粘性はほとんどない。ブロック状に入る。
c－４　黒褐色（10YR3/2）粘質土。c－２層に比べ、礫をやや多く含む。
黒褐色（10YR2/2）粘質土。礫はほとんど含まず、しまりあり。わずかに鉄分が沈着。
e－３　灰黄褐色（10YR4/2）砂質土。流路内の砂層。５～10㎜の礫を含むが、きめ細かい。
e－４　灰黄褐色（10YR4/2）砂質土。やや褐色味を帯びる。２㎝の円礫をまばらに含む。サクサクしている。
e－７　灰黄褐色（10YR5/2）砂質土。１㎝までの砂礫を少し含む。
e－80　黒褐色（10YR3/2）粘質土。３㎜までの礫をわずかに含む。
e－81　暗褐色（7.5YR3/3）粘質土。Ⅳ層がわずかに混入。粘性が強い。
e－82　Ⅳ層のブロック。
e－84　にぶい黄褐色（10YR5/3）砂質土。粘質土をラミナ状に含む。
e－85　灰黄褐色（10YR5/2）砂質土。非常に砂粒は細かく、粘質土との互層とも思われる。
e－87　砂礫層。３～５㎝の礫を多く含む。砂が細かい。
e－88　褐色（10YR4/4）粘質土。砂質がやや強い。
e－89　にぶい黄褐色（10YR5/4）砂礫。中部に５～10cm程の礫と下部に20cm程の礫を多く含む。

Ⅰe区北壁土層

a･b－１　灰黄褐色（10YR4/2）砂質土。礫を含まない砂層。
a･b－２　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。褐色（10YR4/4）砂質土の１㎝のレンズ状ブロックを少し含む。
にぶい黄褐色の砂を多く含む。
c－１　黒褐色（10YR2/2）粘質土。礫は含まない。
c－２　にぶい黄褐色（10YR4/3）粘質土。やや褐色が強い。
e－１　黄褐色（10YR5/6）砂質土のブロック。
e－２　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。やや粘性あり。
e－３　灰黄褐色（10YR4/2）砂質土。礫を含まない砂層。
e－４　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。
e－５　灰黄褐色（10YR4/2）砂質土。礫をほとんど含まない。
e－６　灰黄褐色（10YR4/2）砂質土。やや粗く礫を多く含む。
e－７　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。５㎜の礫をやや多く含む。
e－８　黄褐色（10YR5/6）砂質土とにぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土が混じりあう。
e－９　黒褐色（10YR3/2）粘質土。にぶい黄褐色（10YR4/3）の２～３㎝のレンズ状ブロックを多く含む。
e－10　にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土。１㎝の礫を多く含む。
e－11　にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土。礫をほとんど含まない。
e－12　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。５㎜の礫をやや多く含む。
e－13　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。
e－14　褐色（10YR4/4）粘質土。礫をほとんど含まない。
e－15　にぶい黄褐色(10YR4/3)砂質土。礫をほとんど含まない。
e－16　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。５㎜の礫をやや多く含む。
e－17　砂礫層。３～15㎝の礫を多く含む。
e－18　a･b－２層とほとんど同様。下部はやや灰色味を帯びる。

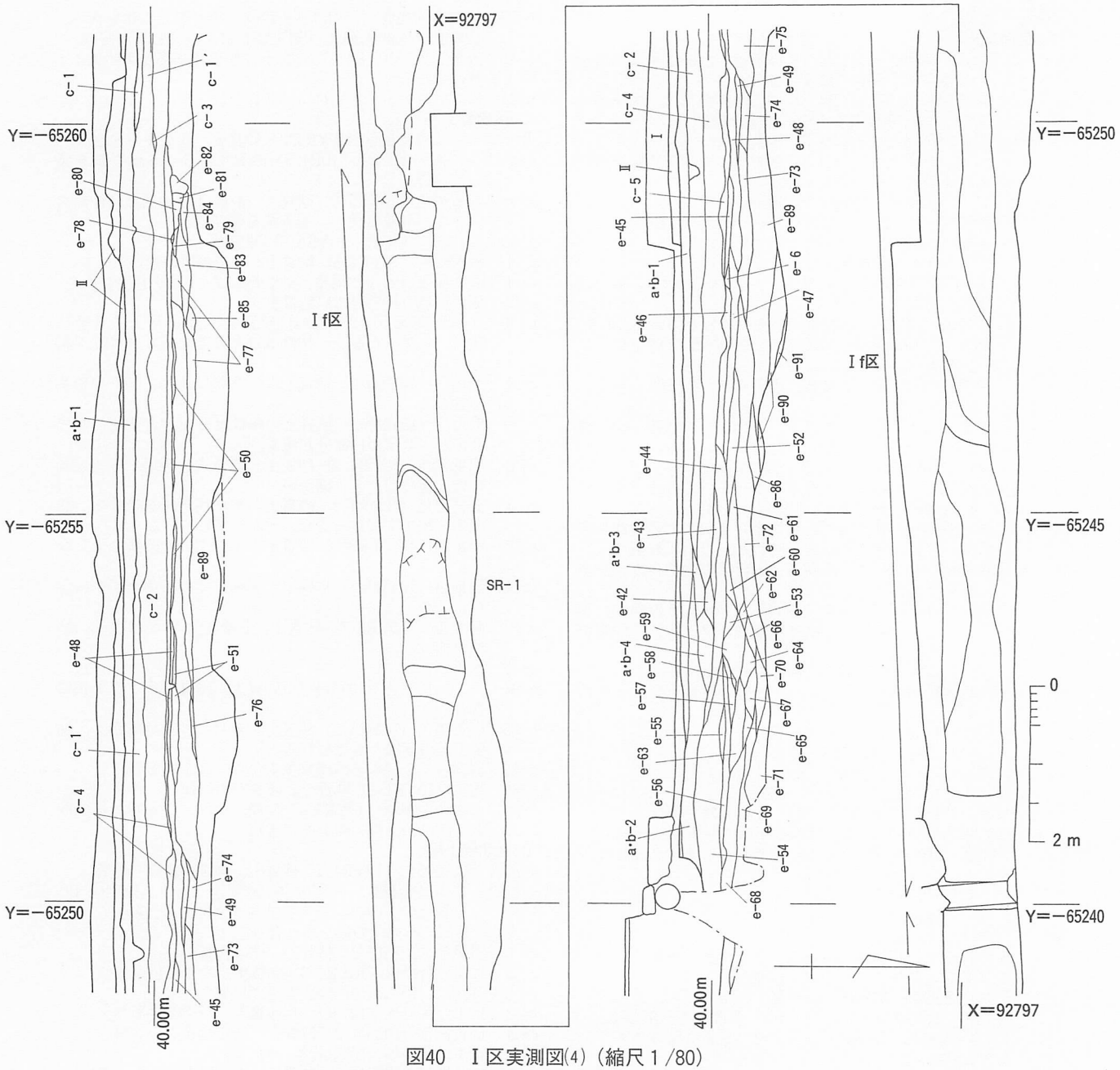


図40　Ⅰ区実測図(4)（縮尺１/80）

(5)　**Ⅰe区**（図37、図版９-3）

Ⅰe区は、上端で幅1.5m前後、深さがあるため下端では0.7～1.0m。長さは約10.5mで、既存枡で調査区幅を減じるものの、Ⅰf区とは連続する。Ⅰe区でも、底面に起伏があるものの、SR-１が全面に及ぶ。

①　**SR-１**

Ⅰd区の東端で深さを減じたSR-１は、そのままⅠe区に連なり、Ⅰe区では、幅の狭い調査区内ながら、その間で、中央部に落方のラインが縦走し、北半が深みを形成するといった格好となる。南側の高所は、標高39.6m程で、北側の深みは39.0～39.2mで推移する。それが、南壁でY＝－65263あたり以東は、再び調査区全域が標高39.0m付近にまで深くなる。

Ⅰe区SR-１出土遺物の内、図示できたのは６点（図39、図版27-2）。１はc層上面からの出土。須恵器壺の脚部で、端部は面をなす。７世紀以降。２～４はe層中の溜まり土層（北壁e-９層）出土で、d層出土として取り上げたものである。２・３は土師器甕。３は頸部で「く」の字状に屈曲し、胴部外面には粗い縦方向のハケメが施される。４は須恵器壺の胴部片。e層からは５の磁器碗の体部片が１点出土している。６はc層上面出土の剥片石器。

図40　土層注記

a･b-１　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。３～５㎜の礫を多く含む。
a･b-２　にぶい黄橙色（10YR6/3）砂。砂粒は１㎜まででしまりは弱い。
a･b-３　灰黄褐色（10YR4/2）砂礫。１㎝までの礫を含む。
a･b-４　にぶい黄褐色（10YR5/3）砂質土。１㎜前後の粗砂にシルト質がブロック状に混じる。
c-１　灰黄褐色（10YR4/2）粘質土。やや砂質が強い。
c-１′　c-１層とほとんど同様。やや砂っぽく、礫を極少量含む。
c-２　灰黄褐色（10YR4/2）粘質土。
c-３　黄褐色（2.5Y5/4）砂質土。c-１′層とc-２層に比べ、しまりがなく、粘性はほとんどない。ブロック状に入る。
c-４　黒褐色（10YR3/2）粘質土。c-２層に比べ、礫をやや多く含む。
黒褐色（10YR2/2）粘質土。礫はほとんど含まず、しまりあり。わずかに鉄分の沈着。
e-42　にぶい黄褐色（10YR4/3）シルト。
e-43　褐灰色（10YR5/1）砂質土。細かい砂粒にシルトをラミナ状に含む。
e-44　灰黄褐色（10YR5/2）砂質土。１㎜までの砂粒を多く含み、ラミナ状に鉄分の沈着あり。
e-45　褐灰色（10YR5/1）砂。砂質は0.1㎜前後で均質。灰黄褐色（10YR5/2）砂礫のブロックを含む。
e-46　褐灰色（10YR5/1）シルト質土。砂質土中にシルト質がブロック状に混在。
e-47　褐灰色（10YR5/1）砂質土。細かい砂質土に２㎜前後の砂粒がブロック状に混在。
e-48　灰黄褐色（10YR5/2）砂礫。１㎜前後の粗砂に５㎜前後の礫を含む。しまりが弱い。
e-49　褐灰色（10YR4/1）粘質土。礫はほとんど含まない。e-74層との境界に鉄分沈着あり。
e-50　にぶい黄褐色（10YR4/3）粘質土。c-４層とe-75層の互層。一部に砂質土が混じる。
e-51　にぶい黄橙色（10YR6/4）砂質土。砂粒は粗く、礫をわずかに含む。
e-52　褐灰色（10YR5/1）砂質土。２㎜の礫を含み、鉄分の沈着あり。
e-53　灰黄褐色（10YR6/2）砂礫。褐灰色シルトをラミナ状に含む。
e-54　黒褐色（10YR2/2）シルト。１㎜の粗砂を少し含むが、しまりが強い。
e-55　灰黄褐色（10YR5/2）砂質土。シルト質が少し混じる。
e-56　にぶい黄橙色（10YR6/3）砂質土。１㎜の粗砂がシルトをラミナ状に含む。
e-57　褐灰色（10YR4/1）砂質土。２㎜の礫を含むが、シルト質が強い。
e-58　灰黄褐色（10YR6/2）砂礫。１～５㎜の砂礫でしまりが弱い。
e-59　褐灰色（10YR5/1）シルト質土。シルトに１㎜前後の砂粒をラミナ状に含む。
e-60　褐灰色（10YR5/1）砂質土。シルトがブロック状に混じる。砂粒は0.1㎜以下と細かい。
e-61　灰黄褐色（10YR5/2）砂質土。砂粒は0.5㎜までで、しまり弱い。
e-62　灰黄褐色（10YR6/2）砂礫。
e-63　褐灰色（10YR5/1）砂質土。２㎜の礫を含み、シルトをラミナ状に含む。
e-64　灰黄褐色（10YR6/2）砂礫。１～５㎜の砂礫でしまりが弱い。
e-65　褐灰色（10YR5/1）砂質土。２㎜の砂粒を含み、シルトがブロック状に混じる。
e-66　褐灰色シルト質土。褐灰色シルトに１㎜前後の砂礫をラミナ状に含む。
e-67　褐灰色（10YR5/1）砂質土。２㎜の礫を含み、シルトをラミナ状に含む。
e-68　黒色（10YR2/1）シルト。d層。１㎜の砂礫やⅣ層小ブロックがわずかに混じる。
e-69　褐灰色(10YR5/1)砂。0.1㎜の細砂で均質。しまりあり。
e-70　褐灰色（10YR4/1）砂礫。５㎜の礫にシルトが混在。
e-71　にぶい黄褐色（10YR5/3）砂礫。拳大の礫を多く含む。
e-72　灰黄褐色（10YR5/2）砂礫。１㎜の粗砂に３㎝前後の礫が多く混じる。
e-73　褐灰色（10YR4/1）砂礫。d層の黒褐色シルトや拳大の礫をブロック状に含む。砂粒は細かい。
e-74　記載なし。
e-75　褐灰色（10YR4/1）粘質土。粘性は弱い。５㎜前後の礫をまばらに含む。
e-76　にぶい黄褐色（10YR4/3）粘質土。しまりあり。部分的にe-89層の砂質土と互層。
e-77　灰黄褐色（10YR4/2）砂質土。砂粒は非常に細かく、礫は含まない。しまりが弱い。
e-78　にぶい黄褐色（10YR5/4）砂質土。しまり弱く、礫は含まない。
e-79　にぶい黄褐色（10YR4/3）粘質土。砂質土がラミナ状になっている。
e-80　黒褐色（10YR3/2）粘質土。３㎜までの砂礫をわずかに含む。
e-81　暗褐色（7.5YR3/3）粘質土。Ⅳ層がわずかに混入。粘性が強い。
e-82　Ⅳ層のブロック。
e-83　にぶい黄色（2.5Y6/3）砂質土。砂粒の細かいものと２㎜程の粗い粒がラミナ状になる。
e-84　にぶい黄褐色（10YR5/3）砂質土。粘質土をラミナ状に含む。
e-85　灰黄褐色（10YR5/2）砂質土。非常に砂粒は細かく、粘質土との互層。
e-86　暗褐色(10YR3/3)砂礫。５～10㎜前後の礫を多く含み、鉄分の沈着あり。
e-89　にぶい黄褐色（10YR5/4）砂礫。下部に20㎝程の石を含む。中部に５～10㎝程の礫を多く含む。
e-90　褐灰色（10YR6/1）砂質土。均質で細かい砂粒中にd層あるいは５㎜の礫がラミナ状に入る。
e-91　にぶい黄橙色（10YR7/3）砂。0.5㎜の礫を多く含む。

(6)　Ⅰf区（図40、図版10）

Ⅰf区は、上端で幅1.5m前後、深さがあるため下端では0.5～0.7mとなる。長さは約19.4m。Ⅰg区とは三叉路下の既設管路で、明確に区分される。SR-１が全面に及ぶのもⅠf区までである。

①　SR-１

Ⅰe区で再び深い流路内に転じ、Ⅰf区においてもそのまま推移する。底面に凹凸があるものの、そのレベルは、39.０～39.４mと深く、最下層のe層が場所によっては厚さ80㎝を越えて堆積する。SR-１の東端は、ちょうどⅠg区との境と攪乱により明確でないが、Ⅰf区までは確実にSR-１内で、おそらくⅠg区の西端がSR-１の東端あるいは北端である。

Ⅰf区SR-１出土遺物の内、図示できたのは42点（図41、図版27-3～6）。c層では１の丸瓦が１点のみ。凹面に布目がわずかに残る。

残る２～42はe層出土。２～８は弥生土器。２は壺頸部で、口頸部の境の稜は不明瞭。前期末と考えられる。３は、大きくラッパ状に開く壺口縁部で、端部は上下に拡張され、凹線文が３条施される。中期後葉。４は甕の口頸部。頸部に刻目突帯が１条貼り付けられる。口縁端部の拡張は弱く凹線文が施されない。中期

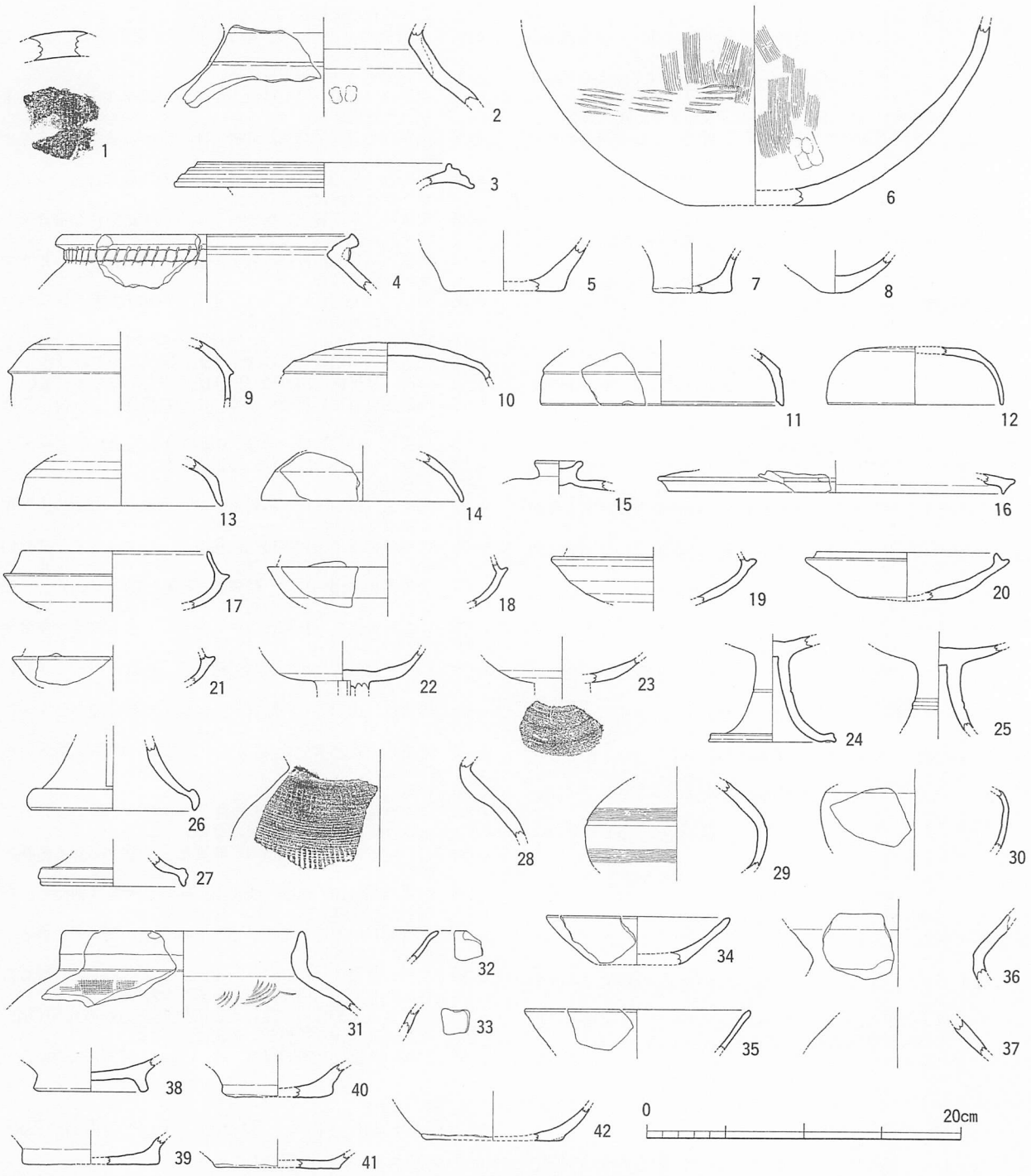


図41　Ⅰf区出土遺物実測図（縮尺１／４）

後葉もしくは若干それに先行する時期。５～８は底部。６は底径の小さい不安定な平底で、外面は横方向のタタキ後、粗い縦方向のハケメ。８はやや尖底気味。

９～30は須恵器。９～16は坏蓋。９は稜が鋭く５世紀後葉。10・11は６世紀前葉。12～14は丸みをもった天井となり、６世紀中葉から後葉。15は扁平なつまみ部。16は口縁内側にかえりがつく。17～21は須恵器の坏。17は６世紀前葉。20の立ち上がりは短く断面三角形状。７世紀初頭。22～27は高坏である。22は長脚２段透かしの坏底部。23は坏部外面に粘土の切り込み痕が見られる。24は透かしが施されず、脚中位に凹線文が１条、脚端面に１条施される。25も透かしが施されず、脚中位に凹線文が２条。７世紀代。26・27は脚裾部で、ともに端部が下方へ拡張される。26は５世紀後

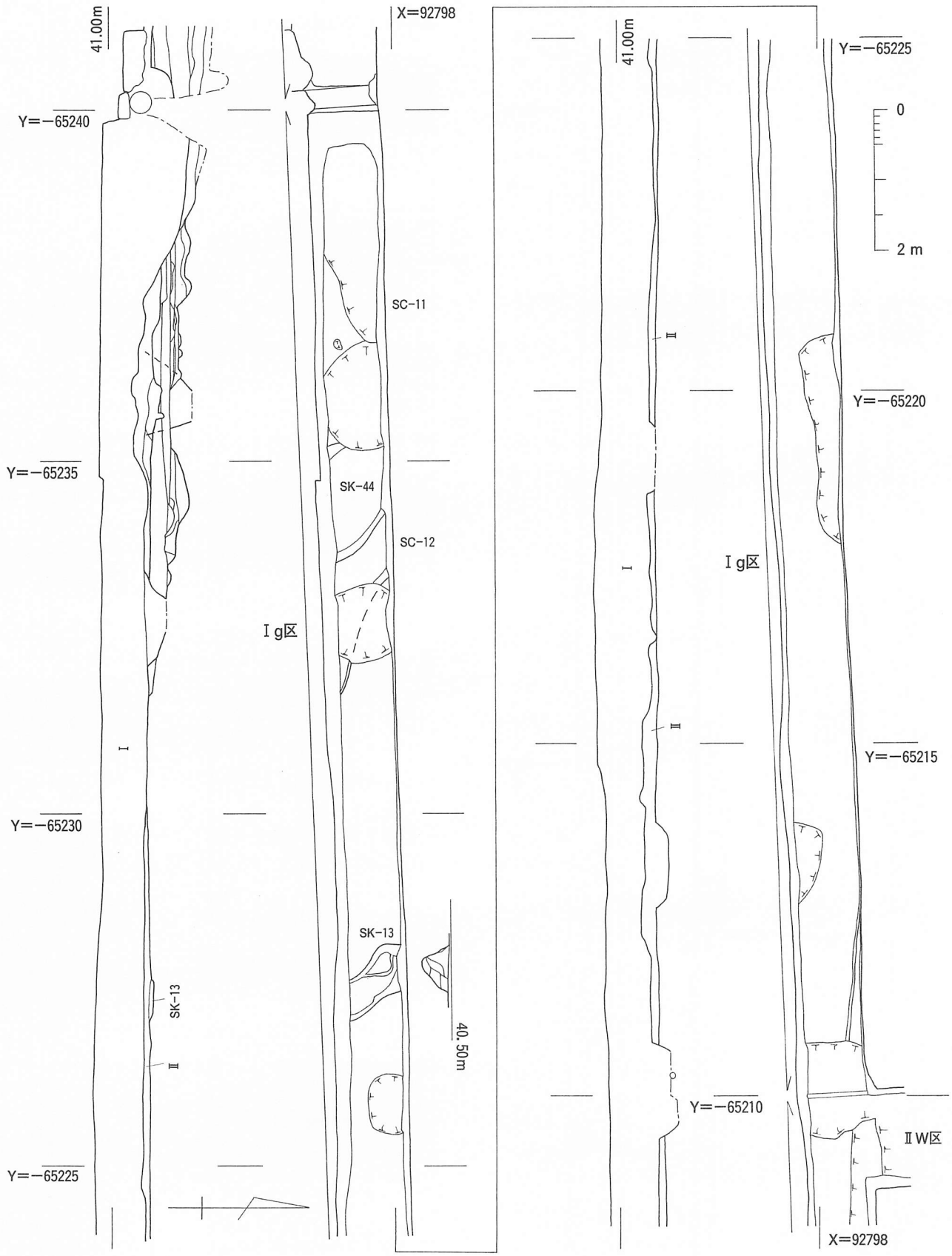


図42　Ⅰ区実測図(5)（縮尺１/80）

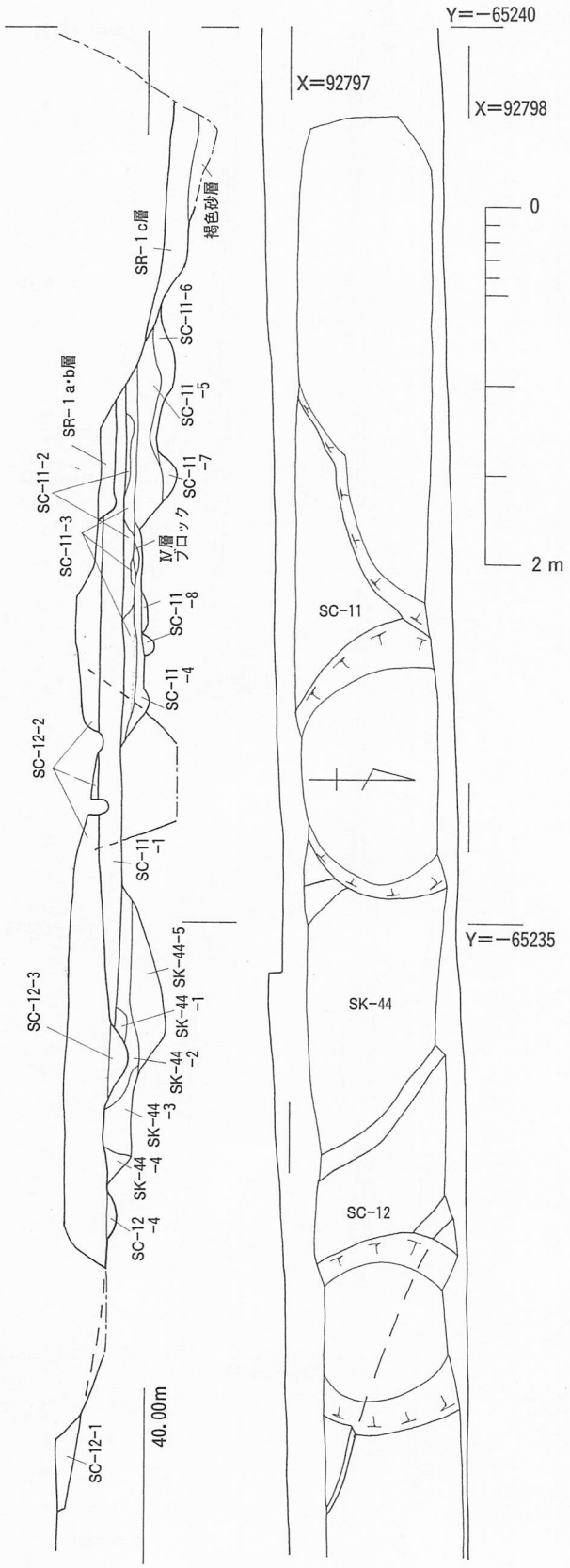


図43　SC−11・SC−12・SK−44実測図（縮尺１/40）

SC−11

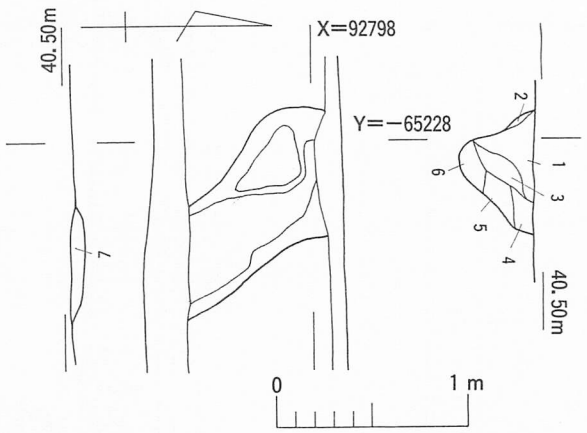
1　黒褐色（10YR3/2）砂質土。下部にⅣ層ブロックが点在。しまりあり。
2　黒色（10YR2/1）シルト。暗褐色（10YR3/3）シルトやⅣ層ブロックが少し混じる。
3　黒褐色（10YR3/2）砂質土。１㎝のⅣ層小ブロックが多く、黒色シルトが少し混じる。しまりあり。床造成土。
4　暗褐色（10YR3/3）シルト。Ⅳ層ブロックを混在。しまりあり。
5　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。Ⅳ層ブロックを多数混在。
6　褐灰色（10YR4/1）シルト。
7　褐灰色（10YR4/1）砂質土。
8　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。Ⅳ層が多く混在。

SC−12

1　黒褐色（10YR3/2）シルト。Ⅳ層の５㎜ブロックを多く含む。しまりあり。
2　黒褐色（10YR3/2）砂質土。１㎜前後の砂粒を含む。部分的にⅣ層の小ブロックや５㎜の礫が混入。しまりあり。
3　Ⅳ層が混じる。黒褐色（10YR3/2）砂質土。２㎜のⅣ層ブロックがレンズ状に混じる。
4　明黄褐色（10YR7/6）シルト。黒色（10YR2/1）シルトが混じる。

SK−44

1　暗褐色（10YR3/3）砂質土。わずかにⅣ層がブロック状に流れ込む。
2　明黄褐色（10YR7/6）シルト。黒褐色（10YR3/2）シルトが混じる。Ⅳ層シルトを主に黒色(10YR2/1)シルトが混在。
3　Ⅳ層ブロック。
4　黒褐色（10YR3/2）シルト。にぶい黄褐色（10YR4/3）シルトが混じり、粘性が強い。
5　黒褐色（10YR3/2）砂質土。Ⅳ層をブロック状に混在。粘性が強い。



SK−13

1　黒色（10YR2/1）粘質土。礫をほとんど含まず、黒味が強い。
2　黒褐色（10YR3/2）粘質土。褐色（10YR4/4）シルトの５㎜の円形ブロックを少し含む。
3　黒褐色（10YR3/2）粘質土。２層よりやや黒味が薄い。
4　にぶい黄褐色（10YR4/3）粘質土。にぶい黄橙色（10YR6/4）粘質土の５㎜の円形ブロックをかなり多く含む。ややパサパサした感がある。
5　黒褐色（10YR3/2）粘質土。にぶい黄褐色（10YR4/3）粘質土をかなり多く含み、にぶい黄橙色（10YR6/4）粘質土の５㎜ブロックを極少量含む。
6　にぶい黄褐色（10YR4/3）粘質土。礫を含まず、茶色味が強い。
7　にぶい黄褐色（10YR4/3）粘質土。にぶい橙褐色（10YR6/4）粘質土の３㎜の円形ブロックを下部に少し含む。礫をほとんど含まない。

図44　SK−13実測図（縮尺１/40）

葉。27は６世紀前葉。28は須恵器の壺肩部で、外面タタキの後、横方向のカキメ調整。29・30は甕の胴部片。29は胴部最大径付近に浅く幅広の沈線文が１条施され、カキメ調整の施文帯２条。30は無文。ともに６世紀中葉から後葉。

31は須恵質の壺口縁部。口縁部は短く直立し、胴部は大きく張る。外面には格子目タタキ。胎土は白色で精良。８世紀以降。32・33は緑釉陶器の椀で、32は口縁部がわずかに端反りする。34・35は土師器の坏口縁部。36・37は甕ないし壺の頸部。38は椀底部で、断面台形状のしっかりした高台がつく。39～42は坏底部。

(7)　**Ⅰg区**（図42、図版11-1）

Ⅰg区は、樽味団地南通用門からの道路との三叉路から、樽味団地南北主要道路との三叉路、ⅡW区の分岐までの約30m、幅は約１mである。Ⅰg区からはSR-１が認められず、標高40.5m前後で、Ⅳ層がⅠ層直下あるいは薄いⅡ層の下で検出される。Ⅰg区で検出できた遺構は、西端で重複するSC-11・SC-12・SK-44と、その東のSK-13である。

①　**SC-11・SC-12・SK-44**（図43、図版11-2）

Ⅰg区の西端、三叉路下の管路による攪乱で西端を切られているが、黒褐色のやや粘性の高いⅢ層の落ち込む遺構を確認した。なお、西側のSR-１埋土のa・b層がこの遺構埋土を切り、SR-１が一部Y＝－65237辺りまで及んでいたことが窺える。遺構は、Ⅱ層からの野壺と思われる攪乱などもあって、調査時は一括で掘り下げ、その後断面の観察によって、３次の遺構の重なりと判断した。

最上層がSC-12。西側をSR-１で切られるが、南壁でY＝－65237.2から埋土を確認でき、底面は標高40.25m前後で推移する。東はY＝－65232辺りで平面的な落ち込みラインの検出がなされ、攪乱で不分明な部分も多いが、東南東－西北西方向に落ち込みラインが復元できよう。

SC-12の下には、標高40.15m付近を境に、埋土と造成土の差がほぼ水平に広がるSC-11が確認できる。そのうち、Y＝－65236以西は、床面下に先行する掘り込み埋土が重なり、別遺構の可能性も考えられるが、SC-11掘削・造成に伴うとした。

SC-11の東側下層にも、同様に別の埋没単位が存在するが、こちらは、上層のSC-11埋土が少し浅くなり、掘り込みの範囲がSC-11を越えそうなことから、先行する別遺構と判断して、SK-44とした。主軸を南東－北西に傾ける、幅１m強の土壙である。

以上の遺構からは、若干の遺物が出土しているが、いずれも細片ばかりで図示できなかった。ただし、明らかな混在以外に、古墳時代の須恵器坏と中世土師器が認められる。

②　**SK-13**（図44、図版11-3）

SK-13は、Y＝－65227.5付近に存在する溝状の土壙。幅約50cmで、南東－北西に斜行し、北側がV字状に深くなっているが、南壁際では10cm以下と浅くなっており、土壙と判断した。埋土は黒味が強く、粘性が高い。外面黒色の燻し瓦細片１点が出土したのみ。

(8)　**Ⅰh区**（図45、図版11-4･5）

Ⅰh区は、ⅡW区の分岐からⅢ区北側の既設管路に及ぶ長さ18.6m、幅約１mである。

Ⅱ層の耕作に伴う溝状の攪乱が多いが、西部では標高40.5m辺りで安定したⅣ層の上面が検出できる。ところが、東半では粘質土の溜まり状堆積が確認でき、調査段階にはSR-２としたが、SX-２として以下報告する。

①　**SX-２**（図45）

Y＝－65200付近の攪乱とY＝－65185付近の攪乱の間、約10mの間は、シルト質土の堆積が確認できる。両側の立ち上がりを確認できないが、上層にSR-１a・b層相当の砂質土層、下層にSR-１c層相当のシルト質土層があり、それぞれSX-２a・b層、SX-２c層とした。特にc層は、色調も濃く、土器細片を多く含んでいる。

SX-２c層出土の７点を図化した（図46）。いずれも土師器。１～６は坏底部で円盤状高台。７は平底で、胎土は精良。いずれも10世紀前後と考えられ、SR-１出土遺物と差がない。

(9)　**Ⅰi区**（図45、図版11-6）

Ⅰi区は、Ⅰh区との境の既設管路から、Ⅰ区東端までの長さ約10m、幅約１mである。この区間は、ほとんどが攪乱を受け、わずかに南壁際に攪乱が及ばず、Ⅳ層の上面を確認できる程度である。そのうち、Y＝－65179.5付近で、Ⅳ層上面の最高所として、標高41.２mに達することが確認できる。Ⅰi区出土遺物はない。

(10)　**Ⅰ区攪乱出土遺物**（図47）

Ⅰ区について、遺構・包含層に伴わない遺物として

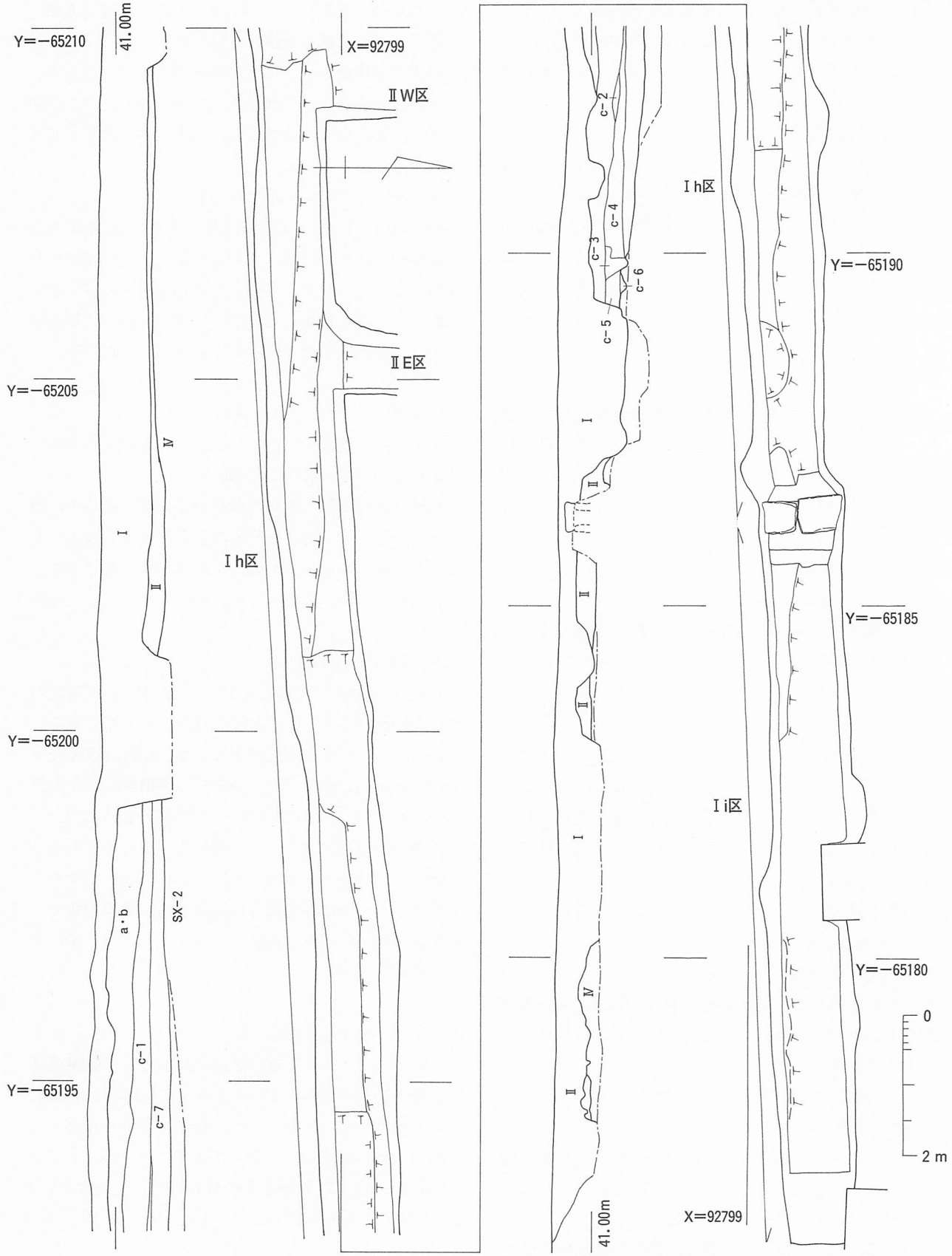


図45　Ⅰ区実測図(6)（縮尺１/80）

図45　土層注記

SR－２

a・b　褐灰色（10YR5/1）砂質土。１㎜までの粗砂を多く含み、所々に１㎝の礫を含む。やや粘性あり。
c－１　褐灰色（10YR4/1）シルト。0.5㎜までの粗砂をやや含み、しまりあり。遺物を少し含む。
c－２　褐灰色（10YR5/1）砂質土。部分的にやや砂質が強い。
c－３　灰黄褐色（10YR5/2）砂質土。１㎜前後の粗砂をラミナ状に含む。しまり弱い。
c－４　褐灰色（10YR5/1）シルト。c－１層に比べ、色調はやや明るく、粘性強い。
c－５　褐灰色（10YR5/1）シルト。
c－６　にぶい黄褐色（10YR4/3）砂質土。１㎜までの粗砂をやや多く含み、しまりは強い。
c－７　黒褐色（10YR3/2）シルト。粘性強く、Ⅳ層の１㎝ブロックをラミナ状に含む。

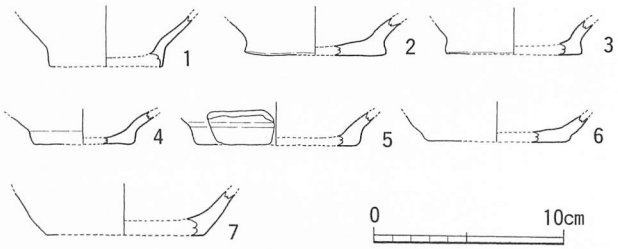


図46　Ⅰh区出土遺物実測図（縮尺１／４）

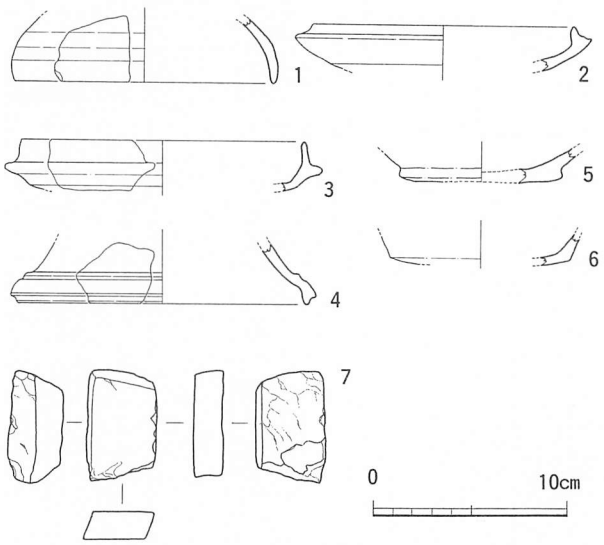


図47　Ⅰ区攪乱出土遺物実測図（縮尺１／４）

７点を図化した。１～４はⅠb区出土。１は須恵器坏蓋で、口縁部から体部に向かって緩やかに内湾する。６世紀後葉。２・３は須恵器坏。２は断面三角状の短い立ち上がりが内傾し、器高も浅くなる。６世紀末葉。３は直立するやや長めの立ち上がりで、６世紀中葉。４は須恵器高坏の脚部。脚端部は下方に伸び、端面と裾部に凹線文が１条施される。５世紀後葉。５・６はⅠf区出土の坏底部。５は円盤状高台で、６は屈曲して直線的に体部にいたる。７はⅠb区出土の砥石。全面を使用している。

⑾　小　結

東西170mにも及ぶⅠ区は、まさに樽味団地西部に対する東西方向の大トレンチという格好である。南北方向の大トレンチが後記するⅡ区にあたり、両者を総合して、樽味団地の地形環境の復元が図られることになる。これについては、まとめで詳論する。

東西方向に長いⅠ区では、Ⅰf区以西がほぼ全域SR－１の流路内、あるいはその縁辺にあたることが明らかとなった。地形的に東から西へと流れる流路であり、そのおよそ北岸付近に相当する。それが、Ⅰg区以東になると、SR－１が調査区の南側に外れ、調査区内は安定したⅣ層が検出されるようになる。そして、一部には遺構の存在も確認でき、SR－１のc層に類する溜まり状の堆積も部分的に認められた。ただし、総じてⅠg区以東はⅠ層・Ⅱ層による攪乱が激しく、Ⅲ層の堆積も認められず、遺構の残りは良くない。なお、南に外れたSR－１は、Ⅲ・Ⅳ区で再び検出されている。

SR－１の時期であるが、a・b層からc層、e層の、各層出土遺物に明確な時間差を見出せる状況にはない。少数のa・b層出土遺物は別にして、c層とe層とも、６世紀前後の時期の遺物を最も多く含む。そして、新相の遺物として、10～12世紀の円盤状高台と貼付高台の土師器坏・椀が共通し、12世紀には、SR－１が埋没しているように考えることもできる。しかし、一部には、13～14世紀に下る羽釜脚などもあり、狭い調査区の成果からは、正確な埋没時期の特定は難しい。

ⅱ　Ⅱ区の調査

Ⅱ区は、新営される遺伝子実験施設への電気・上水の管路敷設に伴う発掘区で、樽味団地の主要南北道路に位置する。そのうち、東側上水管路に伴う調査区をⅡE区、西側電気管路に伴う調査区をⅡW区とした。ⅡE区は幅0.7mで、ⅡW区よりさらに北に延び、連合農学研究科棟西側でクランク状に曲がり、総長は182

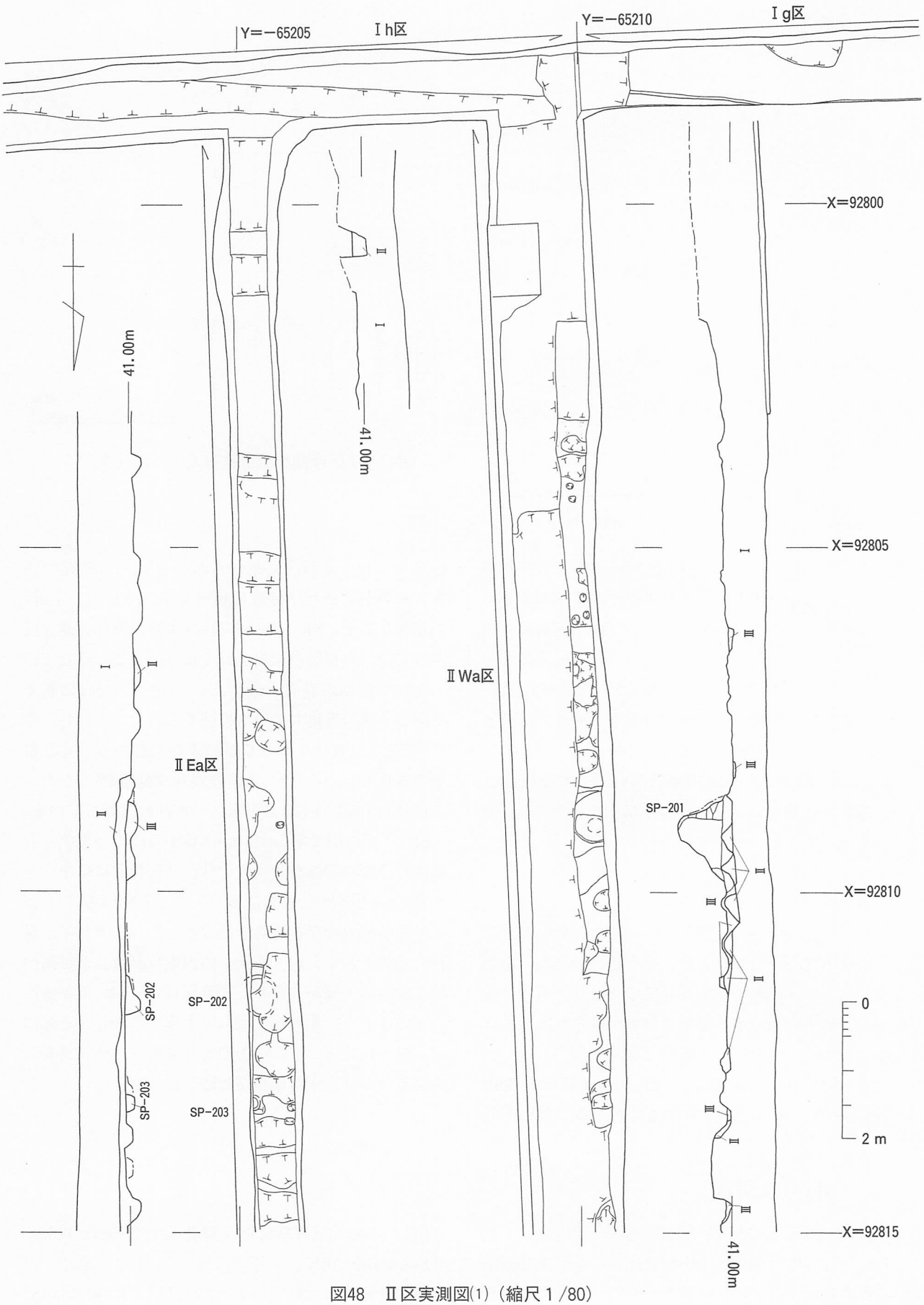


図48　Ⅱ区実測図(1)（縮尺１/80）

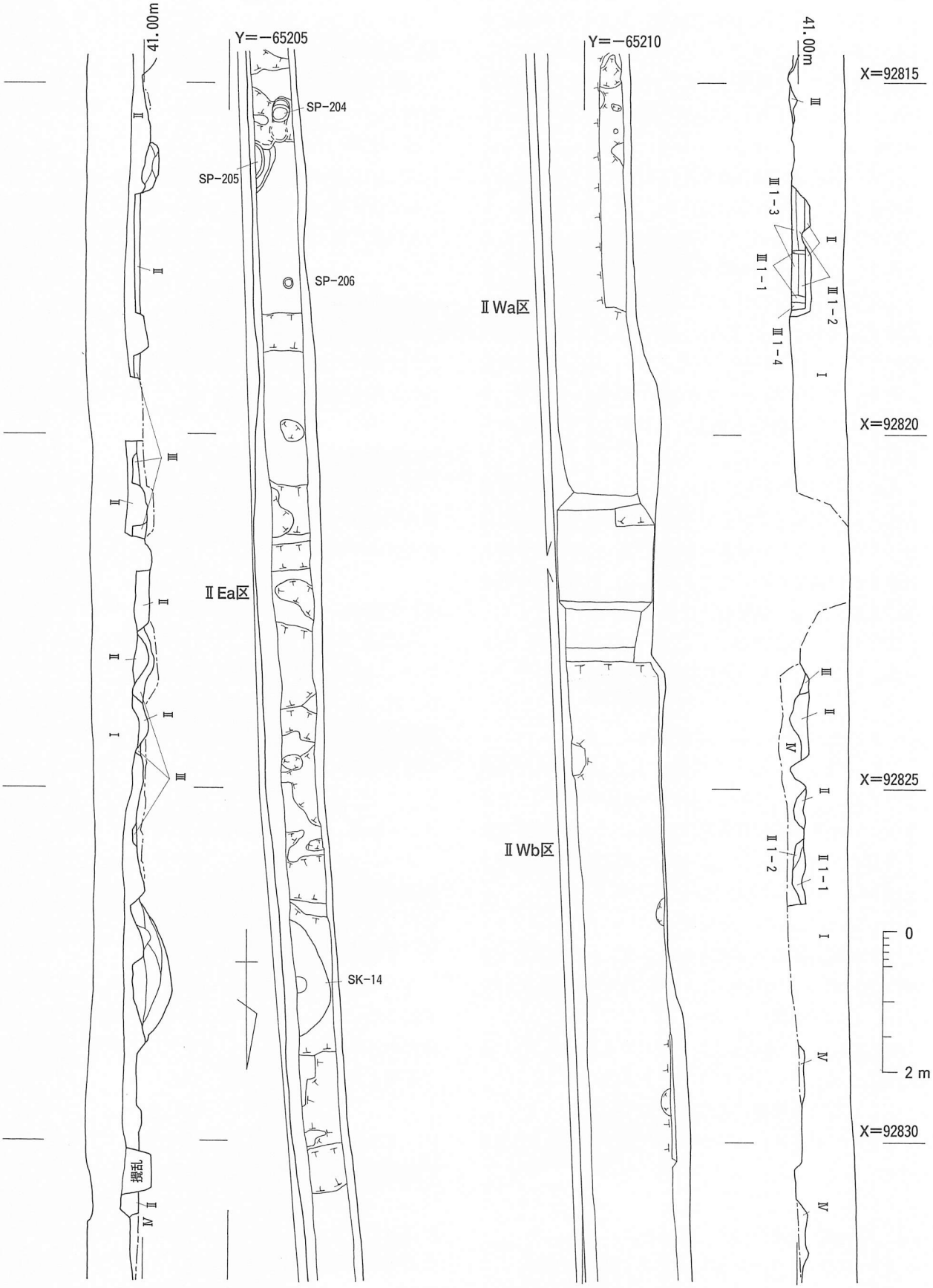


図49　Ⅱ区実測図(2)（縮尺１/80）

mにも及ぶ。ⅡW区は幅1.5mで、Ⅰ区との合流点から北に農学部本館北東角までの141mに及ぶ。なお、両区とも既設枡や既存管路で寸断され、そこで適宜分割し、ともに南から、ⅡEa区～ⅡEk区、ⅡWa区～ⅡWg区とした。

Ⅱ区の調査は、他の調査区の進行状況とその後の工事の進捗状況に左右されながら、そして何よりⅡ区の位置する南北道路が、樽味団地南北の主要道路であるために、通常生活に支障のないよう、断続的に行わなければならなかった。まず、ライシメーター西側交差点以南のⅡEa区と、ⅡWa～ⅡWd区をⅠ区の調査に続けて行った。その後、Ⅴ区・Ⅵ区、Ⅲ区の調査を終えた後、再びⅡWe区～ⅡWg区の調査にあたり、さらに途中Ⅳ区の調査を挟んで、最終的にⅡEb区からⅡEk区の調査を行った。

ⅡE区・ⅡW区とも、南部60mほどは耕作土や既設管路による攪乱を受け、わずかに遺構の一端が残るに過ぎない。対して中庭南半あたりは、良好な包含層と密集する遺構を認めることができた。ただし、中庭北半以北は、攪乱・削平が再び著しくなる。

Ⅱ区で検出した遺構は、土壙（SK）13基、溝（SD）9条、そして柱穴・小穴約500基に及ぶ。

(1) ⅡEa区（図48・49、図版12-1）

ⅡEa区は、Ⅰ区との分岐からライシメーター南側までの約34mの間である。Ⅰ層の攪乱に加えて、Ⅱ層の耕作に伴うと見られる起伏が激しく、わずかにⅢ層と遺構の一部が残るに過ぎない。ⅡEa区で確認できた遺構は、SK-14とSP-202～206である。

① SK-14（図51、図版12-3）

南北長軸約2m・東西短軸推定約1mのⅢ状の土壙で、埋土は黒味の強い粘質土である。出土遺物はない。

② 柱穴・小穴

SP-205は、長軸80cm前後の柱穴である（図50）。SP-205も含めて、いずれからも出土遺物はない。

③ Ⅲ層出土遺物（図52）

1点のみ図化することができた。10世紀代の須恵質の坏口縁部である。

(2) ⅡWa区（図48・49、図版12-2）

ⅡWa区は、Ⅰ区との分岐から北に約23mの間、ちょうど農学部実習室の東側にあたる。調査区内の東側は既設管路の埋設に伴って攪乱が及び、わずかに西側30～50cm内外の幅でⅣ層上面を確認したに留まる。しかも、Ⅳ層上面までほとんどⅠ層で、Ⅱ層やⅢ層、そして遺構は部分的にしか残らない。検出した遺構はSP-201のみ。

① 柱穴・小穴

SP-201は径80cm内外のしっかりした柱穴で、北側に柱を抜き取ったことが土層から窺える。埋土はいずれも黒味の強い粘質土（図53、図版12-4）。出土遺物はない。

② Ⅲ層出土遺物（図54）

Ⅲ層出土遺物から2点を図化した。1は土師器Ⅲで、底部はヘラ切り未調整。2は椀底部。やや高めの高台を貼り付ける。

(3) ⅡEb区（図55）

ライシメーター北西の道路交差点を横断する間で、長さ約9m。道路下の管路敷設に伴う攪乱が著しく、表土層以外確認できなかった。出土遺物もない。

(4) ⅡWb区（図49・55、図版12-6）

ⅡWb区は、ⅡWa区との間に既設枡を挟み、北に約16mの区間。既設管路による攪乱がⅡWa区よりさらに西に及び、ほとんど調査区そのものが管路掘方に相当する。西壁に残る土層によっても、包含層・遺構の残りはほとんどない。また、出土遺物もない。

(5) ⅡEc区（図55・56、図版12-5）

ⅡEb区から北へ約11m。この間も攪乱が激しく、表土層以外を確認できない。出土遺物もない。

(6) ⅡWc区（図55・56、図版12-7）

ⅡWb区から北へ約15m。ⅡWb区同様、調査区全体が管路敷設掘方にほぼ一致するような状況で、その電線管が露わになっている。わずかに、南端付近の西壁でⅡ層とⅣ層の堆積を確認できる。

(7) ⅡEd区（図56・57、図版13-1）

附属農業高等学校温室の西側、約21mの区間。南端はやはり攪乱で不明だが、X＝92858以北はⅣ層上面が確認できるようになる。Ⅳ層上面の検出レベルは、この南端で標高41.5m前後。ただし、Ⅱ層の残存も部分的で、ましてⅢ層はⅡEd区北端で辛うじて確認できる程度。遺構も、SP-670～672の小穴3基をⅣ層上

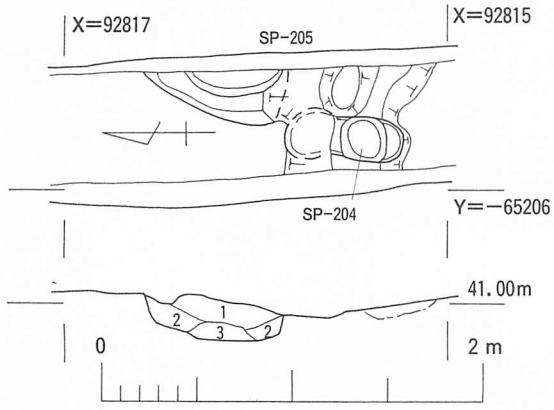
面で見い出したのみである。Ⅲ層・遺構に伴った遺物はない。

(8)　ⅡWd区（図56・57、図版13-2･3）

農業工学実験室東側の約22mの区間。南端は攪乱が深くまで及ぶが、X＝92857以北は、西壁際以外安定してⅣ層が認められた。ただし、Ⅲ層の堆積は認められず、Ⅰ層あるいはⅡ層直下のⅣ層上面で遺構を検出した。SD-22と柱穴・小穴75基である。

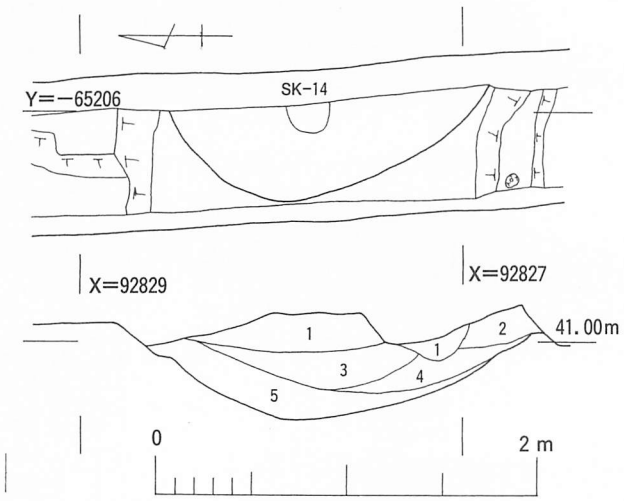
①　SD-22（図57）

調査区を東西に横断する溝であるが、北側を攪乱で切られ、幅50cm程が残るのみ。深さ約10cmで、埋土は



SP-205
1　灰黄褐色（10YR4/2）粘質土に黒褐色（10YR2/3）粘質土と褐色（10YR4/4）砂質土の５～６cmのレンズ状ブロックを多く含む。
2　褐色（10YR4/4）砂質土に黒褐色（10YR3/2）粘質土の２～３cmの楕円形のブロックを少し含む。
3　黒褐色（10YR3/2）粘質土。２～３㎜の礫を少し含む。

図50　SP-205実測図（縮尺１/40）



SK-14
1　黒色（10YR2/1）粘質土。しまりあり。灰を含んでいるような手触り。
2　黒色（10YR2/1）粘質土。褐色（10YR4/4）シルトの５㎜の円形ブロックを少し含む。
3　黒褐色（10YR3/2）粘質土。１層より粘性あり。また茶色味が強い。
4　黒褐色（10YR3/2）粘質土。しまりあり。
5　黒褐色（10YR2/3）粘質土。粘性あり。

図51　SK-14実測図（縮尺１/40）

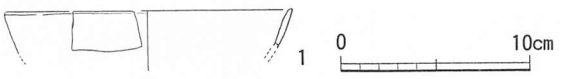
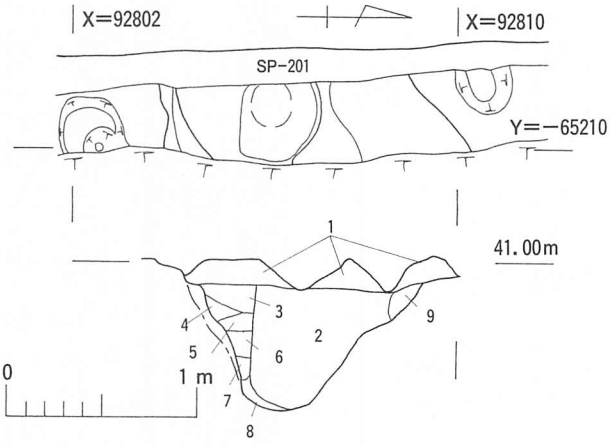


図52　ⅡEa区出土遺物実測図（縮尺１/４）



SP-201
1　黒褐色（10YR2/2）粘質土。しまりあり。
2　黒褐色（10YR2/2）粘質土。１層より粘性が強い。
3　暗褐色（10YR3/3）粘質土。褐色（10YR4/4）シルトの３㎜の粒状ブロックを少し含む。
4　褐色（10YR4/4）粘質土。褐色（10YR4/6）シルトの３㎜の粒状ブロックを少し含む。
5　黒褐色（10YR3/2）粘質土。やや灰色味を帯びる。しまりあり。
6　黒褐色（10YR2/2）粘質土。ややサクサクしている。
7　黒褐色（10YR3/2）粘質土。茶色味を帯びる。
8　黒褐色（10YR2/2）粘質土。明黄褐色（10YR6/6）砂質土の10cmの楕円形ブロックを多く含む。
9　黒褐色（10YR3/2）砂質土。黄褐色（10YR5/6）砂質土の５～10㎜の楕円形のブロックを多く含む。

図53　SP-201実測図（縮尺１/40）

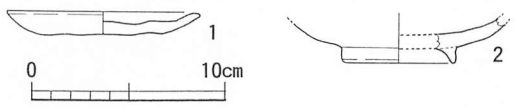


図54　ⅡWa区出土遺物実測図（縮尺１/４）

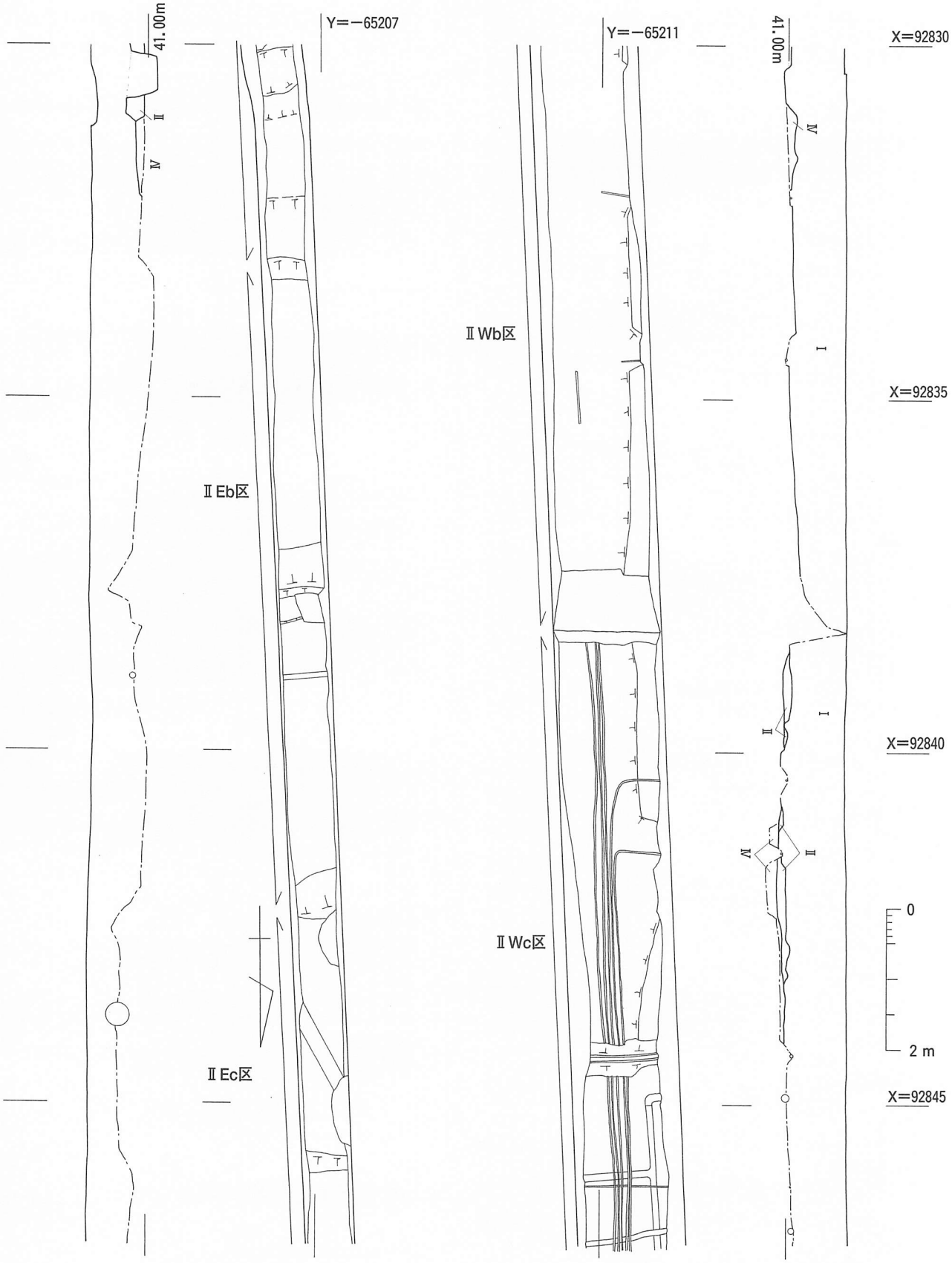


図55　Ⅱ区実測図(3)（縮尺１/80）

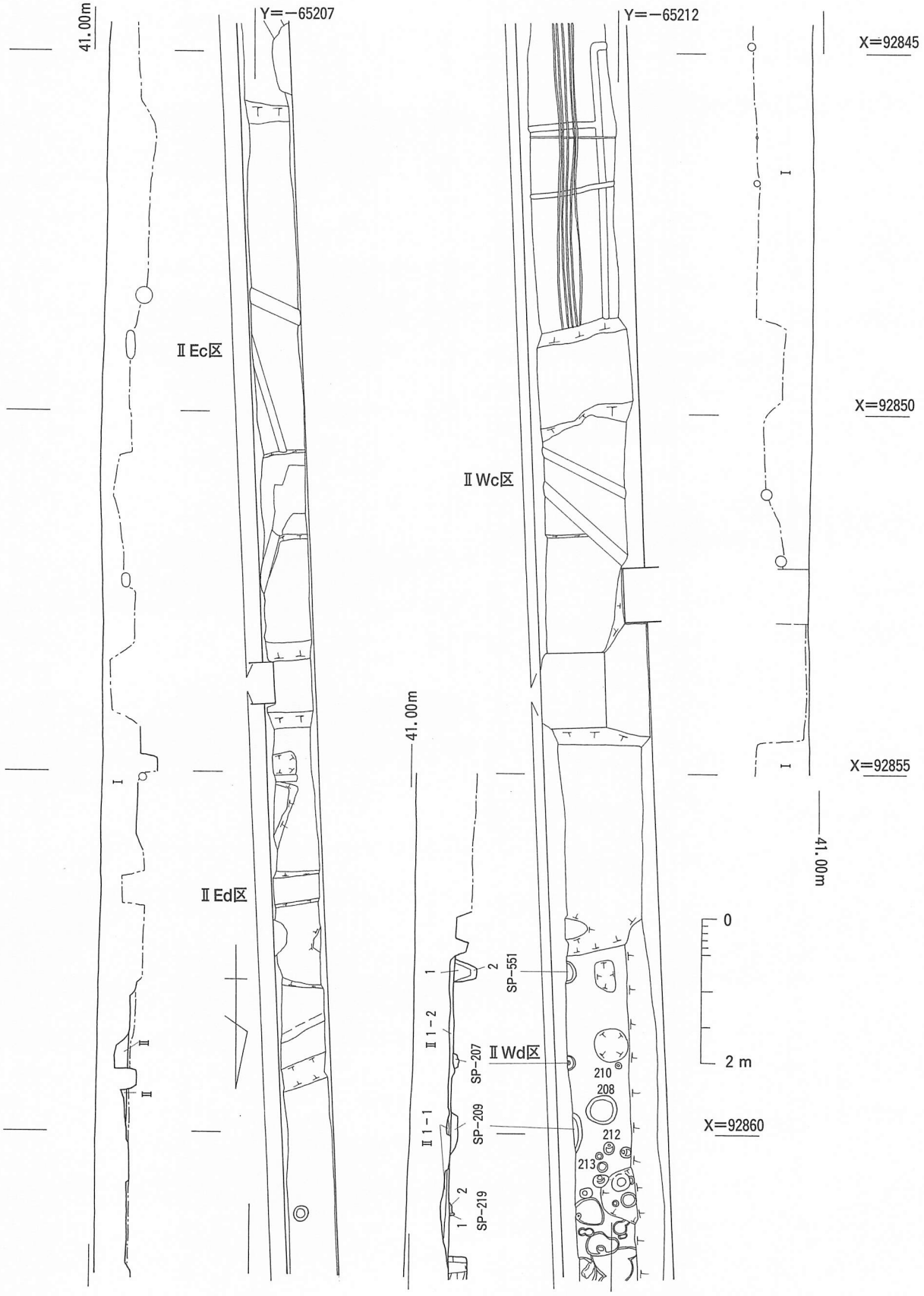


図56　Ⅱ区実測図(4)（縮尺１/80）（遺構名「SP-」一部省略）

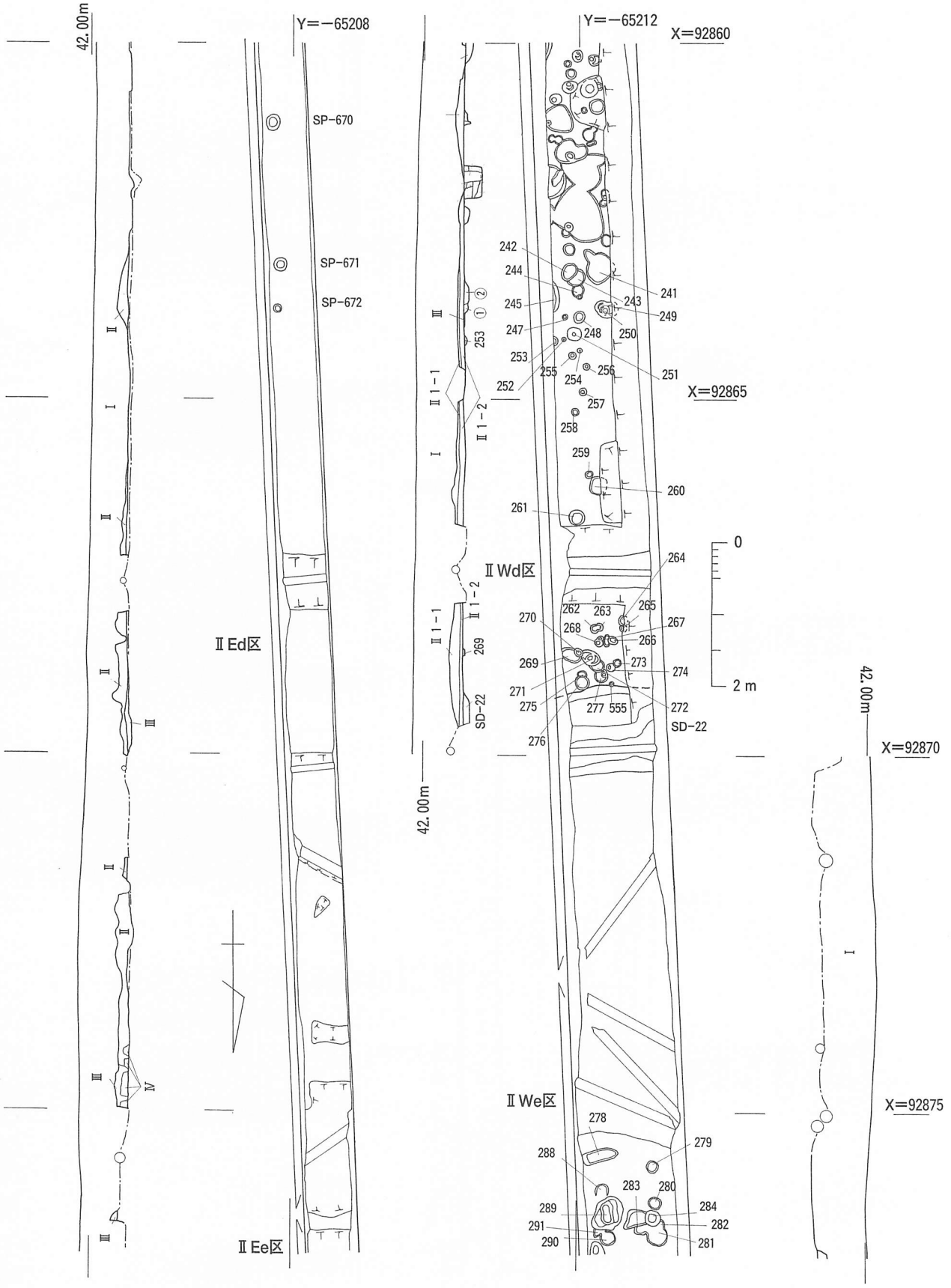


図57　Ⅱ区実測図(5)（縮尺１/80）（遺構名「SP-」省略）